

Agilent EEsof EDA

ADS 2006A (Rev.400)

アップデート/インストール手順書

for HP-UX 11.0/11i, Solaris 8/9/10,

Red Hat Enterprise Linux WS 3.x/4.x,

Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3

(注意) この手順書はシステム・マネージャ向けに書いてあります。一通りお読みいただき、内容を十分ご理解された後、作業を始めてください。

また、このマニュアルは、**Advanced Design System 2006A (Rev.400)**を元に書かれています。

- ◇ この手順書には、Advanced Design System (ADS) 2006A を UNIX、および、Linux システムにインストールする手順が書いてあります。詳細については以下の冊子をご覧ください。

UNIX AND LINUX INSTALLATION

AGILENT ADS 2006A

Part No.E8900-90604

新製品、不具合情報はホームページでご覧いただけます。

<http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

2007年1月10日 作成

アジレント・テクノロジー株式会社

電子計測本部 ソリューション・ビジネス営業統括部

EDA テクニカルサポートグループ 発行

EDA テクニカルサポートの電話番号・FAX 番号・ E-Mail アドレスを再度ご確認ください

名 称 : EDA テクニカルサポート
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1 アジレント・テクノロジー株式会社 八王子本社 MS B5-2-4
電 話 番 号 : 0120-560-119
F A X 番 号 : 0120-890-119
E - M a i l : eesof-japan_support@agilent.com

なお、EDAテクニカルサポートにご質問をいただく場合は、必ずお客さまのシステム・ハンドル番号を受付にお伝えください。また、EDA テクニカルサポートでは、OS (HP-UX, Solaris, Linux, Windows) に関するご質問は承っておりませんので予めご了承ください。

EDA テクニカルサポートへご質問の FAX を送信する場合は、本手順書の **8-2 節「EDA テクニカルサポート サポート依頼 FAX シート」** をご利用いただくと便利です。

次の問題確認項目を参考にしていただくとより早いご回答が期待できます

- (1) 何をしようとしていましたか。
- (2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
- (3) 何が起きていますか。
- (4) どんなエラー・メッセージ、エラー番号が出ていますか。
そのエラー・メッセージはOS側のものですか、それともソフトウェア側のものですか。
そのエラー・メッセージはどこに表示されていますか。
データベースで検索するため、エラー・メッセージは正確にお知らせください。
- (5) この問題はいつから発生していますか。
- (6) この問題はときどき発生しますか、または必ず発生しますか。
- (7) ときどき発生する場合は、どんな時に発生しますか。
- (8) 今までには正常に動作していましたか、または今回が初めてのご使用ですか。
- (9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定など)
- (10) すでに何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。

Agilent EEsof EDA
Advanced Design System
ADS 2006A (Rev.400)
アップデート/インストール手順書

for HP-UX 11.0/11i, Solaris 8/9/10,
Red Hat Enterprise Linux WS 3.x/4.x
Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3

2007年1月10日 作成
アジレント・テクノロジー株式会社
電子計測本部 ソリューション・ビジネス営業統括部
EDA テクニカルサポートグループ 発行

Mentor Graphics は、Mentor Graphics Corporation の商標です。
Microsoft®、Windows®、MS Windows®、Windows NT®、MS-DOS®は、Microsoft Corporation
の登録商標です。
Pentium®は、Intel Corporation の登録商標です。
PostScript®、Acrobat®は、Adobe Systems Incorporated の商標です。
UNIX®は、Open Group の登録商標です。
Java™は、Sun Microsystems Inc.の商標です。
SystemC®は、Open SystemC Initiative, Inc.の登録商標です。
MATLAB®は、The Math Works, Inc.の登録商標です。

その他、会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

目次

1章 トピックスと手順の概要	5
1-1 トピックス	5
1-2 ADS 2006A の重要な注意事項	8
1-3 ADS 2006A リリース版 (310.400) の注意点	13
1-4 インストール/アップデートの流れ	16
2章 アップデート前の準備	17
2-1 梱包物の確認	17
2-2 必要なハードウェア/ソフトウェア	18
2-3 ハードウェア構成の確認	24
3章 ADS 2006A のライセンス・コードワード	27
3-1 概要	27
3-2 ADS 2006A ライセンスに関する Q&A	28
4章 インストール/アップデート作業	32
4-1 概要	32
4-2 インストール・メディアの準備	33
4-3 アップデート前の準備 (ファイルのバックアップ)	34
4-4 ライセンス管理デーモン・プログラムの停止	34
4-5 古いバージョンのソフトウェア削除	34
4-6 CD-ROM のマウント	35
4-7 インストールの実行	36
4-8 参考; ADS を複数のパーティションにインストールする方法	49
4-9 参考; インストール・ファイル・セット一覧	50
4-10 参考; 後から一部のファイル・セットをインストールする方法	53
4-11 FLEXid ドライバのインストール (Red Hat Enterprise Linux WS のみ)	54
5章 ライセンス(FLEXnet)の設定	56
5-1 概要	56
5-2 FLEXnet の概念	59
5-3 ホスト名、CPU-ID の確認方法	62
5-4 ライセンス・ファイル (license.lic) の編集	65
5-5 ライセンス・サーバの起動	71
5-6 FLEXnet ログの確認とトラブルシューティング	73
5-7 FLEXnet を OS 起動時に自動起動する方法	79
5-8 冗長ライセンス・サーバの設定	80
5-9 ライセンス・クライアントでの設定	81
5-10 参考; ライセンス・ファイルを結合(マージ)する方法	84
5-11 付録; FLEXnet (FLEXlm) でよくあるご質問とその回答 (FAQ)	88
6章 ユーザ環境の設定と動作確認	102
6-1 概要	102
6-2 ユーザ毎の環境設定	102
6-3 複数のバージョンの ADS を使用する場合の環境設定	105

6-4	License Preference Tool の使い方	106
6-5	ADS の起動 (動作確認)	110
6-6	参考; ADS のプロジェクト・ファイルの構成	119
6-7	プリンタの登録	120
6-8	参考; 使用しているプリンタがリストにない場合は?	127
6-9	画面イメージのファイル出力	129
6-10	ADS が起動しない場合の原因と対策	131
7章	付録	141
7-1	リモート・シミュレーションの設定方法	141
7-2	カーネル・パラメータの確認、および変更方法 (HP-UX)	148
7-3	ADS がハングアップした場合	151
7-4	FLEXnet ユーティリティの使用法	153
7-5	IC-CAP の外部シミュレータとして ADS 2006A を使用する場合	163
7-6	ADS 2006A 製品・コードワード対応	164
7-7	参考; FLEXnet ライセンス発行の仕組み (Imgrd、agileesofd の動作)	169
7-8	インターネット (WWW) を利用した情報提供のお知らせ	171
7-9	Agilent EEsof ナレッジセンターのご案内	172
8章	コードワード発行依頼と EDA テクニカルサポートご利用案内	175
8-1	コードワード発行依頼の方法	175
8-2	EDA テクニカルサポート サポート依頼 FAX シートの使い方	180
8-3	EDA テクニカルサポートを有効にご利用いただくために	181

1章 トピックスと手順の概要

1-1 トピックス

- Advanced Design System (ADS) 2006Aでは、下記のような機能改善・追加が図られています。
- ADS ヘデザイン・トランスファー可能な Eagleware GENESYS デザイン・ツールへアクセス
 - **Eagleware GENESYS デザイン・ツールへアクセス** — Spectrasys、WhatIF、および Synthesis (回路合成) ツールが ADS の使用と合わせてご利用頂けます。
 - **ADS ヘデザイン・トランスファー** — SPECTRASYS、WhatIF、および Synthesis ツールを使用して生成された設計ファイルは、それを基に ADS にて詳細設計をするためにトランスファーできます。
 - **Eagleware GENESYS デザイン・ツール**
 - **SPECTRASYS** — SPECTRASYS は RF ブロック・レベルのシミュレータです。SPECTRASYS は RF 設計において、ルートとコーズ解析が効率的に行えるツールです。
 - **WhatIF** — WhatIF はスプリアス・フリーの周波数帯を瞬時に検出する周波数プランニング・シミュレータです。WhatIF により手作業によるスプレッドシートとチャートに比べて大幅に解析期間を短縮します。
 - **回路合成** — 下記のような回路の合成を瞬時に行います: S/FILTER (M/FILTER + FILTER)、A/FILTER、EQUALIZE、MATCH、OSCILLATOR、Advanced Transmission Line、SIGNAL CONTROL、および MIXER。
- 回路シミュレーション
 - **デバイス・モデル** — 新しいアクティブ・デバイス・モデルが ADS と RFDE 2006A でサポートされます。
 - BJT: HICUM 2.2
 - MOS: BSIM 4.5, BSIM 3v3.3, PSP.102
 - ダイオード: PIN および **ステップ リカバリ (SRD)**
 - **64-bit シミュレータ サポート** — リニア/ノンリニア回路シミュレータ、および Momentum 電磁界シミュレータについてサポートされ、大規模な回路の解析に対応します。
 - **周波数分周器** — 周波数分周器を含む回路のノンリニア・シミュレーションでの収束性が向上いたしました。
 - **トランジェント・シミュレーション** — スピードと収束性を改良。今後の改良はオフサイクルで発表予定です。

□ ADS の設計環境とデータ表示

- **コア ADS 環境** – 高速パン、ズーム、および設計の開始。スピード、信頼性に対するデータベースの長期的改良。
- **データ表示** – マーカーによる min/max 検索機能。性能、および、トレース履歴の改良。

□ レイアウトと物理的デザイン

- **インタフェース・ドライバの向上** – Physical Connectivity Engine (PCE) 駆動時においても、大規模メモリを使用することなく、大規模 MMIC の全体のファイルなども、問題なく開くことができるようになりました。
 - PCE のトラブル・シューティング – PCE は DC 経路、コモン・ノード、迷路接続をハイライト表示します。ピアとレイヤを追ってノードを探索します。
- **IFF トランスレータと SPICE ネットリストのインポート/エクスポート** – これらのモジュールが ADS の標準の機能となりました。
(上記製品のライセンス・コードワードは不要となります。ただし、2006Aのライセンス互換性により旧バージョンの ADS / RFDEでこれらの機能をご利用いただく場合は、別途該当機能のライセンス・コードワードの発行（無償）が必要となりますので、ご注意ください)

□ ADS から直接 Knowledge Center 情報にアクセス

- **リアルタイム情報検索** - エラー・メッセージをクリックして、ADS から Agilent EEsof Knowledge Center にエラー・メッセージのテキストを送信できます。
- **Knowledge Center の応答: 毎日 24 時間対応** – Knowledge Center は即座にエラー・メッセージに関するサポート・ドキュメントのリストを返送します。

□ Momentum

- **"ビア"レイヤの 2 次元電流 (3 次元効果)** – ボード/パッケージ内およびエアー ブリッジなどの IC 構造内での多層配線における信号経路の精度の改善。
- **グランド基準** – 互換性のある部品のレイアウトはグランド基準が保持されます。
- **Windows XP x64 edition OS サポート**
- **マルチポートの設計時の使いやすさ** – ポートの設計に関する操作性が、大幅に改良されました。
- **Cadence 社の Assura との互換性** – Momentum と、Cadence 社の Assura と互換性が向上いたしました。

□ システム設計

- **ワイヤレス・ライブラリ** — HSPA（アップおよびダウンリンク）、802.11n、Fixed WiMax (802.16d)、Mobile WiMax (802.16e) などが新たに加われました。UWB/WiMedia はオフサイクルの発表が予定されています。
 - E8887 HSPA (High-Speed Packet Access) のワイヤレス・ライブラリ
 - E8871 802.11n のワイヤレス・ライブラリ
 - E8869 Mobile WiMax のワイヤレス・ライブラリ
 - E8870 Fixed WiMax のワイヤレス・ライブラリ
- **Ptolemy マルチレート・シミュレーション・スケジューラ** — この新しいシミュレーション・スケジューラにより大規模マルチレート・システムに対して大幅な改善が可能となります。
- **スキマティックにテスト ベンチをエクスポート** — DSP ソースとワイヤレス・テスト・ベンチ (WTB) を Ptolemy から ADS アナログ/RF スキマティックにエクスポートします。
- **Matlab インポート・ウィザード** — Matlab インポート・ウィザードにより、Matlab IP を容易に Ptolemy 上にインポートできるようになります。

その他、ADS 2006A での変更等の詳細につきましては、下記の WEB サイトをご覧ください。

ADS 2006A What's New (日本語版)

http://eesof.tm.agilent.com/products/ads2006a_jp.html

1-2 ADS 2006A の重要な注意事項

(1) サポートが廃止されたプラットフォーム

ADS 2006A では、下記プラットフォームのサポートが廃止されています。

<p>Red Hat Linux 7.2</p> <p>Red Hat Linux 7.3</p> <p>Red Hat Linux 8.0</p>

(2) 新たにサポートするプラットフォーム

ADS 2006A では、下記プラットフォームのサポートが追加されています。

<p>Microsoft Windows® XP Professional x64 edition</p> <p>Red Hat Enterprise Linux WS 3.x (64bit 版)</p> <p>Red Hat Enterprise Linux WS 4.x (32bit 版 / 64bit 版)</p> <p>Novell SUSE® Enterprise Linux Server 9.3 (32bit 版 / 64bit 版)</p>

64bit OS に関しては、64bit CPU アーキテクチャとして AMD64、Intel EM64T、Sun SPARC にそれぞれ対応いたします。

(3) 64bit オペレーティング・システムのサポートについて

ADS 2006A は、以下の **64bit オペレーティング・システム**に正式に対応いたしました。

- Microsoft Windows® XP Professional x64 edition
- Solaris 8 / 9 / 10 (64bit サポートを有効化)
- Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x (AMD64/EM64T 対応版)
- Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (AMD64/EM64T 対応版)

ただし、**64bit ネイティブ・コード化されたのは、下記シミュレーション・エンジンのみ**で、残りの機能（ユーザ・インターフェース等）は 32bit 互換モードで動作いたします。

- 回路シミュレータ (hpeesofsim)
- Momentum 電磁界シミュレータ
- Ptolemy システム・シミュレータ [Windows® XP x64 を除く]

これに伴い、ADS 2005A に付属していた、64-bit Momentum 解析エンジンのインストール CD は、廃止になっております。

(4) 将来の OS サポート予定について

以下の情報は、次期バージョン、もしくは、Update Release による対応（対応終了）に関するものですが、確定情報ではございません。予めご了承ください。

ADS / RFDE 2006A は、HP-UX をサポートする最後のバージョンとなる予定です。詳細については、下記ウェブ・ページのご案内をご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-hpux-disco>

Windows Vista™ OS への対応については、現在検討中です。

Windows® 2000 のサポート終了を検討しております。

(5) ライセンスの注意事項

■ ADS 2006A 用のライセンスについて

ライセンス・マネージャのバージョンが、FLEXnet v10.1.3 から **FLEXnet v10.8** に変更されました。

また、ライセンス・コードワードのバージョンが、v2.35 から **v2.6** に変更されました。

これに伴い、ADS 2006A を実行する為に、**新しいライセンス・コードワードの発行が必要**になります。必ず、インストール作業を行う前に、ライセンス・コードワードの発行手配を行ってください。

ライセンス・コードワードの発行手配方法については、

8-1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご参照ください。

■ ライセンスの互換性について

ADS 2006A のライセンス・コードワードは、二つ前の世代の ADS に対する互換性 (LBC: License Backward Compatibility) を持っております。

これにより、**ADS 2005A、および、ADS 2004A は、ADS 2006A のライセンス・コードワードでご利用いただくことができます**。ただし、ADS 2006A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルをご利用いただくことはできません。

ADS 2003C 以前のバージョンについてはサポートいたしませんので、ご注意ください。

ADS license \	ADS 2006A	ADS 2005A	ADS 2004A	ADS 2003C	ADS 2003A	ADS 2002C	ADS 2002
ADS 2006A	○	○ ¹	○ ¹	×	×	×	×
ADS 2005A	×	○	○ ²	○ ²	○ ²	×	×
ADS 2004A	×	×	○	○ ³	○ ³	×	×
ADS 2003C	×	×	×	○	○ ⁴	×	×
ADS 2003A	×	×	×	○	○	×	×
ADS 2002C	×	×	×	×	×	○	○
ADS 2002	×	×	×	×	×	○	○

- 注意：1 ADS 2006A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 2 ADS 2005A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 3 ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 4 ADS 2003C で削除された機能はご利用いただけません。

(6) プロジェクト・ファイルの互換性

ADS のプロジェクト・ファイルは基本的に上位互換となっておりますが、**ADS 2003C 以降、直前のバージョンとのデザイン・ファイル互換性が強化されております。**

これにより、**ADS 2006A で作成したプロジェクト・ファイルは、ADS 2005A、ADS 2004A、および、ADS 2003C** でそのまま読み込んで、編集・解析等を行うことができます。但し、以下の点にご注意ください。

- ・ 下位互換性を持つのは、アナログ/RF回路解析のデザイン・ファイルのみです。システム解析のデザイン・ファイルについては、下位互換性は持ちません。
- ・ 旧バージョンで ADS 2006A のデザイン・ファイルを開いた場合、2006A でパラメータ仕様変更されたインスタンスが含まれていると、警告と対象インスタンスのリストを示すダイアログ・ボックスが表示されます。
- ・ ADS 2006A で新規追加されたインスタンスが含まれるデザイン・ファイルを開いた場合、旧バージョンには対応するインスタンスがありませんので、シンボル等が正しく表示されません。対象のインスタンスは削除するか、別のインスタンスに置換してご利用ください。

ADS 2003A 以前のバージョンでは、ADS 2006A で作成・編集したプロジェクト・ファイルを開くことはできません。

ADS 2005A 以前で作成したプロジェクト・ファイルは、ADS 2006A でもそのまま読み込んで使用することができます。

ADS 2006A で以前のバージョンのプロジェクト・ファイルを開く場合は、バックアップを取ってから行うよう、お願いいたします。

(7) MDS、および、SeriesIV Migration Tool の廃止

弊社旧製品 MDS (Microwave Design System)、および、SeriesIV (Touchstone、Libra、CDS) で作成された回路図等を ADS対応に変換する **Migration Tool は、ADS 2005A 以降廃止となり、付属していません。**

MDS、SeriesIV で作成されたリソースを ADS でご利用いただく場合は、ADS 2004A 以前のバージョンに添付の Migration Tool をご利用ください。

(8) E8970L RFIC DynamicLink for Cadence をご利用のお客様へ

本項は、ADS の **E8970L RFIC DynamicLink for Cadence 製品 (旧製品番号 E8970A/AN) をご利用いただいているお客様のみ**、お読みください。

弊社製品 RFDE にて DynamicLink機能をお使いのお客様は、対象外となります。

ADS では、単体製品 E8970L の他、下記の LTP(Limited Term Package)製品にも、RFIC DynamicLink のライセンスが含まれております。

- ・ E5771TBL RFIC+DG (Variable Term)
- ・ E5772TBL RF&Microwave+DG (Variable Term)
- ・ E5773TBL CommSys/DSP+DG (Variable Term)
- ・ E5774TBL Integrated Design+DG (Variable Term)
- ・ E5776TBL MMIC Design+DG (Variable Term)

■ 対応する Cadence Analog Environment のバージョン

ADS 2006A の RFIC DynamicLink for Cadenceが対応する Cadence Analog Design Environment は、以下のバージョンです。

- ・ IC 5.1.41 USR3 (CDBA)
- ・ ICOA 5.1.41 USR3 (OpenAccess)

■ 必要な Cadence 社製品のライセンス

RFIC DynamicLink for Cadence をご利用いただく為には、以下の **Cadence社製品のライセンスが必要となります。**

- ・ OASIS_RFDE OASIS Simulation Interface
- ・ 34510 Affirma™ analog design environment
- ・ 300 Virtuoso® layout editor (レイアウト機能を使用する場合)

■ OASIS_RFDE ライセンスの発行について

OASIS_RFDE は、IC 5.0.33 以降、および、ADS 2003C 以降において、従来の OASIS_Simulation_Interface ライセンスに代わって、RFIC DynamicLinkの実行に必要なになったライセンスです。

ADS 2006A の RFIC DynamicLink は、**OASIS Simulation Interface ライセンスでは動作いたしません**ので、ご注意ください。

OASIS Simulation Interface 製品、および、RFIC DynamicLink for Cadence 製品をご所有のお客様には、日本ケイデンス社から無償で提供されますので、下記メール・アドレスに発行請求の電子メールをお送りください。

メール・アドレス：**om_oa_update_jp@cadence.com**

記載必要事項：**ご連絡先**（住所／会社名／ご所属／ご氏名／電話番号／FAX番号）

ライセンス・サーバ ID

（Analog Design Environment 等の Cadence社製品のライセンス用）

OASIS_RFDE ライセンスの本数

(9) ADS 2006A Early Access 版をご利用いただいていたお客様へ

ADS 2006A の正式リリースに伴い、**ADS 2006A Early Access 版の評価試用期間は終了**しております。

必ず、アンインストールしていただきますよう、お願いいたします。

特に、Windows 版 ADS 2006A のインストール・プログラムは、**ADS 2006A Early Access 版がインストールされている状態では動作いたしません**ので、ご注意ください。

Early Access 版のライセンス・コードワードは正規ライセンスと互換性を持っておりますので、正式リリース版の ADS 2006A も動作いたします。ただし、評価用である為、有効期間は短く制限されておりますので、正式版への移行に伴い、

8-1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご参照の上、ライセンス・コードワードの発行依頼を行ってください。

1-3 ADS 2006A リリース版 (310.400) の注意点

ここでは、ADS 2006A のリリース・バージョンである Rev.310.400 に関する、重要な注意事項を記します。

■ ライセンスに関する制限事項

- (1) **Windows® XP Professional x64 edition 上で、64bit 版シミュレータ使用時に USB 接続ハードウェア・キーを認識できない不具合があります。**

【現象】

Microsoft Windows® XP Professional x64 edition 上で ADS 2006Aをプログラム・グループの **Advanced Design System (64bit Simulations)** アイコンから起動した場合、**以下のシミュレーションを実行した場合に、USB ハードウェア・キーを正常に認識できずにライセンス・エラーを発生する**問題があることが確認されております。

- 全ての回路シミュレーション
- Momentum 電磁界シミュレーション

32bit 互換モードのシミュレータ動作に関しては、問題ございません。

【正式対処予定】

本件は ADS 2006A の **Update Release で対処予定**となっていますが、提供時期は決定されておりません。情報が得られ次第、ご案内いたします。

【暫定対処方法】

弊社 EDA コードワード発行受付にて、**不具合解決までの期間ご利用いただける、コンピュータの LAN-ID に対応するテンポラリのライセンス・コードワード**（有効期間最長 3 ヶ月）を発行いたします。

お使いのコンピュータの **LAN-ID、システムハンドル番号、および、現在お持ちのハードウェア・キーの FLEXid 番号**を記載し、**”ADS 2006A Windows XP x64 Edition 上の USB ハードウェア・キー不具合対処の件”**と書き添えてご連絡ください。

連絡先については、(4) 項をご参照ください。

- (2) **Linux OS では、USB 接続ハードウェア・キーを認識できない不具合があります。**

【現象】

FLEXnet ライセンス・マネージャ v10.8 の制限により、**サポートされている全ての Linux OS上でADS 2006A からUSB ハードウェア・キーを正常に認識できず、ADSが起動できない**問題があることが確認されております。

【正式対処予定】

本件は ADS 2006A の **Update Release で対処予定**となっていますが、提供時期は決定されておりません。情報が得られ次第、ご案内いたします。

【暫定対処方法】

2006年12月1日付で、本問題に対する Hot Fix

hotfix-092706-linux-dongle

を弊社 EEsof ナレッジセンタから提供を開始しております。

ただし、**この Hot Fixは 32bit 版 ADS 2006A に対してのみ、有効になっております**ので、ご注意ください。

ナレッジセンタの利用方法については、7-9節「Agilent EEsof ナレッジセンタのご案内」をご参照ください。

64bit 版 Linux OS をご利用のお客様、または、上記 Hot Fix をご利用いただかないお客様については、弊社 EDA コードワード発行受付にて、**不具合解決までの期間ご利用いただける、コンピュータの LAN-ID に対応するテンポラリのライセンス・コードワード**（有効期間最長 3ヶ月）を発行いたします。

お使いのコンピュータの LAN-ID、システムハンドル番号、および、**現在お持ちのハードウェア・キーの FLEXid 番号**を記載し、**”ADS 2006A Linux OS 上の USB ハードウェア・キー不具合対処の件”**と書き添えてご連絡ください。

連絡先については、（4）項をご参照ください。

- (3) **Windows® XP Professional x64 edition 上では、パラレル・ポート接続のハードウェア・キーはサポートされません。**

【状況】

パラレル・ポート接続型のハードウェア・キーは、青色（FLEXID 7-xxxxxxx）、黒色（FLEXID 8-xxxxxxx）共に、Windows® XP Professional x64 edition 上ではサポートされません。

【対処方法】

これまでパラレル・ポート接続型ハードウェア・キーをご利用いただいていた、OS を Windows® XP Professional x64 Edition に変更された場合は、弊社 EDAコードワード発行受付にて、コンピュータの LAN-IDに対応するライセンス・コードワードへのプラットフォーム・チェンジを無償にて承ります。

お使いのコンピュータの LAN-ID、システムハンドル番号、および、**現在お持ちのハードウェア・キーの FLEXid番号**を記載し、**”ADS 2006A Windows XP x64 Edition使用に伴うプラットフォーム・チェンジの件”**と書き添えてご連絡ください。

連絡先については、（4）項をご参照ください。

また、USB接続型ハードウェア・キーへのプラットフォーム・チェンジも無償にて承りますが、下記の点にご注意ください。

- USB接続型ハードウェア・キー(E8900K Opt020) の購入**が必要です。
- ADS 2006A リリース版**では、（1）項、および、（2）項に記載した **USB接続ハードウェア・キーに関する不具合**がございます。

現状では、Windows® XP x64 edition上で **64 bit 版シミュレータが、Linux OS上では全機能がご利用いただけません。**

USB接続型ハードウェア・キーのご購入に関しては、EDA製品担当営業にご相談ください。

(4) **不具合対策用ライセンス発行、および、プラットフォーム・チェンジ申請のご連絡先。**

お使いのコンピュータの LAN ID、システムハンドル番号、および、現在お持ちのハードウェア・キーの FLEXid 番号を添えて、下記まで電子メール、または、FAX にてご依頼ください。

アジレント・テクノロジー(株) カスタムコンタクトセンタ
サポートアグリーメントグループ EDAコードワード発行受付
E-Mail : japan_codeword@agilent.com
FAX : 0120-802-016
TEL : 0120-421-345 「電子計測 計測お客様窓口」

■ Add-on モジュールに関する注意事項

(1) **下記製品の ADS 2006A 用追加モジュールは、まだ提供準備ができておりません。**

下記製品は Add-on モジュールとして弊社ナレッジセンタより提供しておりますが、ADS 2006A リリース時点（2006年 11月）では、ADS 2006A 対応版は公開しておりません。

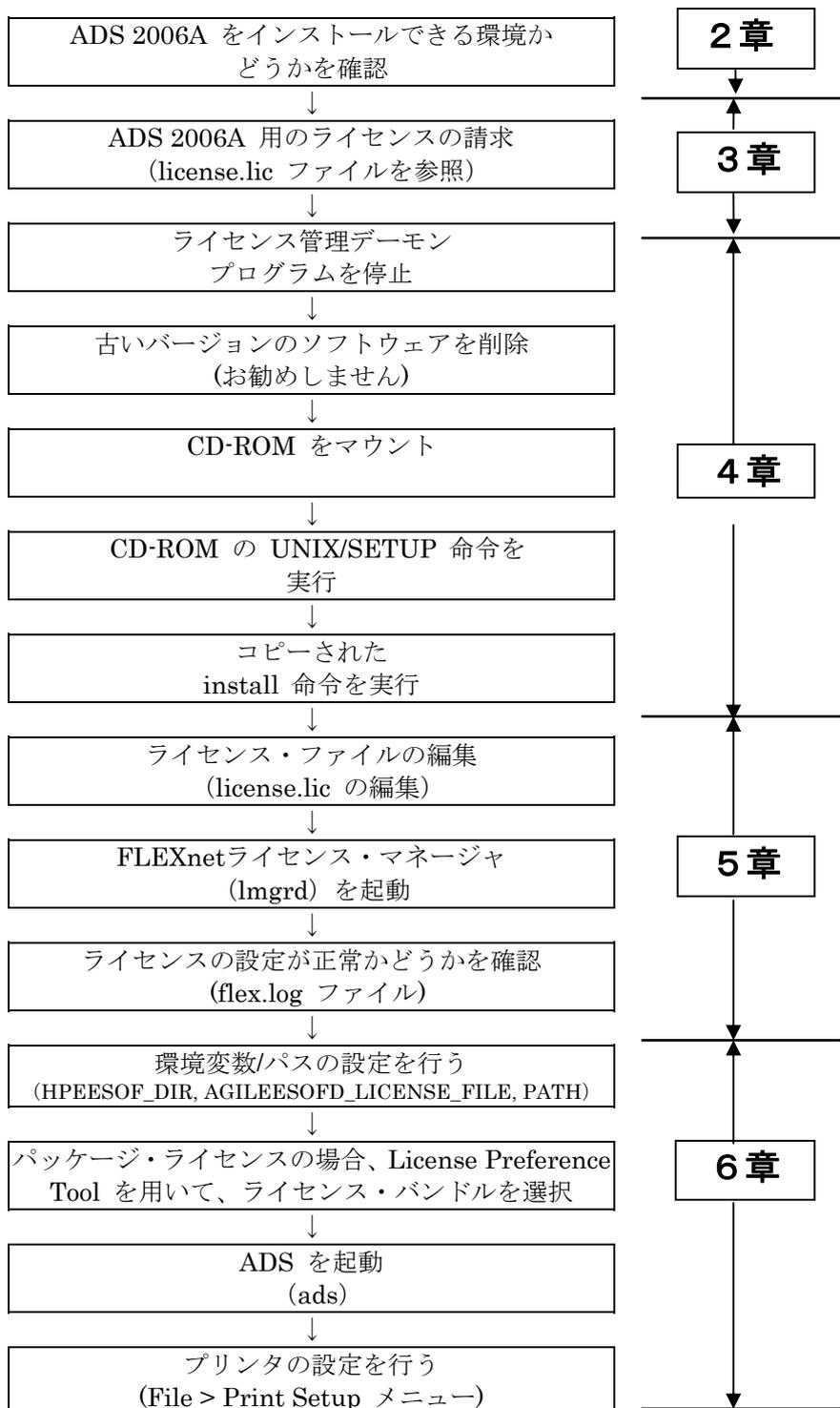
- E8887L HSPA Wireless Library
- E8869L Mobile WiMAX Wireless Library
- E8870L Fixed WiMAX Wireless Library
- E8871L 802.11n Wireless Library
- E8933L WiMEDIA Wireless Library （新製品）

提供開始は、2007年 2月初旬を予定しております。

E8933L を除く各製品を ADS 2005A でご利用いただいているお客様は、ADS 2006A 版提供開始まで、ADS 2005A にてご利用いただきますよう、お願いいたします。

1-4 インストール/アップデートの流れ

インストール/アップデート手順の概要は以下のようになります。



2章 アップデート前の準備

2-1 梱包物の確認

(1) 付属 CD-ROM

ADS 2006A の製品パッケージ(アップデート・メディア・キット)には、計 7 枚の CD-ROM が同梱されています。7 枚とも揃っているか、最初に必ず確認してください。また、CD-ROM の内容は以下のようになっています。

パーツ番号	タイトル	内容
E8900- 10271	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: PC Setup, Windows® 2000, Windows® XP (x64 ADS Momentum, Circuit Simulation only)	Windows 用の 1 枚目
E8900- 10272	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 2: PC Setup, Windows® 2000, Windows® XP (x64 ADS Momentum, Circuit Simulation only)	Windows 用の 2 枚目
E8900- 10273	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: HP-UX 11.0 / 11i	HP-UX 用の 1 枚目
E8900- 10274	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: Red Hat Enterprise Linux 3,4 ; Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (64-bit AMD Opteron and Intel EM64T) (x64-bit support for simulators only)	Linux 用の 1 枚目
E8900- 10275	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: Solaris 8/9/10 (x64-bit support for simulators only)	Solaris 用の 1 枚目
E8900- 10276	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 2: HP-UX, Linux, Solaris	UNIX / Linux 用の 2 枚目 (共通)
E8900- 10277	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Connection Manager 2006A Server Application PC Program Disk Windows® 2000, Windows® XP (32-bit)	Connection Manager Server インストール 用

- **Windows® XP Professional x64 edition** へのインストールには、**E8900-10271**、**E8900-10272** をご利用ください。
- **Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x**、**Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3** の各 **32bit 版**、**64bit 版**へのインストールには、**E8900-10274**、**E8900-10276** をご利用ください。

(2) 付属冊子

ADS 2006A製品パッケージには、以下の計2冊の冊子が付属しています。

- UNIX AND LINUX INSTALLATION (P/N:E8900- 90604)
- WINDOWS INSTALLATION (P/N:E8900- 90605)

これらの付属物は、製品(パッケージ)の出荷時期によって予告無く変更される場合がありますのでご注意ください。不明な点等ございましたら、弊社窓口までお問い合わせ下さい。

2-2 必要なハードウェア/ソフトウェア

ADS 2006A を UNIX / Linux ワークステーションにインストールするために必要なハードウェア、および、ソフトウェアの構成を示します。

(1) Hewlett Packard社製ワークステーション

ADS 2006A は、下記の Hewlett-Packard 社製 オペレーティング・システムに対応しております。

HP-UX 11.0 , 11i (11.11) (PA-RISCプロセッサ・ベース)

HP-UX については、**64bit 版 ADS 2006A は非対応**となります。

Intel Itanium®プロセッサ対応のオペレーティング・システムについては、非対応となります。

重要 HP-UX 環境では、下記のパッチをインストールしないと、ADS 2006A のインストール、および、実行を行うことができません。

<HP-UX 11.0 の場合>

PHSS_30048	s700_800	11.00	ld(1) and linker tools cumulative patch
PHSS_29483	s700_800	11.X	HP aC++ Compiler (A.03.52)
PHSS_28879	s700_800	11.X	HP aC++ -AA runtime libraries (aCC A.03.61)

<HP-UX 11i (11.11) の場合>

PHSS_30049	s700_800	11.11	ld(1) and linker tools cumulative patch
PHSS_29483	s700_800	11.X	HP aC++ Compiler (A.03.52)
PHSS_28880	s700_800	11.11	HP aC++ -AA runtime libraries (aCC A.03.61)

パッチの番号、名称は、更新に伴い、それぞれ変更される場合がございます。

最新のパッチ情報、入手方法に関しては、Hewlett-Packard社の下記 WebPageにてご確認ください。なお、ご利用にはユーザ登録（無償）が必要です。

<http://www2.itrc.hp.com/service/patch/mainPage.do>

・ Hewlett-Packard 社製ワークステーションのシステム要件

最新情報については、下記 Webページをご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs>

Advanced Design System 2006A > Installaiton > UNIX and Linux Installation

ディスプレイ	High-resolution Color only 推奨 解像度 1024x768以上の 17インチ・ディスプレイ
RAM	推奨最小容量 1GB 以上。メモリの追加により、性能が向上する場合があります。
スワップ・スペース	推奨最小容量 512MB 以上。解析対象の回路規模によっては、追加が必要となる場合があります。
ハード・ディスク	ADS 2006A のインストールに必要なディスク領域は、下記の通りです。 ・ 最小インストール 1.3GB ・ 標準インストール 2.5GB ・ 完全インストール 3.6GB
Webブラウザ	オンライン・ドキュメントの閲覧に必要。 ADS 2006A は Netscape 4.7x をインストールします。 推奨ブラウザは Netscape 4.5以上、Mozilla 1.7以上、または、Firefox 1.5.0.4以上です。 Java Virtual Machine、および、JavaScriptが有効になっている必要があります。 Sun Javaプラグインをご利用の場合は、バージョン 1.3以降をインストールしてください。
セキュリティ・デバイス	外部デバイスは不要です。
プリンタ/プロッタ	Xprinterにより、PostScript®, HPGL2, PCL対応プリンタ、および、プロッタをサポートします。
インストール・メディア	CD-ROM (CD-ROMドライブが必要です)
ウィンドウ・マネージャ	HP VUE または CDE / X-Window System V.X11R5
C/C++ コンパイラ (カスタム・モデル開発を行う場合のみ)	C++: aC++ または B3910B A.03.63 HP ANSI C++ C: cc または B3899BA B11.11.12 HP C/ANSI C Developer's Bundle
HDLシミュレータ (HDL cosimulation 実行時のみ)	・ Mentor Graphics ModelSim SE 5.8d ・ Cadence VerilogXL LDV 5.1 [05.10-s014] ・ Cadence NCsim LDV 5.1 [05.10-s014]

(2) Sun Microsystems社製ワークステーション

ADS 2006A は、下記の Sun Microsystems 社製 オペレーティング・システムに対応しております。

Solaris 8, 9, 10 (SPARCプロセッサ・ベース)

64bit 版 ADS 2006A をご利用の場合は、**64bit サポートを有効**にしてください。

Intelプロセッサ(互換製品を含む)対応のオペレーティング・システムについては、非対応となります。

重要 C/C++ コンパイラ製品を含まない Solaris 環境では、事前に下記のパッチ (或いは、その更新版) をインストールしないと、ADS 2006A のインストール、および、実行を行うことができません。

<Solaris 8 の場合>

- C++ Runtime Library patch for Solaris 8
108434-17 32-Bit Shared library patch for C++
108435-17 64-Bit Shared library patch for C++
- Libthread and libraries patch for Solaris 8
108993-36 LDAP2 client, libc, libthread and libnsl libraries patch

<Solaris 9 の場合>

- C++ Runtime Library patch for Solaris 9
111711-11 32-Bit Shared library patch for C++
111712-11 64-Bit Shared library patch for C++

パッチの番号、名称は、更新に伴い、それぞれ変更される場合がございます。
最新のパッチ情報、入手方法に関しては、Sun Microsystems社の下記 WebPageにてご確認ください。

<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage>

・ Sun Microsystems社製ワークステーションのシステム要件

最新情報については、下記 Webページをご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs>

Advanced Design System 2006A > Installaiton > UNIX and Linux Installation

ディスプレイ	High-resolution Color only 推奨 解像度 1024x768以上の 17インチ・ディスプレイ
RAM	推奨最小容量 1GB 以上。メモリの追加により、性能が向上する場合があります。 ただし、32bit OS環境では利用可能なメモリ領域の最大は、2GBまでとなります。
スワップ・スペース	推奨最小容量 512MB 以上。解析対象の回路規模によっては、追加が必要となる場合があります。
ハード・ディスク	ADS 2006A のインストールに必要なディスク領域は、下記の通りです。 ・ 最小インストール 1.3GB ・ 標準インストール 2.5GB ・ 完全インストール 3.6GB
Webブラウザ	オンライン・ドキュメントの閲覧に必要。 ADS 2006A は Netscape 4.7x をインストールします。 推奨ブラウザは Netscape 4.5以上、Mozilla 1.7以上、または、Firefox 1.5.0.4以上です。 Java Virtual Machine、および、JavaScriptが有効になっている必要があります。 Sun Javaプラグインをご利用の場合は、バージョン 1.3以降をインストールしてください。
セキュリティ・デバイス	外部デバイスは不要です。
プリンタ/プロッタ	Xprinterにより、 PostScript®, HPGL2, PCL対応プリンタ、および、プロッタをサポートします。
インストール・メディア	CD-ROM (CD-ROMドライブが必要です)
ウィンドウ・マネージャ	Motif V.1.1/1.2、Open Windows 3.0、または、CDE
C/C++ コンパイラ (カスタム・モデル開発を行う場合のみ)	C/C++: Sun C++ 5.7 2005/01/07 (Sun Studio 10)
HDLシミュレータ (HDL cosimulation 実行時のみ)	・ Mentor Graphics ModelSim SE 5.8d ・ Cadence VerilogXL LDV 5.1 [05.10-s014] ・ Cadence NCsim LDV 5.1 [05.10-s014]

(3) Linux OSベースの PC

下記の Red Hat 社製、および、Novell 社製オペレーティング・システムに対応しております。

Red Hat Enterprise Linux WS 3.x (32bit、x86 対応版)

Red Hat Enterprise Linux WS 4.x (32bit、x86 対応版)

Red Hat Enterprise Linux WS 3.x (64bit、AMD64/EM64T 対応版)

Red Hat Enterprise Linux WS 4.x (64bit、AMD64/EM64T 対応版)

Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (32bit、x86 対応版)

Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (64bit、AMD64/EM64T対応版)

Intel Itanium®プロセッサ対応のオペレーティング・システムについては、非対応となります。

また、Red Hat Enterprise Linux AS / ES 等のサーバ向け OSについても、非対応となりますので、ご注意ください。

・Linuxベース PC のシステム要件

最新情報については、下記 Webページをご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs>

Advanced Design System 2006A > Installaiton > UNIX and Linux Installation

ディスプレイ	High-resolution Color only 推奨 1024x768以上の 17インチ・ディスプレイ
RAM	推奨最小容量 1GB 以上。メモリの追加により、性能が向上する場合があります。 ただし、32bit OS環境では利用可能なメモリ領域の最大は、2GBまでとなります。
スワップ・スペース	推奨最小容量 512MB 以上。解析対象の回路規模によっては、追加が必要となる場合があります。
ハード・ディスク	ADS 2006A のインストールに必要なディスク領域は、下記の通りです。 ・最小インストール 1.3GB ・標準インストール 2.5GB ・完全インストール 3.6GB
Webブラウザ	オンライン・ドキュメントの閲覧に必要。 ADS 2006A は Netscape 4.7x をインストールします。 推奨ブラウザは Netscape 4.5以上、Mozilla 1.7以上、または、Firefox 1.5.0.4以上です。 Java Virtual Machine、および、JavaScriptが有効になっている必要があります。 Sun Javaプラグインをご利用の場合は、バージョン 1.3以降をインストールしてください。
セキュリティ・デバイス	Macrovision社製 FLEXid Hardware Security Keyに対応。 (USBポート接続) 《注1》 LANインターフェースの MACアドレス(ハードウェア・アドレス)に対するライセンス発行も可能。
プリンタ/プロッタ	Xprinterにより、 PostScript®, HPGL2, PCL対応プリンタ、および、プロッタをサポートします。
インストール・メディア	CD-ROM (CD-ROMドライブが必要です)
ウィンドウ・マネージャ	KDE、または、GNOME
C/C++ コンパイラ (カスタム・モデル開発を行う場合のみ)	C++: gcc Version 3.3.2
HDLシミュレータ (HDL cosimulation 実行時のみ)	・ Mentor Graphics ModelSim SE 5.8d ・ Cadence VerilogXL LDV 5.1 [05.10-s014] ・ Cadence NCsim LDV 5.1 [05.10-s014]

《注1》 セキュリティ・デバイスの制限について

ADS 2006A では、セキュリティ・デバイスの使用において、以下の制限があります。

- ① ADS 2006A リリース版 (Rev.310.400) では、Linux OS 上で USB接続ハードウェア・キーを認識できない不具合があります。

2-3 ハードウェア構成の確認

(1) OS の確認

使用している OS のバージョンを確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
uname -r
```

(2) 測定器との接続について

UNIX / Linux 版 ADS 2006A では、**測定器との接続はサポートしておりません。**

測定器との接続には、Windows® 2000, Windows® XP 版 (32bit 版)をご利用ください。

ただし UNIX / Linux 版でも、Data File Tool を用いて、ファイルを介したデータのやり取りは可能です。

Data File Tool に関する詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs> (EEsof EDA ドキュメントサイト)

Advanced Design System 2006A > Translation & I/O > Data File Tool

(3) メモリの確認

ADS 2006A では、メモリ搭載量として最低 1GB を推奨します。ただし、より快適に動作させるためにはそれ以上のメモリを搭載することを強くお勧めします。

■ HP Workstation の場合

以下のコマンドを実行します。※スーパー・ユーザ(root)で実行してください。

```
/etc/dmesg | more
```

“Memory Information” と書かれた行を探し、メモリ容量を確認します。

HP-UXの初期設定では、一つにアプリケーションに割り当てられるメモリの上限值が、65MBに制限されている場合があります。アプリケーションがより多くのメモリを使用できるようにするには、sam(System Administration Manager)を用いてカーネル・パラメータの **maxdsiz**、**maxtsiz**、および **maxssiz**を、それぞれ搭載メモリ量で許容される最大値に設定してください。

例えば、512MBの物理メモリと 500MBのスワップ領域を持つシステムの場合、**maxdsiz** と **maxtsiz**パラメータを下記のように設定する必要があります。

<物理メモリ合計値>+<スワップ合計値>=512MB+500MB=1012MB

maxssizパラメータについては、**maxdsiz**のおよそ 12%、もしくは設定可能な最大値に設定してください。

sam の使用方法、カーネル・パラメータの詳細に関しては、HP-UXのマニュアルをご参照ください。

■ SUN Workstation の場合

以下のコマンドを実行します。

```
/usr/bin/dmesg | more
```

“avail mem=” か “mem=” と書かれた行を探し、メモリ容量を確認します。

■ Linux PC の場合

以下のコマンドを実行します。※スーパー・ユーザ(root)で実行してください。

/bin/dmesg | more

“Memory” と書かれた行を探し、メモリ容量を確認します。

(4) スワップ領域の確認

ADS 2006A では、最低 512MB のスワップ領域が必要となります。ただし、大規模なデザインや、多層に渡るデザインを解析する場合は、より多くのスワップ領域が必要となります。スワップ領域の大きさを確認するには、以下のコマンドを実行してください。

Workstation	Command
HP-UX 11.0 / 11i	/etc/swapinfo -t
Solaris 8 / 9 / 10	/usr/sbin/swap -s
RHEL WS 3.x / 4.x	/usr/bin/free -t
Novell SLES 9.3	

※スーパー・ユーザ(root)で実行してください。

(5) ディスク容量の確認

必要なハード・ディスク容量は、インストールするコンポーネントによって変わります。ADS 2006A の全てのコンポーネントをインストールする場合は、約 3.7GB のディスク容量が必要となります。

ディスク容量の確認は以下のコマンドを実行してご確認ください。

Workstation	Command
HP-UX 11.0 / 11i	bdf
Solaris 8 / 9 / 10	df -k
RHEL WS 3.x / 4.x	df -k
Novell SLES 9.3	

注意 ADS ではワークエリアとして、/tmp と /var/tmp ディレクトリに、少なくとも 20 ~30MB の空き容量が必要になりますので、ご注意ください。

(6) ADS インストール先ディレクトリの決定

ADSをインストールするディスク・ドライブ、ディレクトリに対し、書き込み権限を持っていることをご確認ください。

- ・ インストールを rootアカウントで行うことは必須ではありません。ただし、インストール CD-ROMのマウント、アンマウント作業でスーパー・ユーザ権限が必要になる場合があります。
- ・ rootアカウントでインストールを行った場合は、全ての ADS構成ファイルが最低限、全てのユーザに対し読み取り可能の属性を持っていることをご確認ください。

インストール・プログラムを再実行することにより、前回インストールしなかった ADSの構成コンポーネントを追加することができます。

インストールの手順と設定オプションに関しては、

4章 「インストール／アップデート作業」

をご参照ください。

注意 インストール・プログラムは、複数プラットフォームに対するインストールには対応していません。
必ず、各プラットフォーム専用のインストール・メディアを使用して、インストール作業を行ってください。

3章 ADS 2006A のライセンス・コードワード

3-1 概要

■ ADS 2006A 用のライセンス・コードワードについて

ADS 2006A を使用するためには、**ADS 2006A 専用のライセンス・コードワードが必要**になります。

ADS 2005A 以前のバージョンのコードワードでは、ADS 2006A を使用することはできませんので、くれぐれもご注意ください。

ADS 2006Aのコードワードは、お客様が ADS 2006Aの使用を開始する時点で発行いたします。**自動的に送付されませんのでご注意ください。**

旧バージョンからの移行準備を整えた上で、ADS 2006Aのインストール作業を実施する前に、**ADS 2006A のコードワード発行手配を行ってください。**

ライセンス・コードワードの請求方法につきましては、

8-1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご覧ください。

コードワードのセットアップ方法につきましては、

第5章「ライセンス(FLEXnet)の設定」

をご覧ください。

■ ライセンス・コードワードと製品の対応について

ADS 2006A ソフトウェアの全てのコンポーネントは、ADS のインストール・メディアがあればインストールすることができます。(一部 add-on モジュールを除く)
しかし、ご利用いただくことができるのは、ライセンスをご購入いただいたコンポーネントのみとなります。

ADS 製品とライセンスの依存性に関する詳細は、以下の URL アドレスにて **ADS License Dependency Table** をご覧ください。PDF 形式のドキュメントが表示されますので、閲覧には Adobe Reader 等のツールが必要です。

<http://www.agilent.com/find/eesof-license-dependencies>

■ その他の注意事項

- ・ HP-UX 11.0 / 11i では、セキュリティの関係でLANインターフェースの LAN ID (MACアドレス) に対してライセンス・コードワードを発行することはできなくなりました。
HP-UX 11.0 / 11i の場合、ライセンス・コードワードはCPUIDに対して発行されます。
- ・ Linux搭載の PCでは、パラレル・ポート接続のハードウェア・キーに対してライセンス・コードワードを発行することはできません。
Linux の場合、ライセンス・コードワードは USB接続ハードウェア・キー、または、LANインターフェースの LAN ID (MACアドレス) に対して発行されます。

3-2 ADS 2006A ライセンスに関する Q&A

この節では、ライセンス・コードワードに関する一般的な疑問や、EEsof EDA 製品(SeriesIV,MDS,ADS)と、コードワードのバージョンの互換性について説明します。

Q. ADS 2005A を使用していますが、ADS 2006A 用に新たなコードワードが必要ですか？

A. はい、必要です。

ADS 2006A は ADS 2005A 以前のコードワードでは**動作しません**。

ADS 2006A を動作させる為には、ADS 2006A 専用のコードワードが必要です。

ADS 2006A のコードワードは、二つ前の世代の ADSに対して互換性を持つので、ADS 2005A、および、ADS 2004A が**動作します**。

しかし、ADS 2006A のコードワードでは、ADS 2003C 以前のバージョンは**動作しません**。

Q. ADS 2006A のコードワードを取得しましたが、インストール済みの ADS 2005A の FLEXnetライセンス・マネージャで動作しますか？

A. いいえ、動作しません。

ADS 2006A のコードワードをご利用いただくには、ADS 2006A に付属する FLEXnet ライセンス・マネージャが必要です。ADS 2006A のインストールを行ってください。

コードワードを取得したプラットフォームを、ライセンス・サーバとしてのみご利用いただく場合は、ADS 2006A をフル・インストールしていただく必要はございません。

Windows®システムでは、インストール・プログラムで Select Features: Custom を選択し、

FLEXnet Files

のみをインストールしてください。インストールに必要なディスク容量は 12.6MB 程度です。

UNIX / Linux システムでは、インストール・プログラムで Components/Option Setup: CUSTOM INSTALLATION を選択し、

FLEXlm licensing software

のみをインストールしてください。インストールに必要なディスク容量は 46.3MB 程度です。

Q. ADS 2006A 用のコードワードを取得しましたが、ADS 2005A 以前のバージョンも使用したいので、ADS 2005A のコードワードも更新したいと思います。ADS 2005A のコードワードの更新はできますか？

A. いいえ、できません。

ADS 2006A 用のコードワードを取得すると、ADS 2005A 以前のバージョンの ADS 用コードワードを更新することはできません。

ADS 2005A、および、ADS 2004A については、ADS 2006A のコードワードで動作しますので、ADS 2005A、ADS 2004A 用のコードワードは破棄して、ADS 2006A 用のコードワードをセットアップしてください。

ADS 2003C 以前のバージョンの ADS、および、SeriesIV、MDS 製品については、発行済みのコードワードの有効期限が切れるまでは、ADS 2006A とこれらの製品を同時にご利用いただくことができます。

Q. 同一のライセンス・サーバに、ADS 2006A 用と ADS 2002C 用のライセンス設定を混在させることは可能ですか？

A. 可能です。

それぞれのライセンス・コードワードは完全に独立していますので、それぞれ独立にライセンスの供給を行うことができます。

複数種類のライセンスを別々に動作させる方法については、

5-11 節「付録；FLEXnet (FLEXlm) でよくあるご質問とその回答 (FAQ)」
の Q5 をご参照ください。

また、ライセンス・ファイルを結合して、一つのライセンス管理デーモンで起動することもできます。こちらの設定に関しては、

5-10 節「参考；ライセンス・ファイルを結合(マージ)する方法」
をご覧ください。

Q. コードワードにはどんな情報が含まれていますか？

A. サーバ・コンピュータの CPU-ID、ノードロック先コンピュータの CPU-ID、製品名、ライセンスの本数、ライセンスの種類(ノードロック、フローティング)、使用開始日、終了日 (=有効期限) 等が含まれています。(一部暗号化されています)
例えば、使用開始日以前、および、終了日以降では使用できません。

Q. なぜコードワードに有効期限があるのですか？

A. 現在、コンピュータの性能と価格は、一年毎に改善されています。
一年前に購入したコンピュータは、今日では一世代前のシステムとなり、決して「最高性能」とは言い切れません。一方、ソフトウェアは、保守契約をお持ちであれば常に最新のバージョンを入手できます。このような時代において、最初にソフトウェアと一緒に購入したコンピュータにコードワードを限定することは、システム運用上あまり良いとはいえません。

そのため、弊社では、コードワードの有効期限が近く、再発行を行うタイミングにおいて、「無料」で新しいプラットフォームに変更するサービスを行っています。

このサービスにより、常に「最高性能」のコンピュータでソフトウェアをお使いいただくことができます。(コードワードの有効期間内のプラットフォーム変更に関しては、有償対応となります)

Q. コードワードの有効期限(長さ)について教えてください。

A. コードワードの有効期限は、基本的には 18 ヶ月です。この 18 ヶ月というのは、前述したコンピュータの進歩の歩幅に依存します。また、弊社では、一年に一回以上のソフトウェア・アップデートを行っております。ソフトウェア・アップデートを行った際に、新たな製品(ライセンス)を追加購入されるお客様も多いため、18 ヶ月という期間に設定しました。

- Q. ADS の各バージョンとライセンス・コードワードの互換性について教えてください。
- A. ADS のライセンス・コードワードは下記のように変遷しております。(ADS 1.3以前は省略)

リリース名	ライセンス コードワード バージョン	Daemon 名	FLEXnet (FLEXlm) バージョン	ライセンス・ファイル指定 環境変数	ライセンス・ファイル デフォルト ロケーション
ADS 1.5	1.5	hpeesofd	7.0g	LM_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/license.dat
ADS 2001	1.7			HPEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2002	1.9	agileesof	7.2h CRO	AGILEESOF_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/
ADS 2002C	2.1				
ADS 2003A	2.3	agileesofd	8.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2003C					
ADS 2004A	2.34	agileesofd	9.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2005A	2.35	agileesofd	10.1.3 CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2006A	2.6	agileesofd	10.8 CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	

ADS 2006A のライセンス・コードワード v2.6 は、二つ前の世代である v2.34 まで下位互換性を提供します。この為、コードワードと製品の対応は、下表のようになります。
(ADS 2001 以前は省略)

ADS license	ADS 2006A	ADS 2005A	ADS 2004A	ADS 2003C	ADS 2003A	ADS 2002C	ADS 2002
ADS 2006A	○	○ ¹	○ ¹	×	×	×	×
ADS 2005A	×	○	○ ²	○ ²	○ ²	×	×
ADS 2004A	×	×	○	○ ³	○ ³	×	×
ADS 2003C	×	×	×	○	○ ⁴	×	×
ADS 2003A	×	×	×	○	○	×	×
ADS 2002C	×	×	×	×	×	○	○
ADS 2002	×	×	×	×	×	○	○

- 注意：1 ADS 2006A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 2 ADS 2005A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 3 ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
 4 ADS 2003C で削除された機能はご利用いただけません。

ADS 2006A 版のライセンス・コードワードの例を示します。

■ ADS 2006A 用コードワード (ADS 2006A / 2005A / 2004Aが使用可能)

SERVER adslic 7812392f

VENDOR agileesofd

INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 1 ¥

VENDOR_STRING="2014460207 : OZBKWSG SO1JECX Z1UVUQJ CTMW2YN ¥

BHAHUW2 JMAJGIJ OEYHWXW SLP" START=28-aug-2006 SIGN="018C 0CAC ¥

9E19 7C42 8065 8D04 8552 2C07 0E45 40F7 6100 5C94 0A5E 4B3E¥

E5FE 2A34 971E FD9D 8911 8389 7237"

以下は旧バージョンのライセンス・コードワードのサンプルです。
基本的に、これらは完全に異なった、別々のライセンス・コードワードとお考えください。

■ ADS 2005A 用コードワード (ADS 2005A / 2004A / 2003C / 2003Aが使用可能)

SERVER adsllic 7812392f

VENDOR **agileesofd**

INCREMENT ads_schematic **agileesofd 2.35** 25-feb-2008 1 ¥

VENDOR_STRING="2014460207 : BFXSMUR PGNMW2Y NBH2AGI OGIHEUJ ¥
CULRIBR NZWUIBU FNCUIWQ UFP" START=09-sep-2005 SIGN="0271 B74B ¥
47F1 1E80 1CAA 2D29 113A 21CE C0F8 4063 5300 B5B0 516D 0319 ¥
9A8D 03AD 4101 88B9 1C22 CEEC FB8C"

■ ADS 2004A 用コードワード (ADS 2004A / 2003C / 2003Aが使用可能)

SERVER adsllic 7812392f

VENDOR **agileesofd**

INCREMENT ads_schematic **agileesofd 2.34** 08-mar-2006 1 ¥

VENDOR_STRING="2014460207 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
JCELDEU LOQLIWS JE1YMN B WJ1Y" SIGN="03D4 6F30 DCE1 B679 58D0 ¥
703E 9469 C2C5 AA8C 4019 6901 B806 78F6 C131 77CA 7FB1 58D0 ¥
9F7F 5550 B30F 5A69"

■ ADS 2003A,2003C 用コードワード (ADS 2003C / 2003A のみ使用可能)

SERVER adsllic 7812392f

VENDOR **agileesofd**

INCREMENT ads_schematic **agileesofd 2.3** 12-may-2004 1 ¥

VENDOR_STRING="2014460207 : NSTNWCS OIWSBF2 DMMAXUD LGUA1UC ¥
KBHAKUO KGRHECY SBHAKBP JRELHMX W" SIGN="02E4 C238 055B E530 ¥
BD8C 8225 07A1 677E 0FD7 E615 C203 181B CC94 D1EE BEC9 BFDC ¥
DD87 B547 C7D4 2F03 7452"

■ ADS 2002,2002C 用コードワード (ADS 2002 / 2002C のみ使用可能)

SERVER adsllic 7812392f

VENDOR **agileesof** /agilent/ads2002c/licenses/vendors/agileesof

INCREMENT ads_schematic **agileesof 2.1** 12-may-2003 1 ¥

VENDOR_STRING=2014460207 HOSTID=7812392F ¥
SIGN="0213 57B5 9799 66C0 B667 37C8 7B15 3330 5484 A6D6 ¥
C201 177D 7986 7454 C252 7F82 9A6B 8407 D2B0 0903 2001"

■ ADS 1.01-2001 用コードワード (ADS 2001 以前 / MDS / SeriesIV で使用可能)

SERVER adsllic 7812392f 1700

DAEMON **hpeesofd** /agilent/ads2001/licenses/vendors/hpeesofd

INCREMENT Schematic **hpeesofd 1.7** 12-may-2002 1 ECDB3036F04B313C9935 ¥

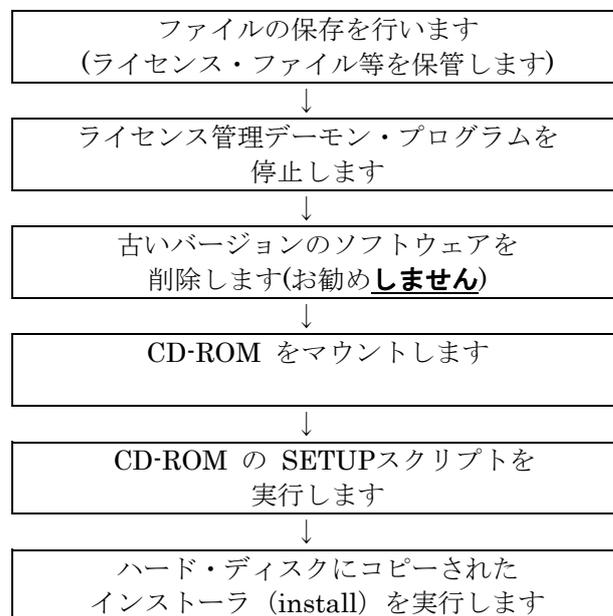
VENDOR_STRING=s=2014460207 HOSTID=7812392F

4章 インストール/アップデート作業

4-1 概要

この章では ADS 2006A のインストールの方法について説明します。
インストールのステップを以下に簡単にまとめます。

- ハード・ディスクの容量不足等、必要な場合は古いバージョンの ADS/MDS/SeriesIV を削除します。（できるだけ ADS 2006A のインストール完了後、動作確認を行った上で、古いバージョンを削除するようにしてください）
- CD-ROM をマウントします。
- CD-ROM のUNIXサブ・ディレクトリにあるSETUPスクリプトを実行して、インストーラをハード・ディスクにコピーします。
- インストーラ (install) を実行して、プログラムのインストールを行います。



<前提条件>

- サポート OS は HP-UX 11.0, 11i / Solaris 8, 9, 10/ Red Hat Enterprise Linux WS 3.x,4.x / Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3。
- ハード・ディスクのフリー・エリア(残り容量)が 3.6 Gbyte 以上必要。
- ADS 2006A 用の有効なライセンス・ファイルがお手元にあること。

4-2 インストール・メディアの準備

以下の ADS 2006A CD-ROM メディアが全て揃っているか、ご確認ください。
各インストール・メディアは、**32bit / 64bit OS で共通**です。

パーツ番号	タイトル	内容
E8900- 10271	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: PC Setup, Windows® 2000, Windows® XP (x64 ADS Momentum, Circuit Simulation only)	Windows 用の 1 枚目
E8900- 10272	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 2: PC Setup, Windows® 2000, Windows® XP (x64 ADS Momentum, Circuit Simulation only)	Windows 用の 2 枚目
E8900- 10273	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: HP-UX 11.0 / 11i	HP-UX 用の 1 枚目
E8900- 10274	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: Red Hat Enterprise Linux 3,4 ; Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (64-bit AMD Opteron and Intel EM64T) (x64-bit support for simulators only)	Linux 用の 1 枚目
E8900- 10275	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 1: Solaris 8/9/10 (x64-bit support for simulators only)	Solaris 用の 1 枚目
E8900- 10276	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Disk 2: HP-UX, Linux, Solaris	UNIX / Linux 用の 2 枚目 (共通)
E8900- 10277	ADVANCED DESIGN SYSTEM <i>Release 2006A</i> Agilent EEsof EDA Connection Manager 2006A Server Application PC Program Disk Windows® 2000, Windows® XP (32-bit)	Connection Manager Server インストール 用

注意 一部の Add-on モジュールについては、弊社ナレッジセンタからのダウンロードによる提供を行っております。(上記 CD-ROM メディアには収録されていません)

- RF IP Encoder
- W1421L / W1422L GENESYS software
- E8887L HSPA Wireless Library (2007年 2月 提供開始予定)
- E8869L Mobile WiMAX Wireless Library (2007年 2月 提供開始予定)
- E8870L Fixed WiMAX Wireless Library (2007年 2月 提供開始予定)
- E8871L 802.11n Wireless Library (2007年 2月 提供開始予定)
- E8933L WiMEDIA Wireless Library (2007年 2月 提供開始予定)

ナレッジセンタの利用方法については、

7-9 節「Agilent EEsof ナレッジセンタのご案内」
をご参照ください。

4-3 アップデート前の準備 (ファイルのバックアップ)

アップデートをする場合は、下記ファイルのバックアップ(保存)を取ることを推奨します。

- \$HPEESOF_DIR/custom ディレクトリ以下
- ユーザが作成したプロジェクト・ディレクトリ (xxx_prj)
特に、一度 ADS 2006A でプロジェクトを編集・保存すると、ADS 2003A 以前のバージョンでは開けなくなりますのでご注意ください。

4-4 ライセンス管理デーモン・プログラムの停止

- (1) スーパー・ユーザ(root)でログインし、日付を正しく合わせます。

```
# date (日付の確認)
```

- (2) ライセンス管理デーモン・プログラムが動作している場合は、デーモンを停止します。

FLEXnetライセンス・マネージャのライセンス管理デーモン・プログラム(lmgrd)の停止

(作業例：詳細は lmgrd を起動してるバージョンの ADS マニュアルをご覧ください)

```
# cd /agilent/ads2005a/licenses  
# ./bin/lmutil lmdown -c ./license.lic
```

なお、同じ lmgrd で IC-CAP 等、他のアプリケーションのライセンス・デーモンが起動している場合は、同時にその他のライセンスの供給も停止してしまいますので、十分ご注意ください。

4-5 古いバージョンのソフトウェア削除

ADS 2005A 等、以前のバージョンの ADS がインストールされており、ADS 2006A をインストールするのに十分なディスク容量が確保できない場合は、以前のバージョンのソフトウェアを削除します。

注意 ディスクに余裕がある場合は、ADS 2006A の動作確認を完了し、ユーザ・ファイルを完全に移動した後、古いバージョンのソフトウェアを削除することを強くお勧めいたします。

以前のバージョンの ADS がインストールされているディレクトリを削除します。

FLEXnet ライセンス管理デーモン・プログラム(lmgrd)が動作していないことを確認し、ディレクトリごと削除します。ライセンス管理デーモンが動作している場合は、完全な削除ができません。

(作業例：ディレクトリ名を、インストールされているソフトウェアに合わせてください)

```
# rm -rf /usr/local/ADS2005A  
# rm -rf /mds_b.07.10  
# rm -rf /eesof61
```

ADS、MDS、および、SeriesIV は、何れもファイル容量が 500Mbyte 以上ありますので、削除には数分～数十分要します。

もし、削除が一瞬で終了した場合は、ソフトウェア本体でなくシンボリック・リンクのみ削除した可能性もあります。その場合は、ソフトウェアが実際にインストールされているディレクトリを確認して、再度削除処理を行ってください。

削除後は、**bdf** (HP-UX)、**df -k** (Solaris、Linux) 命令等を用いて、ハード・ディスクの空き容量をご確認ください。

4-6 CD-ROM のマウント

CD-ROM メディアをマウントします。CD-ROM が自動マウントされない環境では、マウント作業はスーパー・ユーザ権限を持つユーザ・アカウントで行ってください。

使用する CD-ROM はプラットフォーム毎に異なります。インストールするプラットフォームに対応する CD-ROM メディアの **Disk 1** を、CD-ROM ドライブにセットしてください。

- HP-UX 11.0 / 11i の場合

<p>Advanced Design System Release 2006A Agilent EEsof EDA Disk 1: HP-UX 11.0 / 11i (Part No. E8900-10273)</p>
--

- Solaris 8 / 9 / 10 の場合

<p>Advanced Design System Release 2006A Agilent EEsof EDA Disk 1: Solaris 8 / 9 / 10 (Part No. E8900-10275)</p>
--

- Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x、Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 の場合

<p>Advanced Design System Release 2006A Agilent EEsof EDA Disk 1: Red Hat Enterprise WS 3, 4 ; Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 (Part No. E8900-10274)</p>

注意 ADS 2006A のインストール・プログラムは、インストール・プログラムを実行した OS 以外のプラットフォームのプログラム・ファイルをインストールすることはできません。
例えば、Solaris 用プログラムをインストールしたい場合は、Solaris OS 上でインストール・プログラムを実行する必要があります。

CD-ROM メディアのマウント手順については、各 OS の標準的な操作方法に従ってください。

4-7 インストールの実行

CD-ROM のマウントが正常に行えたならば、ADS 2006A のインストールを開始します。

カレント・ディレクトリを CD-ROM の UNIX サブ・ディレクトリに変更し、SETUP スクリプト・ファイルを実行します。

このスクリプトの実行により、ADS 2006A のインストール・ディレクトリを指定し、そのディレクトリ下にインストーラのプログラムがコピーされます。

実行例では、ADS 2006A のインストール・ディレクトリを /use/local/ADS2006A として、Red Hat Enterprise Linux WS 3.0 環境にインストールを行っています。

□ HP-UX 11.0, 11i の場合

```
# cd /cdrom/UNIX      (CD-ROM の UNIX ディレクトリに移動)
# ./SETUP*            (ファイル名が "SETUP;1" となっている場合がありますので、
                     ファイル名末尾にアスタリスク "*" を付けてください)
```

□ Solaris 8 / 9 / 10 の場合

```
# cd /cdrom/cdrom0/UNIX      (CD-ROM の UNIX ディレクトリに移動)
# ./SETUP
```

□ Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x、Novell SUSE Enterprise Linux の場合

```
# cd /mnt/cdrom/UNIX      (CD-ROM の UNIX ディレクトリに移動)
# ./SETUP
```

(1) インストーラのセットアップ・スクリプト

SETUP スクリプトを実行したターミナル・ウィンドウに次のように表示されます。

```
Agilent Technologies Inc
Agilent EEsof Installation Manager Setup
v2006A

Date: 2006年 11月 14日 火曜日 13:28:51 JST      (実行した時の時間が表示されます)

-----
Agilent EEsof Installation Manager Setup Instructions
-----

o Default values will appear in () at each prompt. Default values
  can be selected by simply pressing the "Return" or "Enter"
  key.

o Options will appear in brackets [] at each prompt.

o Do not include trailing '/' on any directories entered during
  the Agilent EEsof Installation Manager v2006A setup.

o You may type 'exit' or 'quit' at any prompt to cancel the
  installation.

Press [Return] to continue:      (Return キーを押下します)
```

Set Destination Directory for Agilent EEsof ADS v2006A Products

What is the full path to the directory where you would
like Agilent EEsof ADS Products installed (default=/usr/local/ADS2006A)?
=> /usr/local/ADS2006A (インストール・ディレクトリを入力します)

The directory [/usr/local/ADS2006A] does not exist.
Would you like to create it [y/n] (y)? (指定したディレクトリが存在しない場合の確認)

Destination Directory : [/usr/local/ADS2006A]
Estimated Available Disk
Space on this Partition : 14293588 KBytes (インストール先の残りディスク容量)
Platform : Linux Redhat WS 3.x or 4.x, Novell SLES 9.3

Is the information entered correct [y/n] (y)? (上記情報で正しければ y と入力します)

Agilent EEsof Installation Manager Load

Loading Agilent EEsof Installation Manager... (インストール・プログラムをコピー中)

Execute Agilent EEsof Installation Manager

The Agilent EEsof Installation Manager has been successfully installed.
To continue the installation process, change directories to:

/usr/local/ADS2006A/install/bin (SETUPスクリプト終了後、このディレクトリに移動)

and execute:

./install (インストール・プログラムの実行コマンド)

SETUP スクリプトは、CD-ROM から ADS 2006A インストール先ディレクトリ (/usr/local/ADS2006A) に
インストーラ (install) をコピーする作業のみ行います。
インストーラのコピー先は、この例では /usr/local/ADS2006A/install になります。
SETUP スクリプト終了後、install コマンドで ADS 2006A 本体のインストールを行います。

(2) インストーラの実行

SETUP スクリプトが正常に終了したら、install コマンドを実行してインストーラを起動します。

カレント・ディレクトリをインストール・ディレクトリ下の install/bin サブ・ディレクトリに変更して、install 命令を実行してください。

注意 インストーラのプログラム install はグラフィカル・ユーザ・インターフェイス(GUI)を使用します。X-Windowシステムが使用可能な環境で実行してください。

注意 Netscapeのように多数のカラー・リソースを使用するアプリケーションが起動していると、下記のような警告メッセージが表示され、インストーラの表示が正常に行われな
ない場合があります。Install コマンド実行前に終了させてください。

Warning: Cannot allocate colormap entry for "#DC00C9E1C9E1"
eecolor: loaded 106 colors (15 exact colors and 91 close colors)

```
# cd /usr/local/ADS2006A/install/bin  
# ./install
```

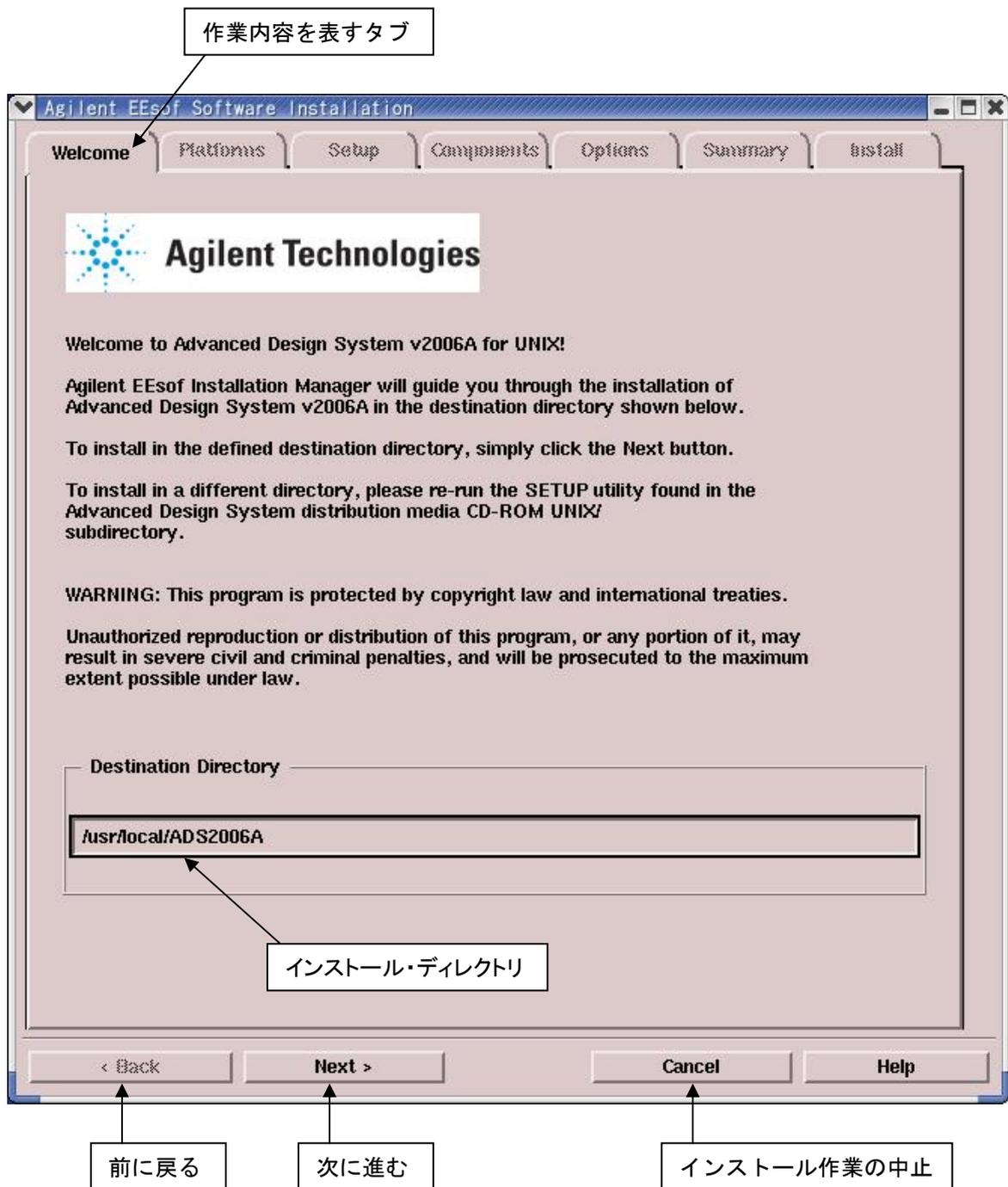
install 命令を実行したウィンドウに次のように表示されます。

```
Executing Agilent EEsof Installation Manager. Please wait...
```

```
+-----+  
Agilent EEsof Installation Manager, v1.1.2  
Copyright 2006 Agilent Technologies, Inc. All Rights Reserved.  
+-----+
```

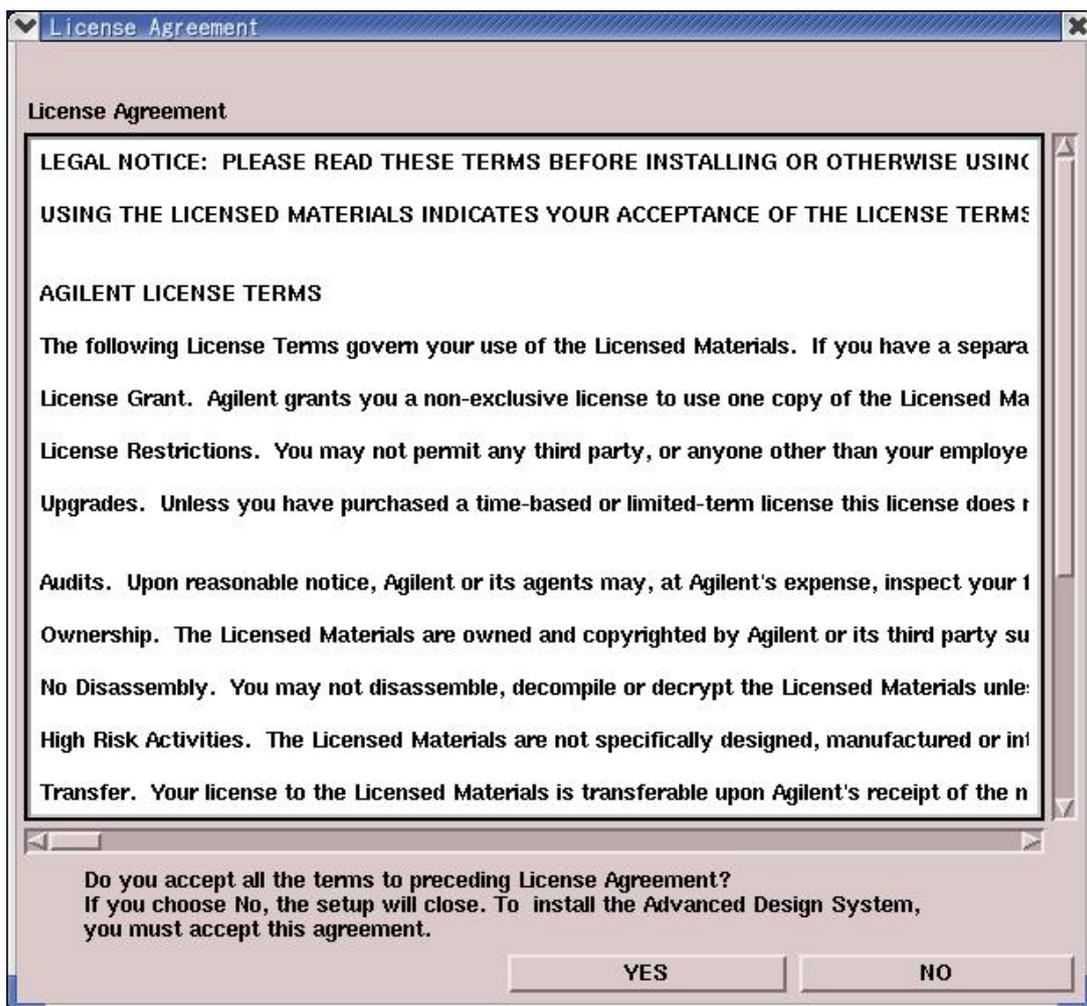
次のような小さなウィンドウと、次ページに示すインストーラのメイン・ウィンドウが表示されます。





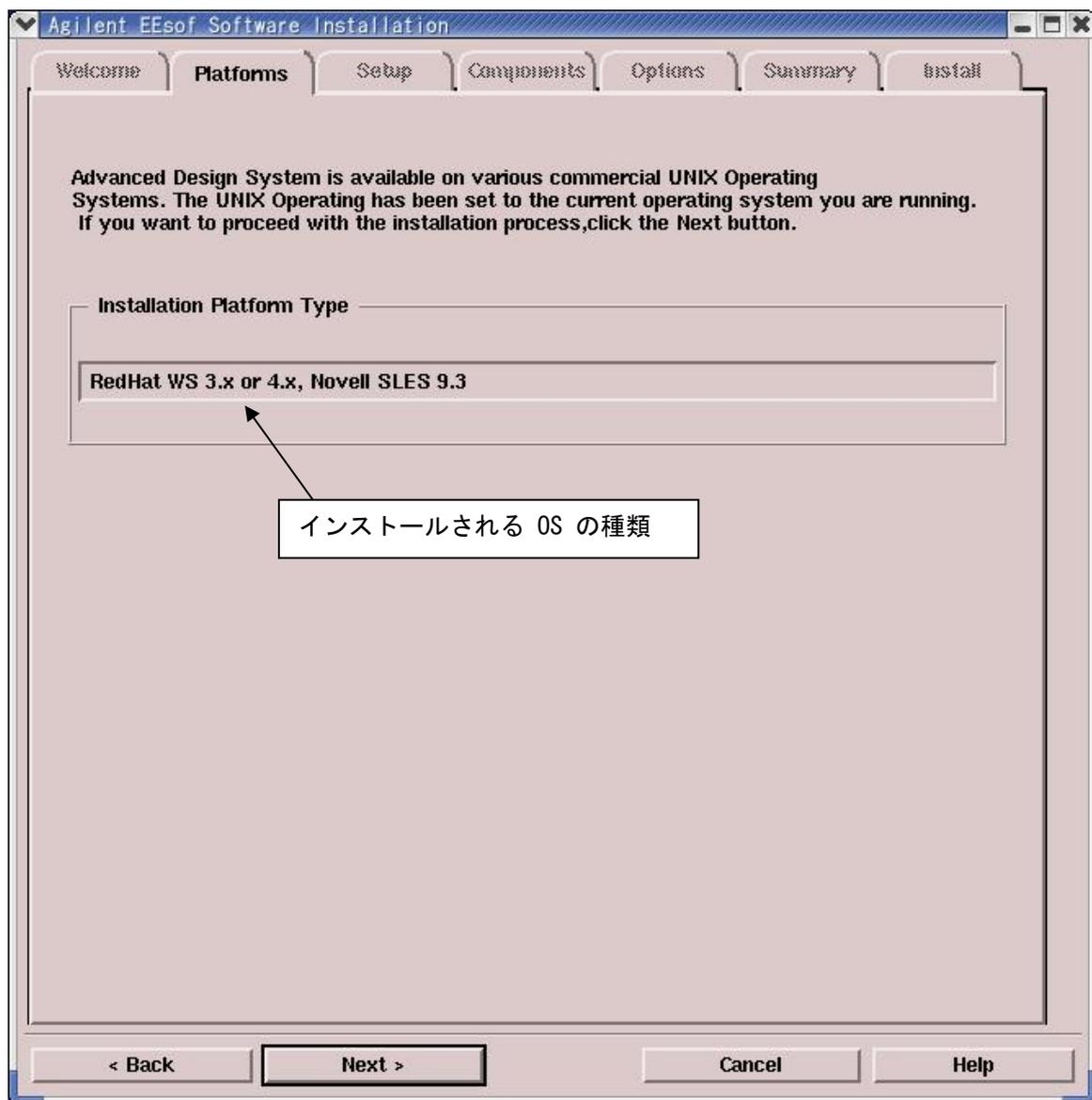
Welcomeタブでは、インストール・ディレクトリを確認します。（ここでは変更できません）
内容が正しい場合は、**[Next >]** ボタンをクリックし、次に進みます。

インストール作業を途中で止めたい場合は、**[Cancel]** ボタンをクリックします。
一つ前の作業に戻るには、**[< Back]** ボタンをクリックします。



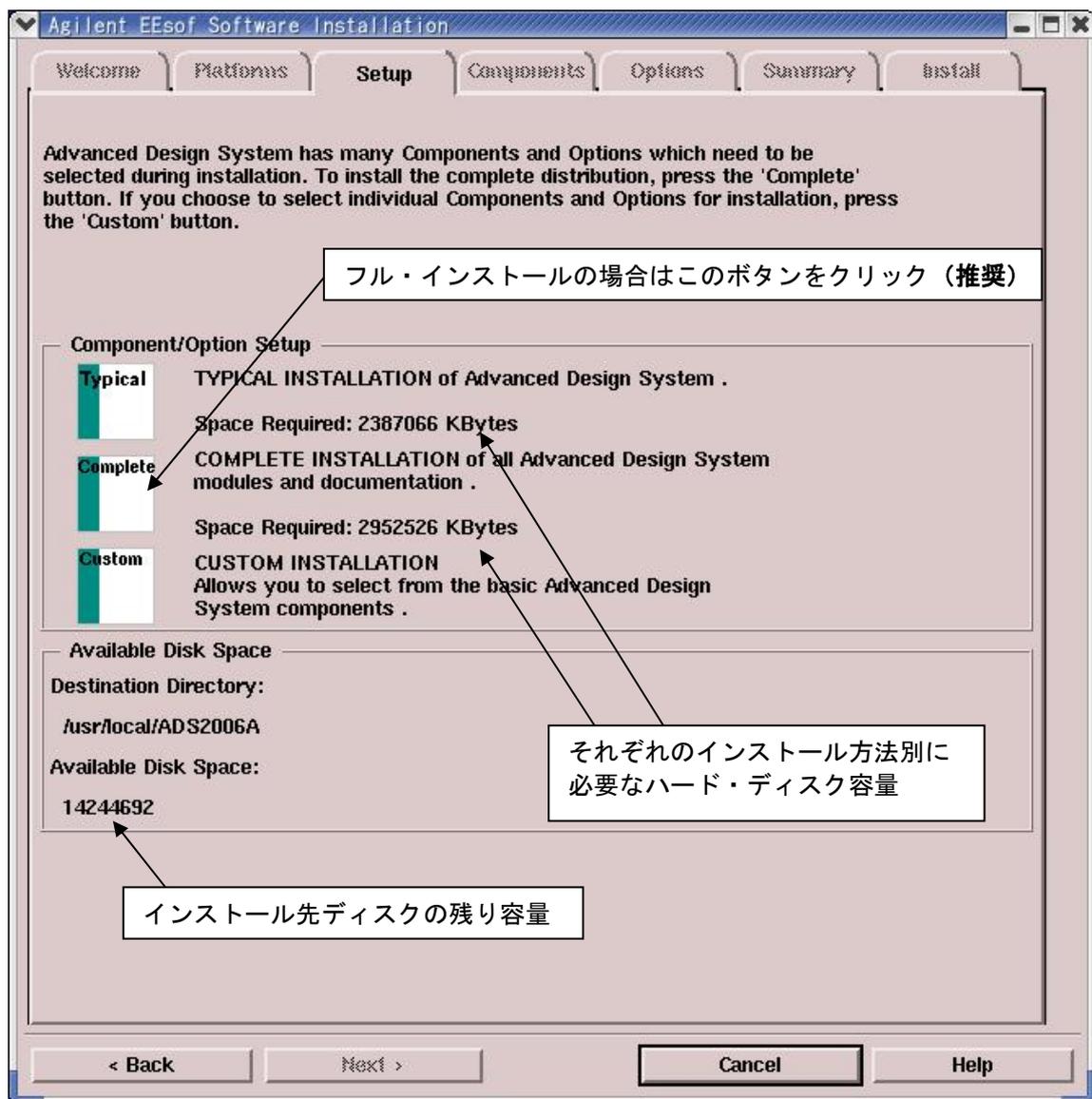
ライセンス使用許諾のダイアログ・ボックスが表示されます。

内容をよく読み、ご同意いただける場合は **[YES]** ボタンを押して先に進みます。



Platformsタブでは、インストールするコンピュータの OS の種類が表示されます。

[Next >] ボタンをクリックして次に進みます。



Setupタブでは、インストールするファイル・セットを選択します。

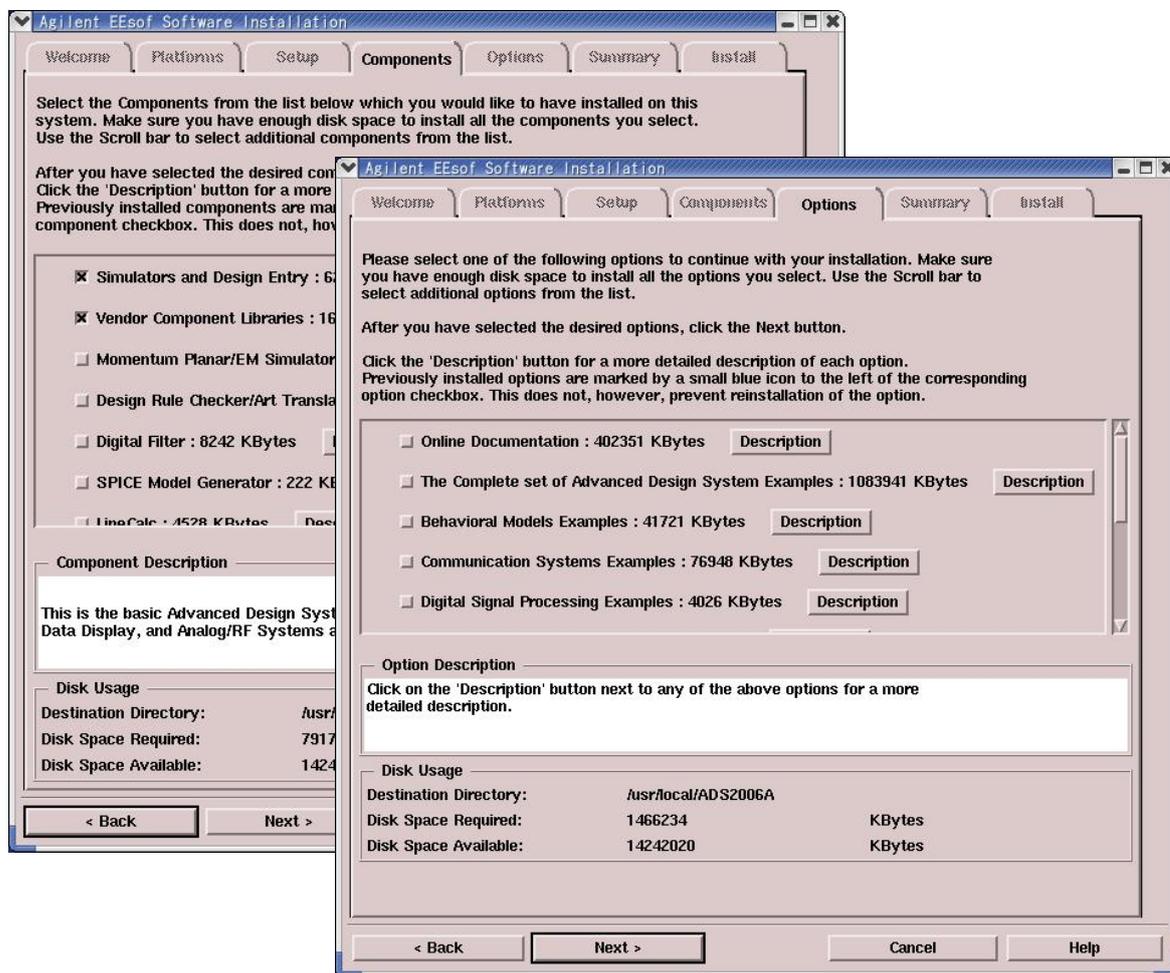
通常は、**COMPLETE INSTALLATION** を選択します。COMPLETE INSTALLATION を選択すると、全てのファイル・セットがインストールされます。

上図のように、ADS 2006A のファイル・セットをすべてインストールするには、ハード・ディスクに2,952,526 KByte の空き容量が必要です。

Available Disk Space フィールドに、インストール先ディレクトリ名と、そのディスク・パーティションの残りディスク容量（上図では 14,244,692 Kbyte）が確認できます。

TYPICAL INSTALLATION を選択した場合は、W-CDMA Design Library等の Wireless Design Libraryや、HDL Cosimulation等の一部機能がインストールされません。

ディスクの空き容量が足りない等、インストール内容を変更したい場合は、CUSTOM INSTALLATION を選択します。



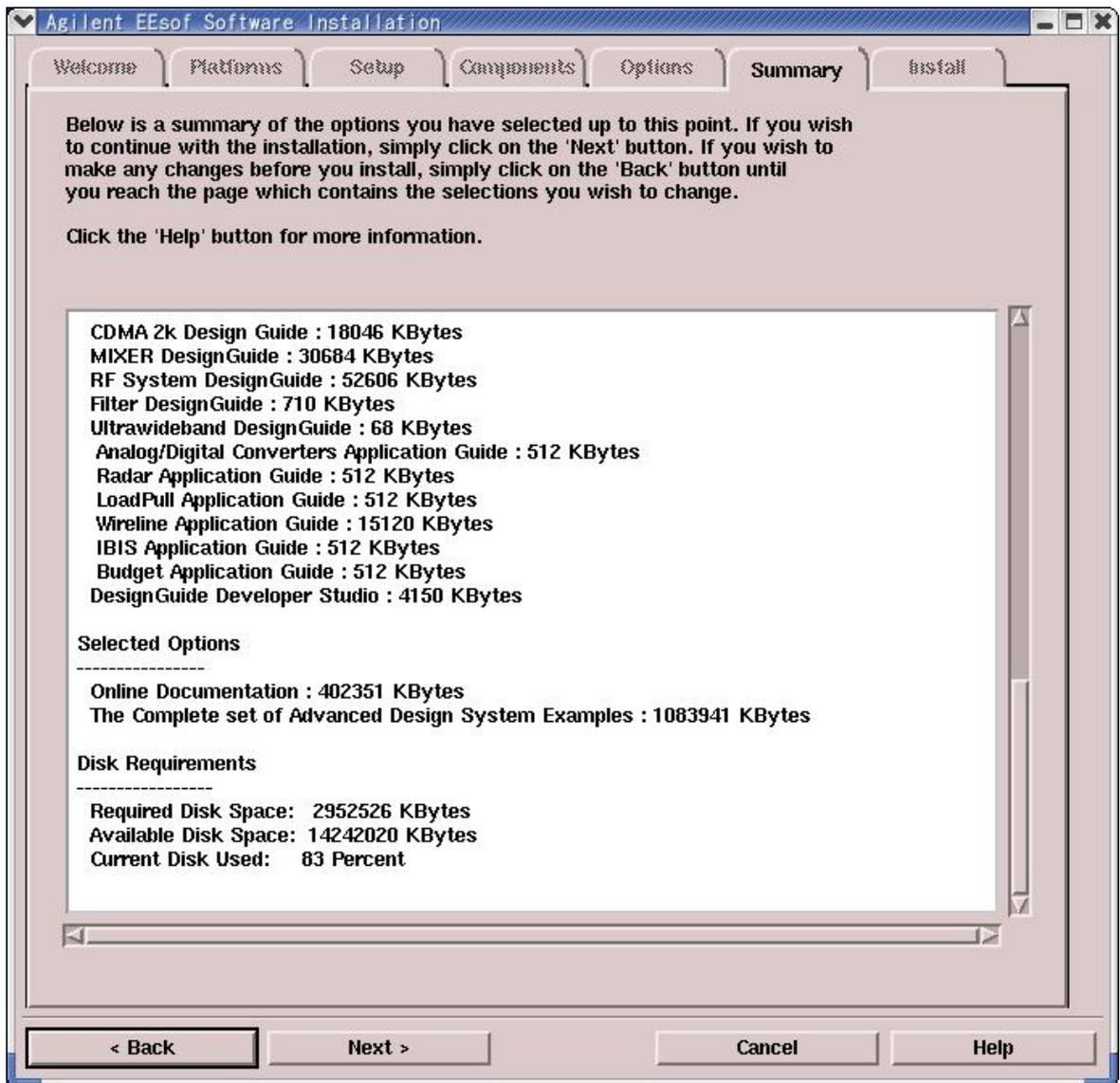
Setup タブで CUSTOM INSTALLATION を選択した場合、上記画面になり **Components** と **Options** の 2 つのタブで、ファイル・セットの選択を行うことができます。

ファイル・セットを選択すると、下段の **Disk Space Required** 欄に合計容量が表示されます。インストールしたいファイル・セットを選択して、**[Next >]** ボタンをクリックしてください。

ファイル・セットの内容と容量については、

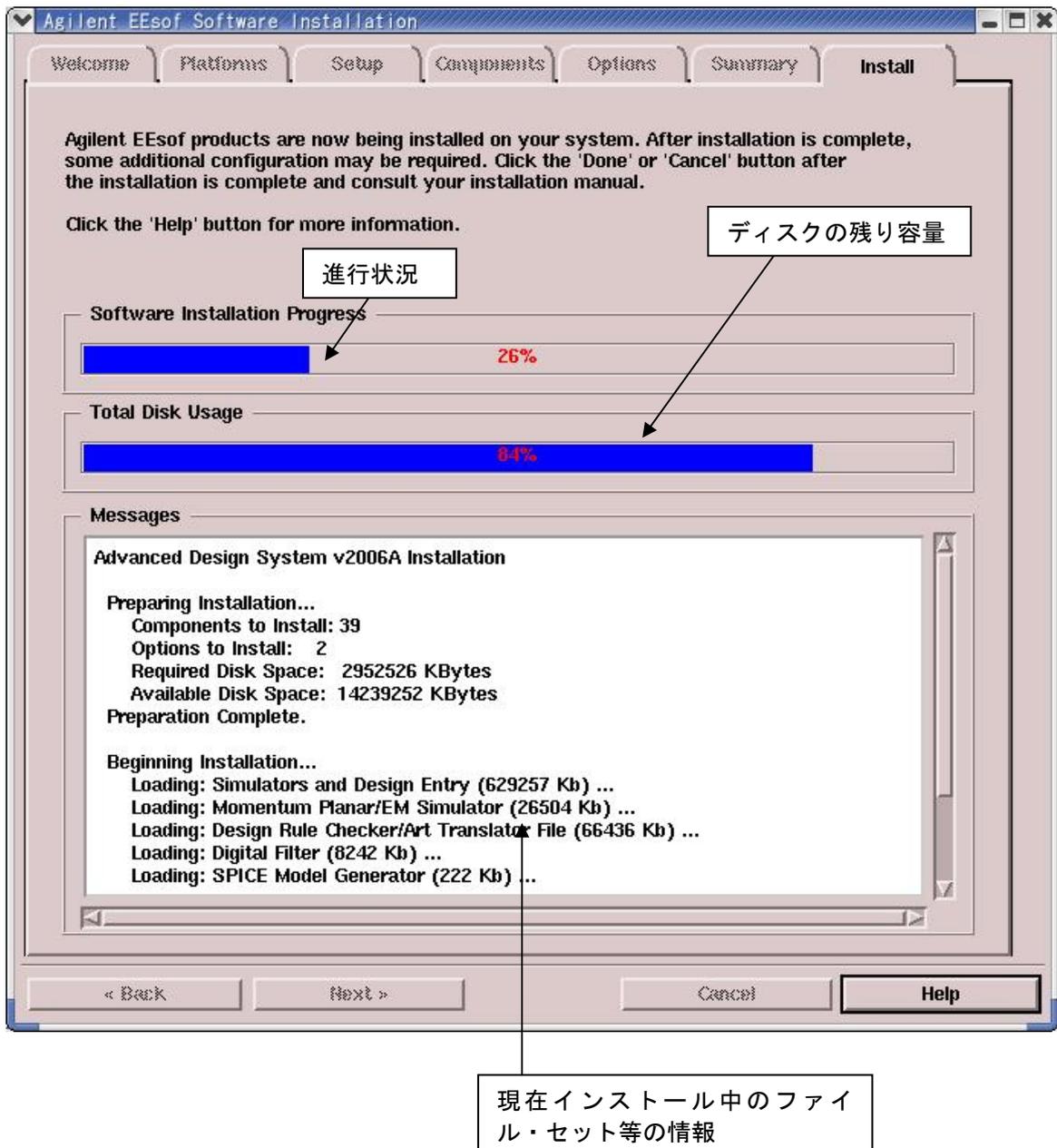
4-9 節「参考；インストール・ファイル・セット一覧」

をご参照ください。



Summaryタブでは、インストールするファイル・セット、必要ディスク容量の一覧が表示されます。

内容を確認して **[Next >]** ボタンをクリックすると、ファイルのコピーが始まります。



Installタブでは、インストールの進捗状況が表示されます。

ディスクの残り容量と、進行状況がバー・グラフで表示されます。また、Messages欄にはインストール状況を示すメッセージが表示されます。



CD-ROM のマウント・ポイント

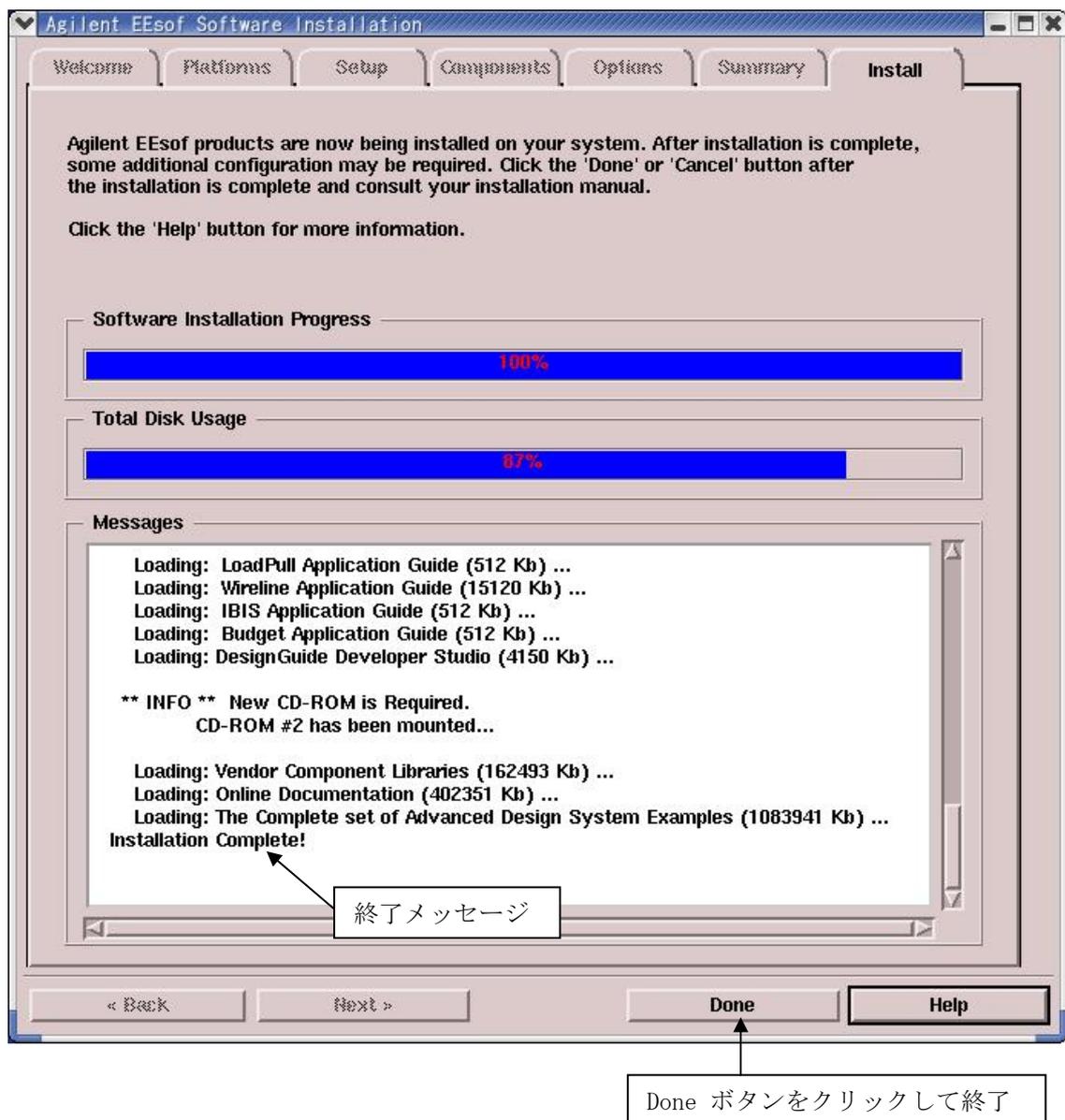
1 枚目の CD-ROM からの読み込みが終了すると、上記のダイアログ・ボックスが表示されます。（OS により、メッセージ内容が異なる場合があります）
ここでは、UNIX / Linux の命令を使用して 1 枚目の CD-ROM をアンマウントして排出し、2 枚目の CD-ROM メディアに交換、マウントします。

2 枚目の CD-ROM は次のラベルのもので、HP-UX / Solaris / Linux 各 OS で共通です。

ADVANCED DESIGN SYSTEM
Release 2006A
Agilent EEsof EDA
Disk 2: HP-UX, Linux, Solaris
(Part No. E8900-10276)

CD-ROMのアンマウント、排出、および、マウントは、各 OSの標準的な操作方法に従ってください。

2 枚目の CD-ROM のマウントが正常に行われたら、**[APPLY]** ボタンをクリックします。
インストールが続行されます。



Messages欄に **“Installation Complete !”** と表示されると、インストール作業は終了です。

[Done] ボタンをクリックし、インストーラを終了させます。

2枚目の CD-ROM をアンマウントし、CD-ROM ドライブから取り出してください。

続けて下記を参照して、ライセンスの設定を行ってください。

5章「ライセンス(FLEXnet)の設定」

4-8 参考：ADS を複数のパーティションにインストールする方法

ADS 2006A のインストール・プログラムは、ADS のインストール先ハード・ディスクを、複数のパーティションにまたがって指定することはできません。

ここでは、一つのパーティションではディスク容量が足りない時に、複数のパーティションにファイル・セットを分散させてインストールする方法を説明します。

以下の例は、ADS の本体のインストール先が /disk/ads2006a で、example ファイルのみ /disk2/ads_examples にインストールする場合について解説します。

1. 本体のインストール先ディレクトリを事前に作成します。

```
# cd /disk
# mkdir ads2006a
```

2. example ファイルのインストール先ディレクトリを事前に作成します。

```
# cd /disk2
# mkdir ads_examples
```

3. 作成した、example ファイルインストール・ディレクトリに、ADS 本体のインストール・ディレクトリからのシンボリック・リンクを作成します。

```
# cd /disk/ads2006a
# ln -s /disk2/ads_examples examples
```

4. 通常通り、ADS のインストールを行うと、example ファイルのみ /disk2/ads_examples にインストールされます。

以下の表は、ADS 2006A のインストール・ディレクトリの中で、ディスク使用容量が大きいサブ・ディレクトリのリストです。別パーティションにインストールするディレクトリを決定する際の参考にしてください。

(リストは、ADS 2006A のサブ・ディレクトリの全てのリストではありません)

サブ・ディレクトリ名	使用ディスク容量の概算 (RHEL WS 3 の例)
ComponentLibs	160 MB
bin	132 MB
circuit	80 MB
doc	200~888 MB (Design Library の容量に依存)
designguides	536 MB
examples	1005 MB (フル・インストール時)
adstolemy	204 MB
lib	112 MB
tools	216 MB

4-9 参考：インストール・ファイル・セット一覧

■ Typical Installation でインストールされるファイル・セット

ファイル・セット	概要	サイズ
Simulators and Design Entry	ADS の基本コンポーネント。Design Environment, Data Display, Analog/RF Systems, Signal Processing simulator が含まれます	629.3 MB
Vendor Component Libraries	RF Transistor Library や Analog Parts Library 等の部品関係のライブラリ	162.5 MB
Momentum Planar/EM Simulator	Momentum Planar EM シミュレータ	26.5 MB
Design Rule Checker/ Art Translator File	レイアウトや MTOOLS (Gerber, DXF), IGES, GDSII 等の正当性をチェックするツール	66.4 MB
Digital Filter	ユーザの要求仕様に見合った広帯域 FIR, IIR フィルタを合成	8.2 MB
SPICE Model Generator	S-パラメータ・データから、SPICE 等価回路モデルを生成するツール	0.2 MB
LineCalc	伝送線路の計算ツール	4.5 MB
Library Translator	他社製 EDA ツールのライブラリを ADS 用に変換するツール	1.4 MB
FLEXlm licensing software	FLEXnet ライセンス管理ソフトウェアです。このコンポーネントのみを選ぶことにより、ライセンス・サーバに FLEXnet ファイル・セットのみをインストールする事もできます。	1.6 MB
The Complete set of Advanced Design System Examples	ADS のサンプル・プロジェクト (全て)	1083.9 MB

■ Custom Installation で選択できるファイル・セット

ファイル・セット	概要	サイズ
Simulators and Design Entry	ADS の基本コンポーネント。Design Environment, Data Display, Analog/RF Systems, Signal Processing simulator が含まれます	629.3 MB
Vendor Component Libraries	RF Transistor Library や Analog Parts Library 等の部品関係のライブラリ	162.5 MB
Momentum Planar/EM Simulator	Momentum Planar EM シミュレータ	26.5 MB
Design Rule Checker/ Art Translator File	レイアウトや MTOOLS(Gerber, DXF), IGES, GDSII 等の正当性をチェックするツール	66.4 MB
Digital Filter	ユーザの要求仕様に見合った広帯域 FIR, IIR フィルタを合成	8.2 MB
SPICE Model Generator	S-パラメータ・データから、SPICE 等価回路モデルを生成するツール	0.2 MB
LineCalc	伝送線路の計算ツール	4.5 MB
Library Translator	他社製 EDA ツールのライブラリを ADS 用に変換するツール	1.4 MB
FLEXlm licensing software	FLEXnet ライセンス管理ソフトウェアです。このコンポーネントのみを選ぶことにより、ライセンス・サーバに FLEXnet ファイル・セットのみをインストールする事もできます。	1.6 MB
The RFIC Dynamic Link	Cadence の回路図を ADS でシミュレーションするためのフレームワーク	32.5 MB
CDMA Design Library	IS-95 用デザイン・ライブラリ	2.7 MB
TD-SCDMA Design Library	TD-SCDMA 用デザイン・ライブラリ	7.3 MB
GSM Design Library	GSM 用デザイン・ライブラリ	3.4 MB
Tibron-DA Verilog-A	Verilog-A コンパイラ	117.9 MB
EDGE Design Library	EDGE 用デザイン・ライブラリ	6.5 MB
3GPP Design Library	W-CDMA 用デザイン・ライブラリ	24.6 MB
WLAN Design Library	IEEE802.11a/b 用デザイン・ライブラリ	8.8 MB
1xEV Design Library	1xEV DO 用デザイン・ライブラリ	2.5 MB
cdma2000-Compliant Design Library	TIA/IS-2000 スタンドアードに準拠した、ビヘイビアモデルのデザイン・ライブラリ	5.0 MB
Digital TV Design Library	日本方式(ISDB-T)と欧州方式(DVB-T)用のデジタル TV 用ライブラリ	6.9 MB
HDL Cosimulation	HDL シミュレータと Ptolemy のコシミュレーション・インターフェース	0.5 MB
Linearizer DesignGuide	リニアライザ・デザイン・ガイド	71.8 MB
Oscillator DesignGuide	発信器デザイン・ガイド	22.0 MB
Passive Circuit DesignGuide	パッシブ回路デザイン・ガイド	5.7 MB
Phase-Locked Loop DesignGuide	PLL デザイン・ガイド	37.8 MB
Amplifier DesignGuide	パワーアンプ・デザイン・ガイド	44.9 MB
Bluetooth DesignGuide	Bluetooth デザイン・ガイド	40.6 MB
CDMA 2k DesignGuide	CDMA2000 デザイン・ガイド	18.0 MB
Mixer DesignGuide	ミキサ・デザイン・ガイド	30.7 MB
RF System DesignGuide	システム設計 デザイン・ガイド	52.6 MB
Filter Design Guide	フィルタ・デザイン・ガイド (E-Syn 代替)	0.7 MB
Ultrawideband DesignGuide	Ultra Wide Band デザイン・ガイド	0.1 MB
Analog/Digital Converters Application Guide	A/D 変換器 アプリケーション・ガイド	0.5 MB
Radar Application Guide	レーダー・アプリケーション・ガイド	0.5 MB
LoadPull Application Guide	ロードプル・アプリケーション・ガイド	0.5 MB
Wireline Application Guide	ワイヤライン・アプリケーション・ガイド	15.1 MB
IBIS Application Guide	IBIS アプリケーション・ガイド	0.5 MB

Budget Application Guide	バジェット解析アプリケーション・ガイド	0.5 MB
DesignGuide Developer Studio	デザイン・ガイド開発ツール	4.2 MB
Online Documentation	ADS 2006A のオンライン・マニュアル	402.3 MB
Examples	The Complete set of Advanced Design System Examples 検索エンジンを含むサンプル・プロジェクト 一括選択	1083.9 MB
	Behavioral Models Examples ビヘイビア (システム) モデルを用いた Example	41.7 MB
	Communication System Examples コミュニケーション・システム関連の Example	76.9 MB
	Digital Signal Processing Examples DSP 関連の Example	4.0 MB
	Microwave Circuit Examples マイクロ波回路関連の Example	59.8 MB
	Momentum Examples Momentum 関連の Example	162.5 MB
	RFIC Examples RFIC 関連の Example	30.8 MB
	RF Board and RF System-in-Package Examples 高周波基板関連の Example	90.1 MB
	Tutorial Examples ADS の基本的な使い方等の Example	101.3 MB
	Training Examples トレーニング・コース用の Example	49.4 MB

4-10 参考：後から一部のファイル・セットをインストールする方法

CD-ROM をマウントした後、<インストール・ディレクトリ>/install/bin/install コマンドを実行します。(SETUP スクリプトを実行する必要はありません)

CD-ROM のマウント方法については、

4-6 節「CD-ROM のマウント」

をご参照ください。

```
# cd /usr/local/ADS2006A/install/bin    (ディレクトリを移動します)
# ./install
```

インストール・プログラムが起動しますので、**CUSTOM INSTALLATION** を選択して、追加したいファイル・セットにのみチェック・マークを付けて、インストールを行います。

4-1-1 FLEXid ドライバのインストール (Red Hat Enterprise Linux WS のみ)

この節は、Linux 環境において、USB 接続のハードウェア・キーに対して、ライセンス・コードワードを取得される方のみ、お読みください。

重要 ADS 2006A リリース版 (310.400) には、Linux OS では USB接続ハードウェア・キーを認識できない不具合があります。
(2006年 12月現在、32bit 版 ADS 2006Aについては、パッチの適用によりご利用いただけます)

詳細に関しては、

1-3 節「ADS 2006A リリース版 (310.400) の注意点」

をご参照ください。

注意 Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 用の FLEXid ドライバは、2006年 12月現在、弊社からは提供していません。

同 OSで USBハードウェア・キーの利用をご検討いただいているお客様は、EDAテクニカルサポートまでお問い合わせください。

ADS 2006A では、Red Hat Enterprise Linux WS 環境において、セキュリティ・デバイスとして、PC の USB ポートに接続する形式のハードウェア・キーに対して、ライセンス・コードワードを発行することが可能です。



USB 接続型ハードウェア・キー (FLEXid=9-xxxxxxx)

USB 接続のハードウェア・キーを使用する場合は、必ず FLEXid ドライバのインストールを行ってください。

注意 FLEXid ドライバを導入しても、ADS 2004A以前のライセンス・サーバでは、USB 接続ハードウェア・キーに対して、ライセンスを発行することはできません。

重要 Linux 版の FLEXid ドライバは、USB接続型のハードウェア・キーのみをサポートします。パラレル・ポート接続型のハードウェア・キー (FLEXid=7-xxxxxxx / 8-xxxxxxx) は使用することができません。

重要 Linux 版の ADS 2006A では、Uncounted タイプのノードロック・ライセンス (通常 Windows版で使用) を利用することができません。
Counted タイプのライセンスが必要となり、ライセンス・サーバの設定が必須となります。

以下に FLEXid ドライバのインストール手順を記します。作業はスーパー・ユーザ権限を持つアカウントで行ってください。

■ Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x の場合

Red Hat Enterprise Linux WS 3.x/4.x 用の FLEXid ドライバは、下記 CD-ROM の /UNIX/doggle_sup ディレクトリに収録されています。

**Advanced Design System
Release 2006A
Agilent EEsof EDA
Disk 1: Red Hat Enterprise WS 3, 4 ; Novell SUSE
Linux Enterprise Server 9.3
(Part No. E8900-10274)**

FLEXid ドライバは RPM パッケージで提供されています。
ファイル名は /UNIX/dongle_sup/aksusbd-redhat-1.5-1.i386.rpm です。
下記のように rpm コマンドを用いて、インストールを行います。

```
# cd /mnt/cdrom/UNIX/dongle_sup  
# rpm -i aksusbd-redhat-1.5-1.i386.rpm
```

FLEXid ドライバをインストールしたら、USB ハードウェア・キーを USB ポートに接続して、lmutil コマンドを用いて FLEXid 情報を正しく取得できるかどうかをご確認ください。

```
$ <ADS 2006A インストール・ディレクトリ>/licenses/bin/lmutil lmhostid -flexid  
lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.  
The FLEXlm host ID of this machine is "FLEXID=9-08C99148"  
Only use ONE from the list of hostids.
```

ADS 2006A のインストール・ディレクトリ下に用意されている lmutil ユーティリティを用いて、USB 接続型ハードウェア・キーの FLEXid を表示させます。

FLEXid はハードウェア・キー表面に貼付されたシールにも印刷されていますが、ユーティリティの表示と合致することをご確認ください。

参考 lmhostid コマンドの実行により、同じ FLEXid が 2つずつ表示される場合がありますが、問題はありません。

5章 ライセンス(FLEXnet)の設定

5-1 概要

ソフトウェアのインストールが終了したら、ライセンスの設定を行います。

注意 ADS 2006A の実行には、**ADS 2006A 専用のライセンス・コードワード(ライセンス・ファイル)が必要です。**

ADS 2006A 用のコードワード(ライセンス・ファイル)をお持ちでない場合は、

8-1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご参照いただき、弊社までご請求ください。

ADS 2005A 以前のライセンス・コードワードでは、ADS 2006A は動作いたしません。

■ ライセンス・コードワードと、動作するアプリケーションのバージョンごとの対応

ADS license \	ADS 2006A	ADS 2005A	ADS 2004A	ADS 2003C	ADS 2003A	ADS 2002C	ADS 2002
ADS 2006A	○	○ ¹	○ ¹	×	×	×	×
ADS 2005A	×	○	○ ²	○ ²	○ ²	×	×
ADS 2004A	×	×	○	○ ³	○ ³	×	×
ADS 2003C	×	×	×	○	○ ⁴	×	×
ADS 2003A	×	×	×	○	○	×	×
ADS 2002C	×	×	×	×	×	○	○
ADS 2002	×	×	×	×	×	○	○

注意：1 ADS 2006A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。

2 ADS 2005A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。

3 ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。

4 ADS 2003C で削除された機能はご利用いただけません。

ADS 2006A のライセンス・コードワードは、二つ前の世代の ADS に対する互換性(LBC ; License Backward Compatibility)を持っております。

これにより、ADS 2005A、および、ADS 2004A は、ADS 2006A のライセンス・コードワードでご利用いただくことができます。

移行の為の併用期間が必要な場合は、ADS 2006A 用のライセンス設定を行って、ADS 2005A / 2004A をご利用ください。

ADS 2003C、および、それ以前のバージョンの ADS、MDS、SeriesIV 等の旧製品については対応いたしませんので、ご注意ください。

■ ADS 2006A での変更点

リリース名	ライセンス コードワード バージョン	Daemon 名	FLEXnet (FLEXlm) バージョン	ライセンス・ファイル指定 環境変数	ライセンス・ファイル デフォルト ロケーション
ADS 1.5	1.5	hpeesofd	7.0g	LM_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/license.dat
ADS 2001	1.7			HPEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2002	1.9	agileesof	7.2h CRO	AGILEESOF_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/
ADS 2002C	2.1				
ADS 2003A	2.3	agileesofd	8.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2003C					
ADS 2004A	2.34	agileesofd	9.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2005A	2.35	agileesofd	10.1.3 CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2006A	2.6	agileesofd	10.8 CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	

■ ADS 2006A 用ライセンス・コードワードの記述例

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 1 ¥
VENDOR_STRING="2014460207 : OZBKWSG SO1JECX Z1UVUQJ CTMW2YN ¥
BHAHUW2 JMAJGIJ OEYHWXW SLP" START=28-aug-2006 SIGN="018C 0CAC ¥
9E19 7C42 8065 8D04 8552 2C07 0E45 40F7 6100 5C94 0A5E 4B3E¥
E5FE 2A34 971E FD9D 8911 8389 7237"
```

これは、ADS 2006A 用ライセンス・コードワードの記述例です。

INCREMENT で始まる行を確認することで、ライセンス・コードワードのバージョンを確認することができます。

```
INCREMENT <ライセンス(機能)名> <ベンダ・デーモン名> <バージョン>
<有効期限> <ライセンス本数>
VENDOR_STRING="<ライセンス・サーバ FLEXid>" <暗号コード>
(HOSTID=<ノードロック・クライアント FLEXid>)
START=<ライセンス使用開始日> SIGN="<暗号コード>"
```

- <ベンダ・デーモン名>は **agileesofd** です。
- <バージョン>は **2.6** です。
- 有効期限を過ぎていない**ことが必須です。

この条件を満たしていないライセンス・コードワードは、ADS 2006A 用ではないか、無効になったライセンスです。

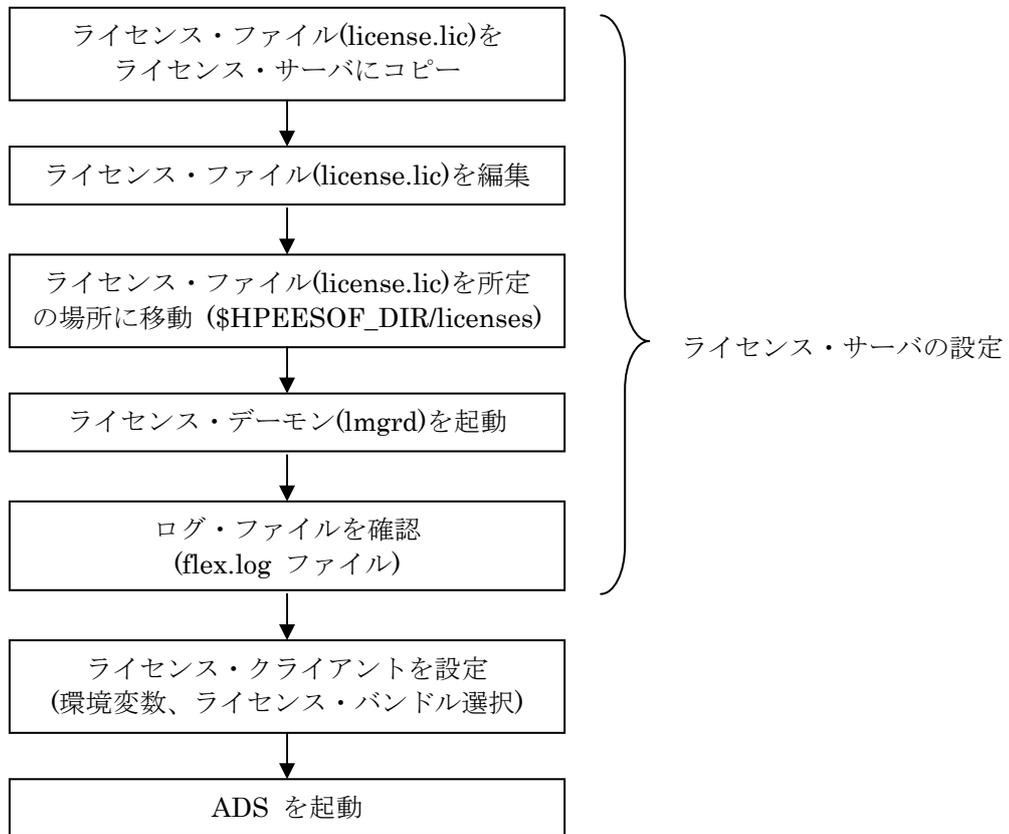
また、<ライセンス本数>に **uncounted** の表示があるライセンス・コードワードは、Windows® 版 ADS 用のノードロック・ライセンスです。**UNIX / Linux 環境ではご利用いただけません**のでご注意ください。

お手元に ADS 2006A 用ライセンス・ファイルが無い、もしくは、失効している場合は、下記をご参照いただき、ADS 2006A 用のライセンス・ファイルの発行申請を行ってください。

8-1 節「コードワード発行依頼の方法」

■ 設定の流れ

以下のような作業が必要になります。



5-2 FLEXnet の概念

FLEXnet™ (旧名称 FLEXlm ; Flexible License Manager) は、アメリカ合衆国 Macrovision Corporation (旧社名 GLOBEtrötter Software) が開発した、ライセンス管理ソフトウェアの名称です。

<http://www.macrovision.com>

Products > FLEXnet

(1) FLEXnet のライセンスの形態(種類)

ライセンスの形態(種類)には、「ノードロック・ライセンス」、「フローティング(ネットワーク)・ライセンス」の 2 種類があります。以下にそれぞれの説明を簡単に記します。

基本的な設定方法は「ノードロック・ライセンス」でも「フローティング・ライセンス」でも同じです。

ノードロック・ライセンス

ある**限定**されたコンピュータでのみ、アプリケーション・ソフトウェアを実行できます。

フローティング・ライセンス

ネットワークで接続された**任意**のコンピュータで、アプリケーション・ソフトウェアを実行できます。ただし、ライセンス・サーバは、**限定**されたコンピュータになります。

また、同時に実行できるアプリケーション・ソフトウェアの数(本数)は、取得したライセンスの本数までになります。

(2) FLEXnet で使用されるプログラム/ファイル

次に、FLEXnet で使用されるプログラム/ファイルを簡単に説明します。

FLEXnet では、「ライセンス管理デーモン」「ベンダ・デーモン」「ライセンス・ファイル」の 3 つが使用されています。以下にそれぞれの説明を簡単に記します。

ライセンス管理デーモン (lmgrd)

ライセンス管理デーモン(lmgrd)は実行形式のプログラムです。

ベンダ・デーモン(agileesofd)と協力して、ライセンスを管理します。UNIX / Linux の場合、lmgrd はライセンス・サーバでは必ず実行させなければならないプログラムです。

同一のコンピュータで複数の lmgrd を実行することも可能(ただし、それぞれ異なる TCP/IP ポート番号の割り当てが必要)ですので、Agilent EEsof EDA 製品以外のソフトウェアが FLEXnet / FLEXlm を使用している場合でも、問題無く併用することができます。

ベンダ・デーモン (agileesofd)

ベンダ・デーモン(agileesofd)は実行形式のプログラムです。

ライセンス管理デーモン(lmgrd)と協力してライセンスを管理します。agileesofd は、ライセンス・サーバでは必ず起動していなければならないプログラムです。

同一のコンピュータで、複数の agileesofd を実行することは**できません**。ベンダ・デーモン名は使用するアプリケーション・ソフトウェアで異なります。

MDS B.07.X、Series IV 6.X、agilent HFSS 5.X、IC-CAP 5.X および ADS 2001 では、ベンダ・デーモン名はすべて hpeesofd、IC-CAP 2001,2002/ ADS 2002,2002C は agileesof、IC-CAP 2004, 2006 / ADS 2003A/2003C, 2004A, 2005A, および 2006A では agileesofd になります。

□ ライセンス・ファイル (license.lic)

ライセンス・ファイル (license.lic) はテキスト・ファイルです。vi エディタで編集したり、プリンタに出力することができます。

以下が、ライセンス・ファイル (license.lic)の例です。

これは、ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスが混在したものを、ADS 2006A の形式で発行したライセンスの例です。license.lic ファイルの書式は、発行された対象となる ADS のバージョンによって多少異なります。

```
SERVER licserver 7812392f
VENDOR agileesofd

INCREMENT sim_linear agileesofd 2.6 25-feb-2008 1 ¥   ノードロック
      VENDOR_STRING="80C4E936 : UKJU1YM LHYKAQC OMDNCWF OTMXYDG ¥
      XAHBGCT Z2DLFKW 2MW" HOSTID=7812392f START=25-aug-2006 ¥
      SIGN="0190 D140 E422 DAB8 6A52 79C6 E5E9 A4EC 27CD FEDE 9B00 ¥
      E318 C56A F734 209C F17D E50C E505 6CBA 9905 CDB5"
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 3 ¥   フローティング
      VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
      REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" START=25-aug-2006 SIGN="029E D21D ¥
      E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F BDA6 62FD ¥
      AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"
```

重要 Windows®版の ADSでは、INCREMENT 行の記述が

```
INCREMENT sim_linear agileesofd 2.6 25-feb-2008 uncounted ¥
```

のようになっており、SERVER行、VENDOR行の無い、Uncountedタイプのノードロック・ライセンスが提供されている場合があります。

UNIX / Linux 版の ADS では、Uncountedタイプのライセンスを利用することはできません。

もし、同一のコンピュータを Microsoft Windows®と Linuxのデュアル・ブート構成で運用し、その双方の環境で ADSをご利用いただく場合は、ライセンス発行申請時にその旨付記してください。Countedタイプのノードロック・ライセンスを発行いたします。

(3) ライセンス・サーバとライセンス・クライアント

ここでは、「ライセンス・サーバ」と「ライセンス・クライアント」の違いについて説明します。

□ ライセンス・サーバ

ライセンス・サーバとは、ライセンスを供給するコンピュータを指します。前述の `license.lic` ファイルの中では **SERVER** で始まる行に、「ホスト名」と「CPU-ID」が記述されています。これは、ライセンス発行時のみ指定可能で、「CPU-ID」をユーザが後から変更することはできません。「ホスト名」は変更可能です。

ライセンス・サーバのコンピュータでは、前述した `lmgrd` と `agileesofd` が実行されている必要があります。もし、**SERVER** 行が複数個あれば、それぞれのコンピュータで `lmgrd` を実行する必要があります(冗長ライセンス・サーバと呼びます)。

重要 UNIX/Linux 版の ADS では、**必ずライセンス・サーバの設定を行わなければなりません。**

□ ライセンス・クライアント

ライセンス・クライアントとは、ライセンス・サーバからライセンスを受け取って、実際にアプリケーション・ソフトウェアを実行するコンピュータを指します。

ノードロック・ライセンスの場合、前述した `license.lic` ファイルの中の **INCREMENT** 行に含まれる「**HOSTID=<CPU-ID>**」で指定されています。

ライセンス・クライアントでは、`lmgrd` と `agileesofd` を実行してはいけません。

5-3 ホスト名、CPU-ID の確認方法

ライセンスを取得するためには、ライセンス・サーバのホスト名、および、CPU-ID の情報が必要です。

また、ノードロック・ライセンスを使用する場合は、全てのノードロック・ライセンスのクライアント・マシンの CPU-ID の情報が必要になります。

ホスト名を確認する UNIX / Linux のコマンドは、以下のようになります。

Workstation	Command
HP-UX 11.0/11i	/usr/bin/hostname
Solaris 8 / 9	/bin/hostname
Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3	/bin/hostname

CPU-ID を確認する UNIX / Linux のコマンドは、以下のようになります。

Workstation	Command
HP-UX 11.0/11i	/usr/bin/uname -i
Solaris 8 / 9	/bin/hostid
Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3	・ LAN IDに対して取得 /sbin/ifconfig ・ FLEXidに対して取得 (*) \$HPEESOF_DIR/licenses/bin/lmutil lmhostid -flexid

(*) USB 接続のハードウェア・キーをご購入いただいている場合のみ有効。

以下に、CPU-ID の表示例を示します。

- HP-UX 11.0 / 11i の場合

```
$ uname -i
2019710512      (10 桁の 10 進数です)
```

注意 旧バージョンの ADSでは、HP-UXワークステーションの LAN ID(MACアドレス)に対して、ライセンス・コードワードを発行することができましたが、現在はセキュリティ上の問題により **LAN IDに対する発行は行えません**。
必ず、uname -i コマンドで表示される値で、ライセンス発行請求を行ってください。

- Solaris 8 / 9 の場合

```
$ hostid
7089AE08      (8 桁の 16 進数です)
```

□ Red Hat Enterprise Linux WS 3.x / 4.x、Novell SUSE Linux Enterprise Server 9.3 の場合

・ LAN ID に対してライセンスを取得する場合

\$ ifconfig

```
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:04:75:8D:72:77
          inet addr:146.208.19.59  Bcast:146.208.23.255  Mask:255.255.248.0
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:1393 errors:0 dropped:0 overruns:95 frame:0
          TX packets:8 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:100
          RX bytes:134404 (131.2 Kb)  TX bytes:480 (480.0 b)
          Interrupt:4 Base address:0xa800
```

/sbin/ifconfig コマンドは、PC に搭載された全ての LAN インターフェースの情報を表示します。

複数の LAN インターフェースを備えている場合は、そのうちの一つを選んで、HWaddr 項目の情報 (LAN ID/MAC アドレス) を控えてください。

ライセンスの発行請求を行う際は、00:04:75:8D:72:77、もしくは、0004758D7277 のように記述してください。

・ USB 接続ハードウェア・キーの FLEXid に対してライセンスを取得する場合

\$ <ADS 2006A インストール・ディレクトリ>/licenses/bin/lmutil lmhostid -flexid

lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.

The FLEXlm host ID of this machine is "FLEXID=9-08C99148"

Only use ONE from the list of hostids.

ADS 2006A のインストール・ディレクトリ下に用意されている lmutil ユーティリティを用いて、USB 接続式ハードウェア・キーの FLEXid を表示させます。

FLEXid はハードウェア・キー表面に貼付されたシールにも印刷されていますが、ユーティリティの表示と合致することをご確認ください。

ライセンスの発行申請を行う際は、9-08C99148 のように記述してください。

重要 ADS 2005A から、Linux OS 搭載の PC において、**USB 接続のハードウェア・キーの FLEXid** に対してライセンス・コードワードを発行することが可能になりました。

ただし、パラレル・ポート接続型のハードウェア・キー (FLEXid=7-xxxx、または、8-xxxx) はご利用いただけません。

必ず、Linux 用の FLEXid ドライバのインストールを行ってください。

4-11 節「FLEXid ドライバのインストール (Linux のみ)」

コードワード・ファイルを受け取った際、ファイル中にこれらの申請した CPU-ID が正しく記述されているかどうかをご確認ください。(ただし、“SERVER” で始まる行の CPU-ID は 16 進数で記載されていますので、HP-UX の CPU-ID の 10 進数の値とは異なっています。HP-UX の場合は、10 進数の CPU-ID の値を 16 進数に変換してからご確認ください。

HP-UX の例)

・ `uname -i` コマンドで表示された値
2019710512

・ ライセンス・ファイルの SERVER 行
SERVER unknown **78625630**

78625630 (16 進表記) = **2019710512** (10 進表記)

5-4 ライセンス・ファイル (license.lic) の編集

ライセンス・ファイルを編集します。

ライセンス・ファイルは、通常電子メールの添付ファイルとして提供されますので、ライセンス・サーバとなるコンピュータにコピーして、\$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic に設置します。

ライセンス・ファイル (license.lic) を**受け取ったら必ず内容を確認し**、サーバ・ホスト名の修正、CPU-IDの確認を行い、必要であれば TCP/IPポートの指定等の変更を加えてください。

ライセンス・ファイル (license.lic) の例を示します。

```
SERVER licserver 78625630

VENDOR agilesofd

INCREMENT ads_datadisplay agilesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
    VENDOR_STRING="2019710512 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
    WFYQNVN DNJU1YM LHYKAQC OM" START=25-aug-2006 SIGN="0010 18B6 ¥
    3D5D F3FE 9759 4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 D085 ¥
    9278 DEE0 674D 9E3D 2E02 CC95 26FD"
INCREMENT ads_schematic agilesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
    VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
    REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" START=25-aug-2006 SIGN="029E D21D ¥
    E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F BDA6 ¥
    62FD AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"
```

参考 ライセンス・ファイルの各行末に ¥ マークが付いている場合がありますが、これは次の行に記述が続くことをあらわしています。通常はこの ¥ マークを付けたまま使用しても問題はありませんが、一部の OS では、¥マークを使った記述が認識されない場合があります。その時は、¥マークを削除し、改行をいれなくて1行で記述してください。通常、この作業は必要ありませんので、**極力行わないでください**。

また、¥マークは日本語環境での表示で、英語環境では\ (逆スラッシュ) で表示されます。

以下、ライセンス・ファイルの記述内容について説明いたします。

■ SERVER 行

ライセンス・サーバのコンピュータを定義している行です。ここに記載されているコンピュータ上で、ライセンス管理デーモン `lmgrd` を実行する必要があります。(lmgrd 起動時に自動的に起動されるベンダ・デーモン `agilesofd` も動作している必要があります)。

SERVER の行が複数(3 行以上で、奇数個)の場合は、冗長ライセンス・サーバ構成です。

SERVER 行の文法、例および各項目の説明は次の通りです。

<文法> **SERVER <ホスト名> <CPU-ID> [<TCP/IP ポート番号>]**

<例 1 > SERVER licserver 77B44494

<例 2 > SERVER edaserver 77B44495 27001

次ページで、SERVER 行の各項目について説明します。

<p>ホスト名 (任意に変更可能)</p>	<p>コンピュータのホスト名です。UNIX / Linux の hostname 命令で確認できます。 ホスト名はコードワードの中では符号化されていないので、ユーザが任意に指定できます。 ホスト名が unknown の場合や、間違っている場合は、正しい（現在設定されている）ホスト名への書き換えが必要です。</p>		
<p>CPU-ID</p>	<p>コンピュータ固有のID番号です。確認方法については、5-3節 をご参照ください。CPU-IDはコードワードの中に符号化されて組み込まれますので、ユーザが変更することはできません。 Solaris、および、Linux の場合は、16 進数で取得した CPU-ID がそのまま記述されていますが、HP-UX の場合は 10 進数で取得した CPU-ID を 16 進数に変換したものが記述されますのでご注意ください。</p> <p><例> <code>uname -i</code> の実行結果が 2008302740 の時、SERVER 行には 77B44494 (16 進数に変換された値)と記入されています。</p> <p>10 進数を 16 進数表記に変換する最も簡単な方法は、Microsoft Windows®の電卓を使用することです。手順を簡単にご紹介します。[アクセサリ]の中の[電卓]を選択すると電卓が起動します。電卓起動後、[表示]メニューから[関数電卓]を選択します。<code>uname -i</code> の実行結果を 10 進数で入力した後、電卓上の[0 1 6 進]を選択すると 16 進数に変換されます。</p> <p>間違った CPU-ID 番号が記入されている場合は、このままでは動作しませんので、お手数ですが 8-1節 をご参照いただき、EDA コードワード発行受付までご連絡ください。新しいライセンス・ファイルをお送りします。</p>		
<p>TCP/IP ポート番号 (省略可能)</p>	<p>FLEXnetの lmgrd デーモンが使用する、LANの TCP/IPポート番号です。TCP/IPポート番号はコードワードの中では符号化されていないので、ユーザが任意に指定することができます。</p> <p>何も書かれてない場合は、システムの規定値(27000~27009)が自動的に使用されます。通常はこのままの状態をご利用ください。</p> <p>下記のような場合では、TCP/IP ポート番号を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ設定の為、使用するポートを指定したい場合。 ・別の FLEXnet デーモン、他のプロセス等が、規定値のポートを占有している場合。 		
<p>SERVER の行数</p>	<p>SERVER 行が複数ある場合は、冗長ライセンス・サーバ構成です。冗長サーバは 3 台以上の奇数台のコンピュータにより構成され、先頭の SERVER 行がプライマリ・サーバ、残りがバックアップ・サーバを示します。</p> <p>このうち、少なくとも2台以上が正常に動作している必要があります。</p>		
	<p>ライセンス・サーバ 合計数</p>	<p>動作している必要のある 最低ライセンス・サーバ数</p>	
	1	1	
	3	2	
	5	3	

■ VENDOR 行

ベンダ・デーモン (agileesofd) の名前やパスを定義する行です。また、オプション・ファイルも定義できますが、オプション・ファイルを使用しない場合は省略できます。

VENDOR 行の文法、例および各項目の説明は次の通りです。

<文法> **VENDOR** <ベンダ・デーモン名> [**<ベンダ・デーモンのパスと名前>**] [**<オプション・ファイルのパスと名前>**] [**port=<TCP/IP ポート番号>**]

<例 1 > VENDOR agileesofd

<例 2 > VENDOR agileesofd /agilent/licenses/vendors/agileesofd ¥
/agilent/licenses/agileesofd.opt

<例 3 > VENDOR agileesofd port=1053

ベンダ・デーモン名	ベンダ・デーモンの名前です。 変更できません。 ADS 2006A では、 agileesofd です。
ベンダ・デーモンのパスとファイル名 (省略可能)	ベンダ・デーモンの実行ファイルを、フル・パス表記で記述します。 起動した lmgrd と同じディレクトリに、ベンダ・デーモンが存在する場合は、この記述を省略することができます。ADS 2006A 付属のライセンス管理ツールのディレクトリ (\$HPEESOF_DIR/licenses/bin) には、 lmgrd と agileesofd が両方格納されていますので、この lmgrd (\$HPEESOF_DIR/licenses/bin/lmgrd) を起動した場合は、記述を省略することができます。 ベンダ・デーモン・パスを記述する際は、必ず正確なパスを記入してください。
オプション・ファイルのパスとファイル名 (省略可能)	オプション・ファイルのパスとファイル名です。 オプション・ファイル (agileesofd.opt 等) はテキスト・ファイルで、FLEXnet の様々な設定 (未使用ライセンスの自動開放設定、等) を行うことができます。オプションは特に設定する必要はありませんので、省略してもかまいません。
TCP/IP ポート番号 (省略可能)	ベンダ・デーモン agileesofd が使用する、LAN の TCP/IP ポート番号です。 SERVER 行で指定する lmgrd の TCP/IP ポート番号とは独立しておりますので、ご注意ください。 何も書かれてない場合は、ライセンス・サーバ起動時に、自動的に空いている TCP/IP ポート番号が割り振られます。 セキュリティ設定の為、固定の TCP/IP ポートを割り当てる必要がある場合等に設定してください。通常は省略したままで結構です。

■ INCREMENT 行

ADSの各コンポーネントに対するライセンス情報を定義する行です。**これらの行の項目は全て変更することはできません。**変更を加えると、ADSが正常に動作しなくなる恐れがあります。

INCREMENT 行の文法、記述例、および、各項目の説明は以下の通りです。

<文法> INCREMENT <機能名> <ベンダ・デーモン名> <バージョン> <有効期限> <ライセンス数> ¥
 <VENDOR_STRING=サーバID: キーコード> [<HOSTID=ノードロック ID>] ¥
 <START=使用開始日> <SIGN=キーコード>

<例> INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
 VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
 REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" HOSTID=7B859SB4 START=25-aug-2006 ¥
 SIGN="029E D21D E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 ¥
 D04A 7A6F BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"

機能名	使用できる機能名です。変更できません。 機能名(CODEWORD NAME)と製品の対応については、 7-6節「ADS 2006A 製品-コードワード対応」 をご参照ください。
ベンダ・デーモン名	ベンダ・デーモン名です。変更できません。 ADS 2006A では agileesofd です。
バージョン	コードワードのバージョンです。変更できません。 ADS 2006A では 2.6 です。
有効期限	コードワードの有効期限です。変更できません。
ライセンス数	ライセンスの本数です。変更できません。 この部分が数字ではなく、 uncounted と記されたライセンス・コードワードは、UNIX / Linux 環境では使用できません。
キーコード (VENDOR_STRING, SIGN)	暗号化されたコードワード情報です。変更できません。 VENDOR_STRING はライセンス・サーバの CPU-ID、SIGN は有効期限、ライセンス数等の情報を含みます。 何れも 16 進数(0 から 9 の数字と A から F の英文字)で、英文字の O(オー)や I(アイ)は使用されていません。
サーバ ID	ライセンス・サーバの CPU-ID が 「VENDOR_STRING=サーバID:キーコード」 の書式で記入されています。変更できません。 冗長ライセンス・サーバの場合は、プライマリ・ライセンス・サーバの CPU-ID が記述されます。 Solaris、Linux では 16 進表記、HP-UX では 10 進表記です。

<p>ノードロック ID</p>	<p>ノードロック先コンピュータの CPU-ID が、「HOSTID=ノードロック ID」の書式で記入されています。変更できません。</p> <p>フローティング・ライセンスの場合は、この項目は存在しません。</p> <p>ノードロック・ライセンスの場合は HOSTID= の項目が記述され、ここで指定された CPU-ID を持つコンピュータ以外では、このコードワードは利用できません。</p>
<p>使用開始日</p>	<p>このライセンス・コードワードが有効になる日付です。この日付より前に使用することはできません。変更できません。</p>

■ ライセンス・ファイル (license.lic) のまとめ ■

- ①. SERVER 行のホスト名を、正しい名前に変更してください。
- ②. SERVER 行の TCP/IP ポート番号を、必要に応じて変更してください。
- ③. VENDOR 行に、必要に応じてオプション・ファイル、TCP/IP ポート番号の記述を追加してください。
- ④. 上記以外に変更してはいけません。
- ⑤. 「ノードロック・ライセンス」と「ネットワークライセンス」の見分け方は、INCREMENT 行に HOSTID= で始まるコンピュータ ID 番号が記入されている行が存在するかどうかで判断できます。
- ⑥. INCREMENT 行のライセンス数に uncounted と記されており、SERVER / VENDOR 行の存在しないライセンス・ファイルは、UNIX / Linux 環境ではご利用いただけません。

■ ライセンス・ファイル (license.lic) の中で、変更できる部分 ■

下記 の 5 箇所のみをユーザが変更できます。それ以外を変更すると動作しません。逆に言えば、これらはコードワードの暗号キー中に符号化されていないということです。

SERVER licserver 19710512 27000

VENDOR agileesofd /usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd ¥
/usr/local/ADS2006A/licenses/agileesofd.opt port=1050

INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
VENDOR_STRING="80C4E936 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
WfyQNVm DNJU1YM LHYKAQC OM" START=25-aug-2006 SIGN="0010 ¥
18B6 3D5D F3FE 9759 4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 ¥
D085 9278 DEE0 674D 9E3D 2E02 CC95 26FD"

INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" START=25-aug-2006 SIGN="029E ¥
D21D E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F ¥
BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"

5-5 ライセンス・サーバの起動

ライセンス・ファイル(license.lic)の SERVER の行で指定されているすべてのコンピュータで以下の作業を行います。作業はスーパー・ユーザ (root) で行ってください。

注意 5-4節「ライセンス・ファイル(license.lic)の編集」を事前に行っておいてください。

重要 ADS 2006A のライセンス・サーバでは、**必ず ADS 2006A付属の FLEXnet(v10.8)を使用してください。**

旧バージョンの ADS付属のもの、もしくは ADS 2006A付属のものより新しいバージョンの lmgrd を使用した場合、暗号キーの誤り(encryption error)、不正なホストID(invalid hosted)、非サポートの機能(unsupported feature)等のエラーを生じる恐れがあります。

冗長ライセンス・サーバを構築している場合は、全てのライセンス・サーバの FLEXnetが、適切なバージョンであることをご確認ください。

lmgrd、agileesofd のバージョンは、それぞれ下記のコマンドで確認できます。

```
cd $HPEESOF_DIR/licenses/bin
./lmgrd -v (lmgrd のバージョン表示)
./agileesofd -v (agileesofd のバージョン表示)
```

<表示例>

```
lmgrd v10.8.0.10 build 27023 - Copyright (c) 1988-2006 Macrovision Europe Ltd. a
nd/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
```

ADS 2005A / 2004A / 2003A / 2003C 用の lmgrd が実行されている場合は、必ず停止させてから作業を行ってください。

注意 HP-UX 11.0 / 11i の場合は、/dev/lan0 に読み取り、書き込み、実行の全ての属性を可能に設定しなければなりません。作業前にスーパー・ユーザにて下記のコマンドを実行してください。

```
chmod 777 /dev/lan0
```

以後、環境変数 HPEESOF_DIR は ADS 2006A のインストール・ディレクトリを示します。また、実行例ではインストール・ディレクトリを /usr/local/ADS2006A としています。

- (1) ライセンス・ファイル(license.lic)のパーミッションを変更します。ライセンス・ファイルは一般ユーザにも読み取り権が必要です。

```
# cd /usr/local/ADS2006A/licenses
# chmod 555 license.lic
```

- (2) ライセンス管理デーモン (lmgrd) を起動します。以下の命令を一行で入力してください。

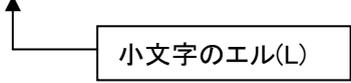
<書式>

```
# ./bin/lmgrd [-p] -c <ライセンス・ファイル> -l <ログ・ファイル>
```

<使用例>

```
# cd /usr/local/ADS2006A/licenses  
# ./bin/lmgrd -c ./license.lic -l ./flex.log
```

小文字のエル(L)



上記例では、ライセンス・ファイルを `/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic` に設置。ログ・ファイルを、`/usr/local/ADS2006A/licenses/flex.log` に指定しています。

-p オプションを付けることにより、lmgrd を起動したユーザのみ lmgrd を停止させるように設定できます。-p を付けていない場合は、全てのユーザがライセンス管理デーモンを停止することができますのでご注意ください。

- (3) lmgrd を起動すると、自動的にベンダ・デーモン(agileesofd)も起動されます。これら、二つのデーモンが起動しているかどうかは、UNIX / Linux の ps 命令等でご確認ください。

```
# ps -ef | grep lmgrd
```

<実行結果例>

```
root 185 1 0 May 12 ? 0:16 /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd -c /disk/ads..
```

```
# ps -ef | grep agileesofd
```

<実行結果例>

```
root 186 185 0 May 12 ? 0:21 agileesofd -T ホスト名 3 -c /disk/ads.....
```

agileesofd デーモンが起動していない時は、license.lic ファイルの VENDOR 行の記述に誤りがないかどうか、ご確認ください。

- (4) ライセンス・サーバが正しく起動したかどうかは、次節の「FLEXnet ログの確認とトラブルシューティング」をご参照ください。

5-6 FLEXnet ログの確認とトラブルシュート

- (1) ログ・ファイル flex.log の内容を確認します。
 ログ・ファイルに何らかのエラーを示すメッセージが出力されていないかどうかをご確認ください。
 ログ・ファイルの出力には少し時間がかかる場合がありますので、lmgrd を起動後、約 30 秒ほど待ってからご確認ください。

```
# more /usr/local/ADS2006A/licenses/flex.log
```

```

9:59:33 (lmgrd) -----
9:59:33 (lmgrd) Please Note:
9:59:33 (lmgrd) This log is intended for debug purposes only.
9:59:33 (lmgrd) In order to capture accurate license

          【一部省略】

9:59:33 (lmgrd) obtain an evaluation copy of FLEXnet Manager
9:59:33 (lmgrd) for your enterprise.
9:59:33 (lmgrd) -----
9:59:33 (lmgrd)
9:59:33 (lmgrd) ライセンス・ファイルのパス
9:59:33 (lmgrd) The license server manager (lmgrd) running as root:
9:59:33 (lmgrd) This is a potential security problem
9:59:33 (lmgrd) and is not recommended.
9:59:33 (lmgrd) FLEXnet Licensing (v10.8.0.10 build 27023) started on
9:59:33 (lmgrd) licserver (hp 9000/785) (9/26/2006)
9:59:33 (lmgrd) Copyright (c) 1988-2006 by Macrovision Europe Ltd. and/or
9:59:33 (lmgrd) Macrovision Corporation. All rights reserved.
9:59:33 (lmgrd) US Patents 5,390,297 and 5,671,412.
9:59:33 (lmgrd) World Wide Web: http://www.macrovision.com
9:59:33 (lmgrd) License file(s): /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
9:59:33 (lmgrd) lmgrd tcp-port 27000 ←
9:59:33 (lmgrd) Starting vendor daemons ...
9:59:33 (lmgrd) Started agileesofd (internet tcp_port 49182 pid 1773) ←
9:59:35 (agileesofd) FLEXnet Licensing version v10.8.0.10 build 27023
9:59:40 (agileesofd) Server started on licserver for: ads_circuit_synthesis
9:59:40 (agileesofd) ads_data display ads_drc ads_encoder
9:59:40 (agileesofd) ads_layout ads_lite ads_rf_architect
9:59:40 (agileesofd) ads_schematic dg_commsys dg_filter
  
```

ベンダ・デーモン名

使用可能なライセンスの一覧

ベンダ・デーモン agileesofd の起動と、TCP/IP ポート番号、および、PID

lmgrd の TCP/IP ポート番号

(2) ログ・ファイルに記述される内容

以下は ADS 2006A を起動し、シミュレーションを実行した時に、flex.log ファイルに記入される内容の例です。

OUT はライセンスがサーバから発行されたこと(Check Out)、つまりライセンスの使用開始をあらわしています。使用された機能名と、ユーザ名、ホスト名が記録されています。

11:24:38 (agileesofd) OUT: "ads_schematic" username@hostname	(ADS を起動)
11:35:51 (agileesofd) OUT: "sim_linear" username@hostname	(リニア・シミュレーション実行)
11:38:47 (agileesofd) OUT: "ads_datadisplay" username@hostname	(結果のグラフ表示を実行)

以下は ADS 2006A を終了した時に、flex.log ファイルに記入される内容の例です。

IN はサーバにライセンスが戻って来た(Check In)、つまりライセンスの使用終了をあらわしています。

11:41:51 (agileesofd) IN: "sim_linear" username@hostname
11:41:52 (agileesofd) IN: "ads_datadisplay" username@hostname
11:41:53 (agileesofd) IN: "ads_schematic" username@hostname

以下の例は、使用していない時に flex.log ファイルに記入される内容の例です。約6時間ごとにタイム・スタンプが記録されます。

22:21:05 (lmgrd) TIMESTAMP 9/30/2005
4:21:05 (lmgrd) TIMESTAMP 10/1/2005

<参考> UNIX / Linux の tail 命令に -f オプションを付けることにより、flex.log ファイルに新しいメッセージが記入される毎に、その内容をターミナル・ウィンドウに表示することができます。tail 命令の終了は CTRL+c です。

\$ tail -f flex.log

<応用> 上記のように、flex.log ファイルにはシステムの使用(稼動)状況が記録されます。これにより、製品がどのような頻度(機能名、ユーザ名、ホスト名)で使用されているかが確認できます。

ここで注目する機能名は“ads_schematic”です。なぜなら、この“ads_schematic”は ADS 本体(ユーザ・インターフェース)のライセンス・コードワードだからです。つまり、flex.log ファイルの“ads_schematic”の IN 時刻から OUT 時刻を差し引いた時間が、ADS 本体の使用時間になります。

ただし、ライセンス・バンドルを使用している場合は、ads_schematic を含むバンドルのライセンス名(例: ltp_rfic_dg)が記録され、ads_schematic の記録は残りませんのでご注意ください。

<p>ADS が正常に起動しない時は、flex.log ファイルをご確認ください。 flex.log ファイルの中にさまざまなヒントが記録されています。</p>

(3) ログ・ファイル中のエラー記録

正常に動作した場合は、前述のように使用することのできるライセンスが記入されます。コードワードが間違っている場合や、ライセンス・デーモンが正常に動作しなかった場合は、エラー・メッセージが記入されます。**flex.log ファイルを必ず確認してください。**

注意 トラブルの際は、**必ず、flex.log ファイルの内容をご確認ください。** FLEXnet が正常に動作しなかった場合の対策のヒントが発見できます。

<flex.log ファイル中のエラー・メッセージの例>

- agilesofd デーモンが見つからない
⇒ license.lic ファイルの VENDOR 行を間違えて記入している。
- ライセンス・サーバが見つからない
⇒ license.lic ファイルの SERVER 行のホスト名を間違えて記入している。
- ネットワーク上に同一の TCP/IP ポート番号がある
⇒ license.lic ファイルの SERVER 行、または、VENDOR の行の TCP/IP ポート番号を変更する。

注意 lmgrd デーモンが正常に起動し、flex.log ファイルにエラー・メッセージ等を記入するまでに、約 30 秒程かかる場合があります。

注意 ユーザが ADS を使用する毎に、その使用状況が flex.log ファイルに自動的に記入されます。flex.log ファイルのファイルサイズはどんどん大きくなっていきますので、残りディスク容量にご注意ください。ディスク容量に余裕がない場合は、必要であればログ・ファイルをバックアップする等した後、定期的に削除してください。

参考 もし、flex.log ファイルに、すべての INCREMENT 行で Invalid license key と記録されていた場合、まずライセンス・ファイル中の CPU-ID と、コンピュータの CPU-ID が一致しているかどうかをご確認ください。

また、PC (Windows®) 上の電子メール等でライセンス・ファイルを受け取り、それを UNIX / Linux に転送する場合は、各行末の改行コードにご注意ください。

Windows® (MS-DOS®形式) と UNIX / Linux では改行コードが異なっているため、改行コードの変換が必要です。

一般的に、vi エディタでファイルを開いた時に、文末に ^M という文字が付いている場合は、文末改行コードの変換が必要です。UNIX / Linux 上で、この文末改行コードを変換 (DOS → UNIX) するコマンドは、以下の通りです。

```
HP-UX          dos2ux license.lic.dos > license.lic
Solaris        dos2unix license.lic.dos license.lic
Linux          dos2unix license.lic.dos license.lic
```

また、Windows 2000/XP のメモ帳を用いて編集を行った場合は、ファイル保存時の文字コードを必ず ANSI にしてください。unicode, UTF-8 等で保存した場合は、UNIX / Linux では正しく読むことができません。

< flex.log ファイルに記録されるエラー・メッセージ例と対応 >

◇ **CANNOT OPEN option file “...../local.option”**

－原因－

ライセンス・ファイル(license.lic)の **VENDOR** 行で指定された、オプション・ファイル(local.option) が開けないというメッセージです。

－対策－

オプション・ファイルはユーザ毎に使用制限等設定するファイルですが、設定は必須ではありません。このメッセージは無視しても構いません。

◇ **EXPIRED：製品名 (ads_schematic 等)**

－原因－

その製品の有効期限が切れました。

－対策－

有効期限は、ライセンス・ファイル(license.lic)の **INCREMENT** 行で確認できます。ライセンスの期限が切れた場合は、弊社までお問い合わせください。新しいライセンス・ファイルを発行いたします。

◇ **Retrying socket bind (address in use : port 1700)**

－原因－

ライセンス・サーバが **TCP/IP** ポート番号 **1700** を使って通信を試みましたが、既にこの番号(1700)が使用されているため、正常に通信が行えませんでした。

－対策－

ライセンス・ファイル(license.lic)の **SERVER** 行、および、**VENDOR** 行の末尾に他の **TCP/IP** ポート番号を指定し、**lmgrd** を一旦止めた後、**lmgrd** を再起動してください。

◇ **MULTIPLE “agileesofd” servers running**

－原因－

同一のマシンで同じ名前のベンダ・デーモン(agileesofd)を複数個動作させようとしています。一つのマシンでは、同じベンダ・デーモンは一つしか動作できません。

－対策－

すでに動作している **lmgrd** をすべて止めた後、**lmgrd** をひとつだけ起動してください。

◇ **UNSUPPORTED “製品名” (License Server does not support this feature)**

—原因—

- A) `lmgrd` が参照しているライセンス・ファイル(`lmgrd` 起動時に読み込まれたライセンス・ファイル)と、ソフトウェアが参照(環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` 等で指定)しているライセンス・ファイルが異なっています。
複数のライセンス・ファイル(`license.lic`, `license.dat`) をハード・ディスクに保管している時は特に注意してください。
- B) `lmgrd` のバージョンが、ベンダ・デーモンのバージョンに対して一致しない場合に発生する場合があります。

—対策—

- A) 環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` や `LM_LICENSE_FILE` を確認し、それが `lmgrd` 起動時に使用したライセンス・ファイルと同一であるかどうかを確認します。環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` に `lmgrd` が参照しているライセンス・ファイルを指定します。
- B) `FLEXnet` を使用したアプリケーションを複数使用している場合は、`lmgrd` は必ず一番新しいバージョンのものを使用してください。`lmgrd`, `agileesofd` のバージョンは、
`lmgrd -v`, `agileesofd -v` コマンドでそれぞれ確認できます。

◇ **Invalid license key (inconsistent encryption code for “製品名”)**

—原因—

ライセンス・ファイル (`license.lic`) 中の `INCREMENT` 行の記述が間違っています。

—対策—

- A) すべての `INCREMENT` 行でこのエラーが表示された場合は、`INCREMENT` 行の文末の改行コードをまず疑ってください。特に PC のメールソフトで受け取ったライセンス・ファイルを `UNIX / Linux` に移動した場合に多く発生します。
- B) 1 行または数行のみ、このエラーが表示された場合は、ライセンス・ファイルの該当する行に余分な改行や文字が入っていないかをご確認ください。PC のメールソフトでライセンス・ファイルを受け取った場合に、メールソフトの自動折り返しの影響で一部の行のみ余分な改行が入っている場合があります。
また、その行に目に見えない(画面に表示されない) コードが入っている場合がありますので。その行を削除しキーボードから入力しなおして見るのも有効です。

上記いずれの場合も、`license.lic` ファイルを変更した後は、`lmutil lmreread` 命令でライセンス・ファイルの変更をシステムに再認識させる必要がありますので、ご注意ください。(ファイルを編集しただけでは、エラーは解決しません)

それでも解決しない場合は、ライセンスが誤って発行されている可能性があります。その場合、弊社 EDA テクニカルサポートか、コードワードセンタまでご連絡ください。

◇ **agileesofd daemon found no features**

－ 原因 －

ベンダ・デーモン **agileesofd** はライセンス・ファイル (**license.lic**) 中に有効な製品を見つけられませんでした。

－ 対策 －

ライセンス・ファイル (**license.lic**) をご確認ください。

lmgrd 起動時に、有効ではない(バージョンが) **license.lic** を指定している場合が考えられます。**lmgrd** がすでに動作している場合は、一旦停止し、**license.lic** が正しいかどうかをご確認後、**lmgrd** を再度起動してください。

5-7 FLEXnet を OS 起動時に自動起動する方法

ここでは、UNIX / Linux 起動時にライセンス・デーモンを自動起動するための設定方法を説明いたします。

設定後、UNIX / Linux を再起動し、デーモンが実行されているかどうかを確認してください。

UNIX / Linux 起動時に自動的に FLEXnet ライセンス・デーモンを起動するには、以下の三行からなるスクリプトをご利用になっている OS の種類に応じた適切な起動スクリプトの設置場所に設置します。

```
/ads2006a/licenses/bin/lmgrd -c /ads2006a/licenses/license.lic -l /ads2006a/licenses/flex.log  
echo "Starting Agilent EEsof FLEXnet license daemon...."  
/usr/bin/sleep 5
```

注意 上記スクリプト中の、/ads2006a と記述された部分は、**ADS 2006Aのインストール・ディレクトリ・パス（もしくは、FLEXnetライセンス・マネージャを配置したパス）**に置き換えてください。

以下、OS 毎の上記ファイルの設置場所と作成手順を簡単に記します。

1. cd コマンドでカレント・ディレクトリを、下記のディレクトリに変更します。
cd /sbin/rc3.d (HP-UX)
cd /etc/rc3.d (Solaris)
cd /etc/rc.d/init.d (Linux)
2. テキスト・エディタ等で、Sagileesofd という名称のファイルを作成し、上記枠内の 3 行を記述します。

注意 必ず、一文字目の S のみ大文字で、二文字目以降は小文字にしてください。

3. ファイル Sagileesofd の属性を下記のように設定します。
chmod 755 Sagileesofd
chown root Sagileesofd
chgrp sys Sagileesofd
4. **Linux の場合は**、下記のようにシンボリック・リンクを作成します。
ln -s /etc/rc.d/init.d/Sagileesofd rc3.d/S99Sagileesofd
ln -s /etc/rc.d/init.d/Sagileesofd rc4.d/S99Sagileesofd
ln -s /etc/rc.d/init.d/Sagileesofd rc5.d/S99Sagileesofd

5-8 冗長ライセンス・サーバの設定

下記のように、ライセンス・ファイル(license.lic)の **SERVER** 行が複数行ある場合は、各サーバごとに前述した「ライセンス・サーバの設定」を行ってください。

このライセンス・サーバの構成を、冗長ライセンス・サーバ(Redundant License Servers)と呼びます。

```
SERVER adssvr1 77B44494
SERVER adssvr2 19710512
SERVER adssvr3 2144BB68

VENDOR agileesofd
(以下略)
```

冗長ライセンス・サーバの場合、下記の表に示すように、ライセンス・サーバが正しく動作するためのライセンス・サーバの最低動作台数があります。逆に、最低動作台数のライセンス・サーバさえ動いていれば、ハードウェアの故障等でライセンス停止したライセンス・サーバがあっても、ライセンスを供給することができます。

SERVER 行の数 (サーバの台数)	ライセンスを発行するために、 動作していることが必要な最低台数
1	1
3	2
5	3

注意 冗長ライセンス・サーバを形成するためには、ライセンス発行申請時にその旨を伝えておく必要があります。ライセンス発行後のサーバ構成変更は、有償対応になります。

5-9 ライセンス・クライアントでの設定

ライセンス・クライアント (ADS を実行する環境) では、ライセンス・サーバに接続するための環境を構築する必要があります。ライセンス・クライアントでは、ライセンス・サーバへ接続するための環境変数の設定のみ必要で、FLEXnet のデーモン(lmgrd)を実行する必要はありません。ここでは、ライセンス・クライアントにおけるライセンス設定について解説します。

実際に ADS を起動する際は、

6-2 節「ユーザ毎の環境設定」

の作業を必ず行ってください。

環境変数には、AGILEESOFD_LICENSE_FILE を使用します。この環境変数を、ADS を使用する全てのユーザの .cshrc (C シェルの場合)、.profile (B/K シェルの場合)や、.bash_profile (bash の場合) に設定します。

注意 AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数が設定されている場合は、従来用いていた LM_LICENSE_FILE の設定は無効となります。ただし、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数が設定されていない場合は、従来通り LM_LICENSE_FILE 設定を用いてライセンスを取得できます。**ただし、LM_LICENSE_FILE 環境変数はなるべく使用しないでください。**

(1) AGILEESOFD_LICENSE_FILE の値の指定

■ 「TCP/IP ポート番号@ホスト名」による指定

ライセンス・クライアントの数が多い等、ファイルのコピーを行いたくない場合は、「TCP/IP ポート番号@ホスト名」の形式で設定することができます。ホスト名の代わりに IP アドレスを用いることもできます。

<書式> AGILEESOFD_LICENSE_FILE=<port>@<SERVER_hostname>

<例> AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@licserver

<port> には、license.lic ファイルの SERVER 行に書かれている TCP/IP ポート番号を記述してください。指定を省略していた場合は、SERVER 行末に TCP/IP ポート番号を記入後、ライセンス・サーバを再起動してください。

<SERVER_hostname> には、ライセンス・サーバのホスト名を記述します。クライアントからライセンス・サーバに対し指定のホスト名で接続ができるかどうか、ping 命令等を用いてご確認ください。

```
# ping <SERVER_hostname>
```

設定例は以下のようになります。

□ C シェルの場合

```
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE 27000@licserver
```

□ B/K シェル、bash の場合

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@licserver
```

```
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

この設定でライセンスが取得できない場合は、ライセンス・ファイルの記述、ネットワークの接続状況等をチェックしてください。それでも解決できない場合は、「**ライセンス・ファイルのパス**」による指定をお試しく下さい。

■ 「@ホスト名」による指定

ライセンス・サーバで、`license.lic` ファイルの `SERVER` 行の TCP/IP ポート番号指定を省略している場合は、「@ホスト名」の形式で指定することができます。ホスト名の代わりに IP アドレスを用いることもできます。

<書式> `AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@<SERVER_hostname>`

<例> `AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver`

`license.lic` ファイルの `SERVER` 行のポート番号を省略した場合は、27000~27009 までのポート番号のうち、他のプロセスで使用されていないものが自動的に用いられます。`AGILEESOFD_LICENSE_FILE` を「@ホスト名」形式で設定した場合は、ADS がサーバ側のポート番号 27000~27009 でライセンス・サーバが動作しているかをチェックし、見つければそのポート番号からライセンス取得を試みます。これ以外のポートを使用している場合は自動検出できませんので、「**TCP/IP ポート番号@ホスト名**」による指定をお試しく下さい。

設定例は以下のようになります。

□ C シェルの場合

```
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE @licserver
```

□ B/K シェル、bash の場合

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

この設定でライセンスが取得できない場合は、ライセンス・ファイルの記述、ネットワークの接続状況等をチェックしてください。それでも解決できない場合は、「**ライセンス・ファイルのパス**」による指定をお試しく下さい。

■ 「ライセンス・ファイルのパス」による指定

下記のような場合は、`AGILEESOFD_LICENSE_FILE` に、直接ライセンス・ファイルをフル・パス付きで記述します。

- ・ NFS の設定により、ライセンス・サーバ上のライセンス・ファイル(`license.lic`)を直接参照できる場合。
- ・ ライセンス・サーバ上のライセンス・ファイル(`license.lic`)を、ライセンス・クライアントにコピーしている場合。

ここでは、ADS がインストールされたディレクトリを示す環境変数 `$HPEESOF_DIR` が、既に設定されているものとして説明します。

□ C シェルの場合

```
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE $HPEESOF_DIR/licenses/license.lic
```

□ B/K シェル、bash の場合

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

(2) 複数のライセンス・サーバを参照する場合

複数のライセンス・サーバを参照したい場合は、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数に、以下の例のようにコロン(:)で区切って全ての参照先を記述します。

□ C シェルの場合

```
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE 27000@server1:27000@server2:27002@server3
```

□ B/K シェル、bash の場合

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@server1:27000@server2:27002@server3  
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

サーバのホスト名、および、TCP/IP ポート番号は、実際の設定に合わせて適宜置き換えてください。

(3) Windows®PC から UNIX / Linux のライセンス・サーバを参照する場合

クライアント・マシンが PC である場合でも、同様に AGILEESOFD_LICENSE_FILE を設定することで、UNIX / Linux ライセンス・サーバからライセンスを取得することができます。

Windows® OS の場合は、環境変数かレジストリで AGILEESOFD_LICENSE_FILE を設定します。環境変数とレジストリでは、参照時の優先順位は環境変数の方が上位になります。

・ 環境変数の設定

下記メニューで「システムのプロパティ」を開き、詳細タブの [環境変数] ボタンをクリックします。

□ Windows® 2000 の場合

スタート→設定→コントロール・パネル→システム

□ Windows® XP の場合

スタート→コントロール・パネル→パフォーマンスとメンテナンス→システム
(クラシック表示の場合は、コントロール・パネル→システム)

ユーザ環境変数 (現ユーザー固有)、システム環境変数 (全ユーザー共通) の何れかに、下記を追加します。

変数名 AGILEESOFD_LICENSE_FILE
変数値 <ライセンス・ファイル名> or <TCP/IP ポート@ホスト名> or <@ホスト名>

・ レジストリの設定

レジストリ・エディタを起動します。(通常は、スタート→ファイル名を指定して実行 で、regedit と入力)

ADS 2006A 固有の設定は、下記のキーにあります。

マイ コンピュータ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Agilent¥ADS¥3.1¥eeenv

AGILEESOFD_LICENSE_FILE は既に登録されていますので、値のデータを変更してください。

<ライセンス・ファイル名> or <TCP/IP ポート@ホスト名> or <@ホスト名>

5-10 参考：ライセンス・ファイルを結合(マージ)する方法

この節では、既に使用しているライセンス・ファイルに、ライセンスを追加する方法を説明します。ただし、ライセンスの追加は、対象となる各 license.lic(または license.dat) ファイルにおいて、全ての **SERVER** 行が完全に一致している必要があります。

この方法は、ライセンスを追加購入した時や、既に動作しているサーバで別のコンピュータのライセンスも供給する場合等にも用います。

<ライセンス・ファイルをマージすることのできない例>

■ SERVER 行の**行数**が異なる

ライセンス・ファイル中の、**SERVER** 行の数が異なるライセンス・ファイルを一つにまとめることはできません。

license.lic ファイル (サーバ数:1)	license.lic ファイル (サーバ数:3)
SERVER ads1 77B44494 1700	SERVER ads1 77B44494 1700
	SERVER ads2 8578AA43 1700
	SERVER ads3 908AE590 1700

■ SERVER 行の**コンピュータID番号**が異なる例

同一のコンピュータ(ホスト名が同じ)であるが、**SERVER** 行が CPU-ID と LAN-ID (ethernet address) で発行されているライセンス・ファイル

license.lic ファイル (CPU-ID)	license.lic ファイル (LAN-ID)
SERVER ads1 77B44494 1700	SERVER ads1 080001971512 1700

ライセンスを結合する場合、二つのコードワード・ファイルを一つにまとめる作業が必要となります。そして、ライセンス・サーバが起動している場合は、ライセンス・デーモン(lmgrd)にライセンス・ファイルを再読み込みさせます。

次ページから具体的作業について説明します。

- (1) 既存のライセンス・ファイルに別のライセンスを加える。

エディタを用いて、現在使用しているライセンス・ファイル(/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic等)に、別のライセンス・ファイルの INCREMENT 行を加えます。

ベンダ・デーモンが複数種ある場合は、VENDOR 行 (または DAEMON 行) も加えます。
VENDOR行には、必ずファイル・パス付きのベンダ・デーモン名も指定してください。

ファイル・1

```
SERVER licserver 77B44494 1700
DAEMON agileesof /iccap2001/licenses/vendors/agileesof

INCREMENT iccap_environment agileesof 6.0 29-apr-2007 20 4969C91B6F09 ¥
      VENDOR_STRING=s=77B44494
```

ファイル・2

```
SERVER unknown 77B44494
VENDOR agileesofd

INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.6 25-feb-2008 2 ¥
      VENDOR_STRING=s=77B44494 HOSTID=77B44494 START=25-aug-2006 ¥
      SIGN="02F8 DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 ¥
      2032 659D 5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
```

結合後のファイル

```
SERVER licserver 77B44494 1700
DAEMON agileesof /iccap2001/licenses/vendors/agileesof
VENDOR agileesofd /usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd

INCREMENT iccap_environment agileesof 6.0 29-apr-2007 20 4969C91B6F09 ¥
      VENDOR_STRING=77B44494
INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.6 25-mar-2007 2 ¥
      VENDOR_STRING=s=77B44494 HOSTID=77B44494 START=25-aug-2006 ¥
      SIGN="02F8 DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 ¥
      2032 659D 5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
```

(2) ライセンス・ファイルの再読み込み (ライセンス・デーモンが起動している場合)

ライセンス・サーバが起動している場合は、ライセンス・サーバのライセンス・デーモン(lmgrd)に新しいライセンス・コードワードを読み込ませなければなりません。

一旦ライセンス・デーモン(lmgrd)を停止させた後にライセンス・デーモンを再起動する方法と、ライセンス・デーモンを停止させずにライセンスを再読み込みさせる方法があります。

■ **ライセンス・デーモンを停止させ、再起動させる**

4-4節の手順に従って、ライセンス・デーモン(lmgrd)を停止させ、再起動してください。

ライセンス・デーモンの停止方法については、

7-5節「**FLEXnet ユーティリティの使用法**」

もご参照ください)

■ **ライセンス・デーモンを停止させずに、ライセンスを再読み込みさせる**

この方法は、“license.lic” ファイルのパスとファイル名が更新前・更新後で変更が無い場合のみ可能です。ライセンス・サーバの停止が困難な場合等にご利用ください。

パス名・ファイル名が変わってしまった場合は、一度ライセンス・デーモンを停止した後、再度ライセンス・デーモンを起動してください。

前ページ(1)の手続きをライセンス・サーバで行って、license.lic ファイルを更新します。また、クライアント・マシンに license.lic ファイルがある場合は、サーバと同じ license.lic ファイルに置き換えます。

1. サーバ・マシン上で、コマンドラインから以下のコマンドを実行します

<書式> lmutil lmreread -c <ライセンス・ファイル>

<実行例>

```
# cd $HPEESOF_DIR/licenses
# ./bin/lmutil lmreread -c ./license.lic
```

上記手順により、サーバ・マシン上のライセンス・デーモン(lmgrd)に license.lic ファイルを再読み込みさせます。

2. 次のコマンドを用いると現在使用できるライセンスの一覧が表示されます。ライセンス・サーバが新しいライセンス情報を読み込んでいることを確認します。

<書式> lmutil lmstat -a -c <Installation Directory>¥licenses¥license.lic

<実行例>

```
# cd $HPEESOF_DIR/licenses
# ./bin/lmutil lmstat -a -c ./license.lic
```

また、flex.log ファイルにも、以下のようにライセンスの再読み込みを示すメッセージが記録されます。

<flex.log ファイルの lmreread 実行時メッセージの例>

```
2:30:02 (lmgrd) TIMESTAMP 9/12/2006
8:30:02 (lmgrd) TIMESTAMP 9/12/2006
10:16:39 (agileesofd) Rereading license file... ← lmreread コマンドの実行
10:16:39 (lmgrd) Done rereading ↓ 新たに認識されたライセンス
10:16:39 (agileesofd) Server started on licserver1 for: ads_datadisplay
10:16:39 (agileesofd) ads_drc ads_encoder ads_layout
10:16:39 (agileesofd) ads_lite ads_schematic dg_4mfg
10:16:39 (agileesofd) dg_ad_da dg_amp_modeling dg_amps
10:16:39 (agileesofd) dg_catv dg_commsys dg_filter
10:16:39 (agileesofd) dg_ina dg_linear dg_ltcc
10:16:39 (agileesofd) dg_mimo dg_mini_lib dg_mixer
10:16:39 (agileesofd) dg_multi_carrier dg_opt2 dg_opt3
10:16:39 (agileesofd) dg_opt4 dg_oscillator dg_passives
10:16:39 (agileesofd) dg_pll dg_pwr_amp dg_rx
(一部省略)
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_datadisplay ←既存ライセンスの更新
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_drc
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_encoder
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_layout
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_lite
(一部省略)
10:16:39 (agileesofd) Rereading options file...
10:16:39 (agileesofd) ...Finished rereading ← 再読み込み処理の完了
```

もし正常に動作しなければ、**4-4節**を参考にライセンス・デーモン(lmgrd)を一度停止して、**5-5節**の手順に従って、もう一度ライセンス・デーモン(lmgrd)を起動し直してください。

Q 1 ライセンス・ファイル (license.lic) の SERVER 行の CPU-ID 番号が、uname -i 命令の結果と異なる(HP コンピュータの場合)

HP-UX の `uname -i` 命令は、CPU-ID を 10 進数で表示します。一方、SERVER 行の CPU-ID は 16 進数で記入されています。

<例> `uname -i` の実行結果が 2008302740 の時、SERVER 行には 77B44494 (16 進数に変換された値)と記入されます。

```
SERVER licserver 77B44494
```

Q 2 ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスの見分けかた

ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスを見分けるためには、ライセンス・ファイル(license.lic)を参照します。

以下の例のように、license.lic ファイルの INCREMENT 行に「HOSTID=<CPU-ID>」が記入されていれば、それはノードロック・ライセンスです。記入されていなければ、ネットワークライセンスです。言い換えれば、INCREMENT 行に「HOSTID=<CPU-ID>」が記入されているということは、その CPU-ID を持つコンピュータのみに限定されたライセンスである、とすることができます。

□ ノードロック・ライセンスの例

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 1 ¥
VENDOR_STRING=2014460207 HOSTID=7812392f ¥
START=25-aug-2006 SIGN="012A ED70 15F9 B8ED 以下省略
```

↑
「HOSTID=<CPU-ID>」があるのでノードロック・ライセンス

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 uncounted ¥
VENDOR_STRING=2014460207 HOSTID=7812392f ¥
START=25-aug-2006 SIGN="012A ED70 15F9 B8ED 以下省略
```

↑
ライセンス本数が「uncounted」なのでノードロック・ライセンス (Windows®のみ)

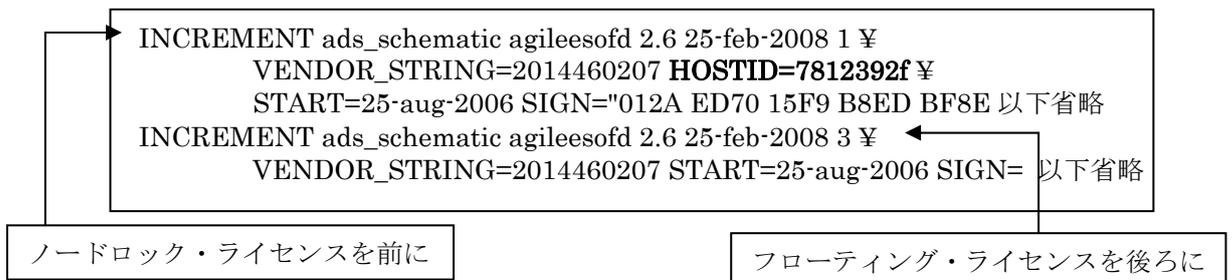
□ ネットワークライセンスの例

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 3 ¥
VENDOR_STRING=2014460207 START=25-aug-2006 SIGN="0213 ¥
57B5 9799 15F9 以下省略
```

「HOSTID=<CPU-ID>」が無いのでフローティング・ライセンス

Q 3 ノードロック/フローティング・ライセンスが混在する場合の注意点

下記の例のような、ノードロックとフローティング・ライセンスが混在するライセンス・ファイルを使用する場合は、必ずノードロック・ライセンスの方を行の上（始め）の方に記入してください。さもないと、ノードロック・ライセンスを割り当てられたライセンス・クライアントであっても、フローティング・ライセンスの方を先に取得してしまいます。

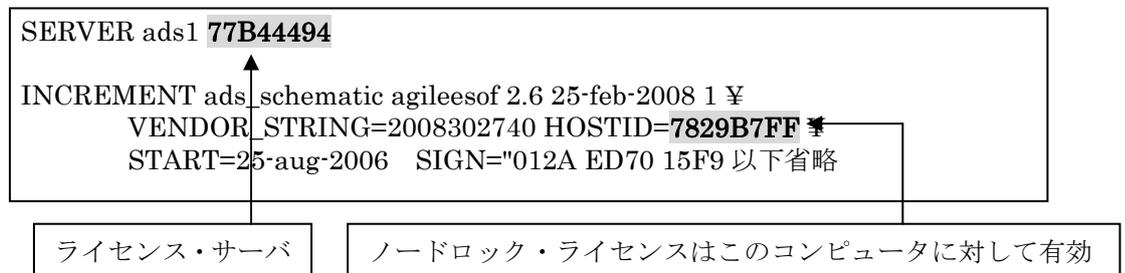


Q 4 ノードロック・ライセンスを別のライセンス・サーバから提供する方法

FLEXnet のライセンス・サーバであるコンピュータ A から、ノードロック・ライセンスを別のコンピュータ B に提供することができます。

以下の例は、ライセンス・サーバ：CPU-ID=77B44494 から、ノードロック・ライセンス：CPU-ID=7829B7FF に提供できるライセンス・ファイル (license.lic) の例です。

ライセンス・サーバ（供給側） 2008302740（10進数） = 77B44494（16進数）
ノードロックの受取側 2015999999（10進数） = 7829B7FF（16進数）



Q 5 複数の lmgrd を同時に起動する方法（例：ADS 2006A と、ADS 2001 の運用）

FLEXnet では、1 台のコンピュータ上で複数の lmgrd デーモンを同時に起動することができます。

ただし、これは、それぞれの**ベンダ・デーモン名が異なっている場合に限られます**。また、lmgrd を複数立ち上げる場合は、**TCP/IP ポート番号をそれぞれ異なった値に設定**する必要があります。

＜ライセンス・ファイルの例：サーバが同一でベンダ・デーモンが異なる＞

license.lic ファイル 1 つめ (**ADS 2006A 用**)

(ベンダ・デーモンは agileesofd / TCP ポート番号は 27000)

```
SERVER ads1 77B44494 27000
VENDOR agileesofd /usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.6 25-feb-2008 30 ¥
VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO (以下略)
```

license.dat ファイル 2 つめ (**ADS 2001/IC-CAP 5.3/Agilent HFSS 用**)

(ベンダ・デーモンは hpeesofd / TCP ポート番号は 27001)

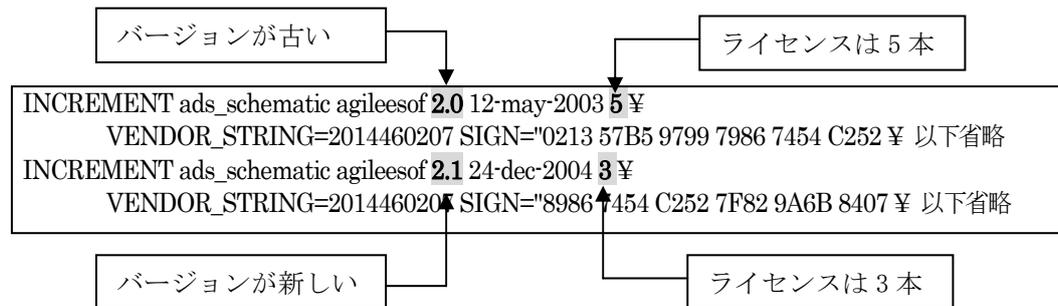
```
SERVER ads1 77B44494 27001
DAEMON hpeesofd /disk/ads2001/licenses/vendors/hpeesofd
INCREMENT Schematic hpeesofd 1.700 12-Jul-2015 3 4C3A006C056758349861 ¥
VENDOR_STRING=s=2014460207 (ADS 2001/MDS/SeriesIV 用)
INCREMENT hp_hfss_engine hpeesofd 5.6 15-jun-2015 1 ¥
1C0A8FA0D26177CCC9CB VENDOR_STRING=s=2014460207 (Agilent HFSS 5.6 用)
INCREMENT iccap_environment hpeesofd 5.3 15-aug-2015 1 ¥
4CEC820D7100D8F08980 VENDOR_STRING=s=2014460207 (IC-CAP 5.3 用)
```

ADS 2006A と、ADS 2001/IC-CAP 5.3/MDS/SeriesIV/Agilent HFSS を同一のライセンス・サーバで運用する場合は、この方法をお勧めします。

Q 6 同じライセンス名の INCREMENT 行が存在する場合の注意

license.lic ファイル中に、**同じライセンス名・ベンダ・デーモン名の INCREMENT 行が存在し**、それぞれバージョンが異なっている場合は、バージョンが最も新しい INCREMENT 行のみが使用され、その他の行は無視されます。

下記の例では、同一のライセンス名“ads_schematic”が最初5本(バージョン 2.0)あり、後から3本(バージョン 2.1)追加購入した例です。つまり、合計8本の“ads_schematic”のライセンスを使用できる権利があります。



ところが、前述したように、バージョンが古い方のライセンス(今回の場合、最初5本)は無視されますので、新しいバージョンの本数である3本のみが有効になります。

もし、同一のコンピュータ上でライセンス追加をする必要がある場合は、弊社コードワード発行受付までお問い合わせください。新しいライセンス・ファイル (license.lic) をお送りします。

ADS 2006A の場合は、ADS 2005A、2004A、2003C、および、2003A と同じライセンス名、ベンダ・デーモン名となっており、コードワード・バージョンが異なる為、上記の条件に該当します。ただし、ライセンスの互換性によって、ADS 2005A、ADS 2004Aは、ADS 2006Aのライセンス・コードワードで動作いたします。

この為、ADS 2006A のライセンス・ファイルの発行後は、同じ機能の ADS 2005A / 2004A 用ライセンス・コードワードは使用せず、ADS 2006A のライセンスをご利用ください。

ADS 2003C / ADS2003A の使用を継続する場合は、別のコンピュータをライセンス・サーバとして用意する必要があります。

Q 7 複数のライセンス・ファイル(license.lic)を参照する方法

FLEXnet では、複数のライセンス・ファイル(license.lic)からライセンスを取得することができます。その例は次のようになります(下記は、B/K シェルの設定例です)

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@server1:27002@server2
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

上記のように、複数の参照先をコロン(:)で区切って定義します。(Windows® の場合は、セミコロン(;)で区切ります)。この場合、**左側に定義したライセンス・パスの方が先に使用されますので、優先して使うライセンス(例えば、ノードロック・ライセンス)のライセンス・ファイル(ライセンス・サーバ)を左側に定義**してください。

また、この記述は Series IV Ver 6.X ではサポートしていませんのでご注意ください。

また、Q 6 で説明した INCREMENT 行のバージョンにもご注意ください。2つのライセンス・ファイルで **INCREMENT 行のバージョンが異なる場合、新しい方のみが有効**になります。

Q 8 ADS を実行すると Security warning と表示される

基本的に、ライセンスは 18 ヶ月の有効期限を持っています。
 下記のような Warning メッセージが表示される場合は、ライセンスの有効期限が迫っていますので、弊社コードワード発行受付までご連絡ください。新しいライセンスをお送りします。

<期限切れ約 2 週間前頃から表示されるメッセージ例>

Security warning: license for 機能名 will expire in x day(s)

x には、失効するまでの日数が表示されます。

```
INCREMENT ads_schematic agileesof 2.6 25-feb-2008 1 ¥
VENDOR_STRING=2008302740 HOSTID=7829B7FF ¥
START=25-aug-2006 SIGN="012A ED70 15F9 以下省略
```

ライセンス・コードワードの有効期限

Q 9 複数の FLEXnet / FLEXlm ライセンスを使用する時の注意

ADS/MDS/SeriesIV/HFSS/IC-CAP に付属している FLEXnet / FLEXlm のバージョン表です。

製品名とバージョン	製品に付属している FLEXnet / FLEXlm のバージョン
MDS B. 07. 00	FLEXlm 4. 1
MDS B. 07. 10	FLEXlm 4. 1
SeriesIV Ver 6. 1	FLEXlm 4. 1
Agilent HFSS 5. 6	FLEXlm 6. 1g
IC-CAP 5. 3	FLEXlm 4. 1
IC-CAP 2001	FLEXlm 7. 2h
IC-CAP 2002	FLEXlm 7. 2h
IC-CAP 2004	FLEXlm 8. 2a
IC-CAP 2006A	FLEXnet 10. 1. 3
IC-CAP 2006B	FLEXnet 10. 1. 3
ADS 1. 01	FLEXlm 5. 12
ADS 1. 1	FLEXlm 5. 12c
ADS 1. 3	FLEXlm 6. 1g
ADS 1. 5	FLEXlm 7. 0g
ADS 2001	FLEXlm 7. 0g
ADS 2002	FLEXlm 7. 2h
ADS 2002C	FLEXlm 7. 2h
ADS 2003A	FLEXlm 8. 2a
ADS 2003C	FLEXlm 8. 2a
ADS 2004A	FLEXlm 9. 2a
ADS 2005A	FLEXnet 10. 1. 3
ADS 2006A	FLEXnet 10. 8

複数の製品を同一のライセンス・サーバで使用する場合、**最新のバージョンの FLEXnet (FLEXlm)** をご使用ください。

<例> ADS 2006A と IC-CAP 2004 を同一のライセンス・サーバで使用する場合、**lmgrd / agileesofd は ADS 2006A のものを使用する。**

MDS B.07.10 と ADS 2001 を同一のライセンス・サーバで使用する場合は、lmgrd, hpeesofd は ADS 2001 のものを使用する。MDS B.07.10 の FLEXnet を ADS 2001 と同じバージョンに置き換えるためには、次の方法で ADS 2001 から MDS B.07.10 にコピーしてください。作業はスーパー・ユーザで行います。

```
# cd /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# mv bin bin.old
# mv vendors vendors.old
# cp -R /ads2001/licenses/bin /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# cp -R /ads2001/licenses/vendors /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# chmod -R 755 bin
# chmod -R 755 vendors
```

Q10 ライセンス・ファイル (license.lic) を更新する方法

ライセンス・ファイル(license.lic)を、期限切れ等で更新する場合の作業を説明します。

(1) 古いライセンス・ファイルの検索

まず、いままで使用していた古いライセンス・ファイルを探します。

< 方法1 >

ADS を実行できる「一般ユーザ」でログインし、次の UNIX / Linux の命令を実行します。

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

— 表示例 —

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

< 方法2 >

「スーパー・ユーザ」でログインし、次の UNIX / Linux の命令を実行します。

```
# find / -name license.lic -print
```

— 表示例 —

```
/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

(2) 新しいライセンス・ファイルの編集

古いライセンス・ファイルを参考にして、新しいライセンス・ファイルを編集します。

変更点は次の4つです。これ以外は変更してはいけません。

- ① SERVER 行のホスト名 (必須)
- ② SERVER 行の TCP/IP ポート番号 (省略可)
- ③ VENDOR 行のベンダ・デーモン・パスとオプション・ファイルのパス (省略可)
- ④ VENDOR 行の TCP/IP ポート番号 (省略化)

ライセンス・ファイルの編集方法については、

5-4 節「ライセンス・ファイル(license.lic)の編集」

をご覧ください。

(3) 新しいライセンス・ファイルへの置換

古いライセンス・ファイルと新しいライセンス・ファイルを置き換えます。

注意 ライセンス設置ディレクトリ(通常は、\$HPEESOF_DIR/licenses)に古いライセンス・ファイルが存在すると、ライセンス・トラブルが起こり易くなります。
これは、FLEXnet が AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定されたライセンス・ファイルの他にも、\$HPEESOF_DIR/licenses ディレクトリ下にあるファイルを評価し、ライセンス・ファイルとして認識した場合は取り込む仕様によるものです。
古いライセンス・ファイルをバックアップする場合は、必ず異なるディレクトリに保存してください。

```
# mkdir /usr/local/ADS2006A/licenses/old_license
# mv /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic /usr/local/ADS2006A/licenses/old_license
# mv /tmp/license.lic /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
# chmod 644 /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

(4) 新しいライセンス・ファイルをシステムに認識させる

ライセンス・ファイルを変更しただけでは、システムはその変更を認識しません。次のいずれかの方法でライセンス・ファイルの変更をシステムに認識させる必要があります。

<方法1> lmutil lmreread コマンドで更新する

```
# AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
# export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmreread
- 正常な表示例 -
lmreread successful
```

<方法2> lmgrd を止め、再起動する

```
# AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
# export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmdown
(または、ps -ef | grep lmgrd → kill <lmgrdのプロセスID>)
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd -c
/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
-l /usr/local/ADS2006A/licenses/flex.log
```

小文字のエル

<方法3> UNIX / Linux を再起動する

(ただし、UNIX / Linux 起動時にライセンス・デーモンが自動起動されるように設定されている必要があります)

```
# cd /
# shutdown -r now
```

(5) 正しく認識されたかどうかを確認する

◇ flex.log ファイルで確認します。

```
# more /usr/local/ADS2006A/licenses/flex.log
```

◇ lmutil lmstat -a 命令で確認します。

```
# AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic  
# export AGILEESOFD_LICENSE_FILE  
# env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE (確認)  
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a | more
```

Q 1 1 Invalid System Clock Time、System clock has been set back 等のエラーが発生する

FLEXnet を使用した製品で、次のようなエラー・メッセージが表示された時の対策を説明します。

Invalid System Clock Time

System clock has been set back

あるいは、Invalid (inconsistent) license key

これは、コンピュータの日付が狂っている場合や、誤った日付を設定した場合等に発生するエラーです。ただし、Invalid (inconsistent) license key については、ライセンス・ファイルの暗号化コードのエラーに起因する場合がありますので、日付設定とライセンス・ファイル、双方の確認が必要となります。

■ 原因

FLEXnet では、コンピュータ上のファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプをチェックし、コンピュータ内蔵クロックの時刻と比較しています。

もし、ファイル、もしくは、ディレクトリのタイム・スタンプが、コンピュータに設定されている時刻より 24 時間以上先(未来)になっている場合、上記のエラーが表示されます。観察するファイル、および、ディレクトリは次の通りです。

□ UNIX / Linux

/ (ルート) ディレクトリ、および、/etc ディレクトリ下に存在する、全てのファイル、および、ディレクトリ

□ Windows®

C: ドライブのルート・ディレクトリ、および、¥WINDOWS 等、Windows® OS のシステム・ディレクトリ下に存在する、全てのファイル、および、ディレクトリ

D: ドライブ等、複数のドライブ (パーティション) が存在する場合は、それぞれのルート・ディレクトリ下の全てのファイル、および、ディレクトリ

■ 対策

1. まず、コンピュータの時刻を正確な時刻にあわせませす。
2. 未来の日付のファイルの日付を修正します。

□ UNIX / Linux の場合

- 1) / および /etc ディレクトリ下に存在するファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプを調べます。
ls -alt /
ls -alt /etc
- 2) 未来の日付になっているものを、正しい時刻に戻します。
touch <ファイル名、または、ディレクトリ名>
ただし、ファイル/ディレクトリによっては変更できないものもあります。その場合は、OS の再インストールを行ってください。

□ Windows® の場合

- 1) C:¥、および、C:¥windows ディレクトリ下に存在する全てのファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプを調べます。もし、D:、E: 等の複数のドライブ（パーティション）が存在する場合は、それらのルート・ディレクトリ下のファイル、ディレクトリも検索対象に加えます。
[スタート] > [検索] > [ファイルやフォルダ]
[日付] タブを選択し、[日付指定] で検索
- 2) 未来の日付になっているものを、正しい時刻に戻します。対象ファイルを一度別の名前でコピーし、古いものを削除した後、元の名前に戻します。
ただし、ファイル/ディレクトリによっては変更できないものもあります。その場合は、OS の再インストールを行ってください。

Q 1 2 ソフトがクラッシュした時のライセンス開放

アプリケーションがハングアップする等、ソフトウェアは停止してしまっただが、ライセンスを取得した状態のままになり、他のアプリケーションがライセンスを使用できなくなる場合があります。

ここでは、そのような時にライセンスを開放する方法を説明します。

(1) `lmutil lmstat -a`

まず、どのライセンスが開放されていないかを確認します。

「`lmutil lmstat -a`」命令を使用します。

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
/usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a
```

<表示例>

```
Users of ads_schematic: (Total of 5 licenses issued ; Total of 1 licenses in use)
"ads_schematic" v2.6, vendor: agileesofd
floating license
<ユーザ名> <ホスト名> <ディスプレイ:0> (v2.6) (<サーバ名>/1700 1106),...
```

(2) lmutil lmremove

「lmutil lmremove」命令でライセンスを開放します。

<文法>

lmutil lmremove <ライセンス名> <ユーザ名> <ホスト名> <ディスプレイ>

<例> 「lmutil lmstat -a」命令で次のように表示されたとします。

```
Users of ads_schematic: (Total of 5 licenses issued ; Total of 1 licenses in use)
"ads_schematic" v2.6, vendor: agileesofd
user01 adshost 192.0.0.5:0 (v2.6) (server/1700 1106),...
```

この時、このライセンスを開放する「lmutil lmremove」命令の記述は、以下のようになります。

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
cd /usr/local/ADS2006A/licenses/bin
./lmutil lmremove ads_schematic user01 adshost 192.0.0.5
```

その後、「lmutil lmstat -a」命令でライセンスの開放が行われているかどうかを確認します。

注意 「lmutil lmremove」命令で開放できるライセンスは、クラッシュ等を起こし中途半端な状態のライセンスに限定されます。正常に使用している状態では、「lmutil lmremove」命令でライセンス開放は行えません。

Q 13 ライセンスの自動開放設定

ADS 1.3 Service Pack 2 より、ライセンスの自動開放機能が追加されています。

ここでは、その設定方法を説明します。(手動でのライセンス開放方法は、従来通りスキーマティック・ウィンドウで、Simulate > Stop and Release Simulator メニューを実行してください)

■ 概要

1. ADS 1.3 SP 2 以上で有効です。
2. 最小の開放設定時間は 15 分(900 秒)です。
3. FLEXnet のオプション・ファイルに、秒数で自動開放時間を設定をします。
4. ライセンスの種類によって、ライセンス開放可能なものと不可のものがあります(自動/手動共に)。ライセンス開放が可能な機能は、シミュレータとライブラリです。
5. オプション・ファイルで TIMEOUT / TIMEOUTALL 設定を行っていない場合は、2 時間で自動開放されます。

■ 設定方法

1. オプション・ファイルに設定します。

option ファイルは通常 **\$HPEESOF_DIR/licenses/agileesofd.opt** となります。
agileesofd.opt ファイルが存在しない場合は、新たに作成してください。
以下のように、agileesofd.opt ファイルに記述してください。

<文法> TIMEOUT <ライセンス名> <時間(秒)>

<例> TIMEOUT sim_linear 900
 TIMEOUT mdl_systemlib 900

ライセンス開放可能なものすべてを自動開放したい時は、次のように agileesofd.opt ファイルに記入します。

 TIMEOUTALL 900

2. ライセンス・ファイル(license.lic)中で、agileesofd.opt ファイルを読み込むように設定します。

license.lic ファイルは通常 **\$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic** となります。
VENDOR 行の記述を確認し、オプション・ファイル名をフル・パス付きで記述します。

<例> VENDOR agileesofd /usr/local/ADS2006A/licenses/agileesofd.opt

3. ライセンス管理デーモン (lmgrd) を再起動します。

flex.log ファイル(通常 \$HPEESOF_DIR/licenses/flex.log)に、次のように記入されていることをご確認ください。

00:00:00 (agileesofd) FEATURE <ライセンス名> INACTIVITY TIMEOUT set to 900 seconds

4. ADS を起動し、通常通り使用します。指定された機能のライセンスは、未使用状態で指定された時間が経過すると、自動的にライセンスを開放します。この時、flex.log ファイルに次のように記入されます。

```
19:55:07 (agileesof) OUT: "sim_linear " <ユーザ名>/<ホスト名>  
20:10:07 (agileesof) IN: "sim_linear" <ユーザ名>/<ホスト名> (INACTIVE)
```

15分(900秒)経過後に、自動的にライセンスが開放されていることが確認できます。

Q 1 4 ライセンス・エラー発生時の対策

- (1) ライセンスの有効期限が切れていませんか？

UNIX / Linux の場合、date 命令でコンピュータに設定されている時間が、実時間と合っているかどうかをご確認ください。もちろん、ライセンス・ファイル中の INCREMENT 行に記述されている有効期限も同時にご確認ください。

(2) ライセンスの開始日は過ぎていますか？

ライセンス・ファイルの INCREMENT 行には、ライセンスの使用開始日が“**START=day-month-year**”の形式で記述されています。（例：START=25-aug-2006）

また、コンピュータに設定されている時間が、実時間と一致しているかどうかをご確認ください。

(3) ライセンス・ファイルの内容が間違っていますか？

ライセンス・ファイルそのものが、間違っている可能性があります。

- 1) お使いの電子メール・ソフトウェアによっては、ある文字数で自動的に改行する場合があります。自動的改行機能は OFF にしてください。
- 2) ライセンスを Windows®OS の電子メールで受け取り、UNIX / Linux に転送する場合は、Windows®と UNIX / Linux で文末の改行コードが異なる為、UNIX / Linux で正常に認識できないことがあります。(UNIX / Linux の vi エディタでライセンス・ファイルを開くと、各行末に ^M と見えるコードが付加されています)
このような時は FTP コマンドの ASCII モードで転送するか、または dos2ux (または dos2unix) コマンドで改行コードを修正することができます。
- 3) ライセンス・ファイルに目に見えない(画面には表示されない)コードが混入している場合もあります。一度、手入力してみるのも良いかもしれません。

(4) lmgrd, agileesofd のバージョンが古くありませんか？

FLEXnet のバージョンが古いと、ライセンスを正常に取得できない場合があります。ライセンス・サーバ上で動作している FLEXnet のバージョンを確認してください。

1) ライセンス・サーバ上で動作している lmgrd の確認

```
ps -ef | grep lmgrd
```

<表示例>

```
root 22292 1 0 08:58:41 ? 0:00 /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd -c ...
```

2) その lmgrd のバージョン確認

```
/usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd -v
```

<表示例>

```
lmgrd v10.8.0.10 build 27023 - Copyright (c) 1988-2006 Macrovision Europe Ltd. a  
nd/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
```

3) ライセンス・サーバ上で動作しているベンダ・デーモン(agileesofd)の確認

```
head /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic | grep VENDOR
```

<表示例>

```
VENDOR agileesofd /usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd
```

4) その agileesofd のバージョン確認

```
/usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd -v
```

<表示例>

```
17:52:44 (agileesofd) FLEXnet Licensing version v10.8.0.10 build 27023  
agileesofd v10.8.0.10 build 27023 - Copyright (c) 1988-2006 Macrovision Europe L  
td. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
```

- (5) `lmgrd` が参照している `license.lic` と、`AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定している `license.lic` が異なっていませんか？

`lmgrd` 命令起動時に `-c` オプションで指定した `license.lic` ファイルと、環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定した `license.lic` ファイルは、一致している必要があります。

- (6) `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` を「ポート番号@ホスト名」で指定していますか？

環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` の指定方法は2種類あり、`license.lic` ファイルのパスを指定する方法と「ポート番号@ホスト名」（例：27000@licserver）で指定する方法があります。

「ポート番号@ホスト名」で指定してうまくいかない場合は、`license.lic` ファイルを指定する方法でお試してください。

- (7) `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` がアプリケーションのライセンス・ファイル標準設定パス以外を指している場合、ライセンス・ファイル標準設定パスにも `license.lic` ファイルがありませんか？

アプリケーションは環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定したライセンス・ファイル以外にも、アプリケーションで標準に指定されているディレクトリに存在するライセンス・ファイルを参照します。

もし、アプリケーションで標準に指定されている場所に `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定したファイルと異なるライセンス・ファイルが存在する場合、正常に動作しない場合があります。

<ライセンス・ファイルの標準設定パス>

```
ADS / RFDE=$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic
MDS=$MDSROOT/hp85150/hpeesof/licenses/license.dat
SIV=$EESOF_DIR/licenses/license.dat
ICCAP=$ICCAP_ROOT/licenses/license.dat
HFSS=$HPHFSS_DIR/licenses/license.dat
```

- (8) `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定したライセンス・ファイルの読み取り権限はありますか？

ライセンス・ファイルには、必ず全ユーザに対して読み取り権限を設定してください。

```
chmod 644 /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

- (9) `lmutil lmdiag`、および、`lmutil lmstat -a` 命令は正しく動作しますか？

`lmutil lmdiag`、および、`lmutil lmstat -a` 命令の出力結果は、エラーの原因を探すヒントになる場合がありますので、必ずご確認ください。

FLEXnet ユーティリティの使い方については、

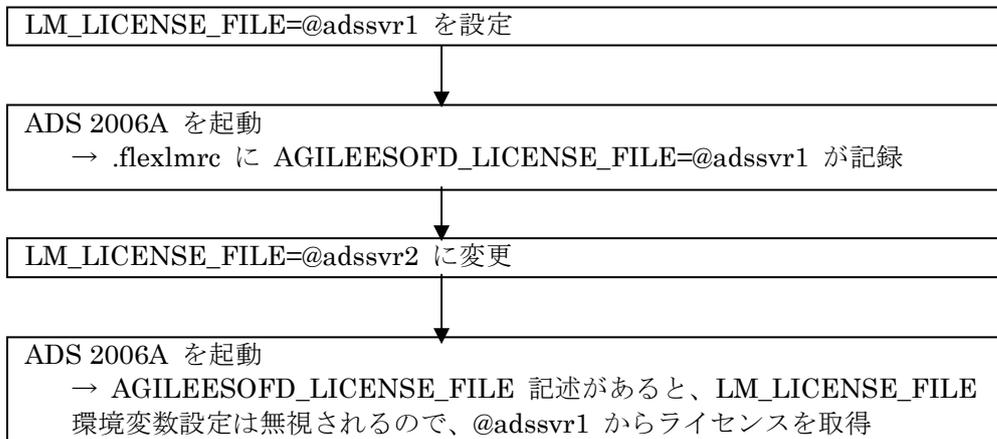
7-5 節「FLEXnet ユーティリティの使用法」

をご覧ください。

また、ライセンス・デーモンのログ・ファイル(`flex.log` ファイル)もご確認ください。

Q 15 LM_LICENSE_FILE 環境変数を変更したが、以前に設定したライセンスが取得される

LM_LICENSE_FILE 環境変数を使用している場合は、以前の情報が FLEXnet レジストリ (UNIX / Linux の場合は .flexlmrc ファイル) に記録されているために、環境変数の設定を変更しても、以前設定したライセンス・サーバからライセンスが取得される問題が発生します。



LM_LICENSE_FILE 環境設定ではなく、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数を使用するとこの問題は発生しませんので、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数を使用してください。

FLEXnet レジストリに記録された内容の参照・追加・削除は、UNIX / Linux コマンドラインより行うことができます。方法は、

7-5 節「FLEXnet ユーティリティの使用方法」

(4) lmutil コマンドの使い方 をご参照ください。

6章 ユーザ環境の設定と動作確認

6-1 概要

この章では、UNIX / Linux システムで Advanced Design System を使用する為のユーザ環境設定や動作確認、プリンタの設定手順等を説明します。ADS が動作しない場合のトラブル対応法についても掲載していますので、トラブル発生時にはこちらを是非ご参照ください。

6-2 ユーザ毎の環境設定

各ユーザ毎にソフトウェアのパスと環境変数の設定をします。使用するユーザ名は何でもかまいません。

作業内容は、環境変数 **HPEESOF_DIR** と **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** の設定および、**PATH** 環境変数への ADS実行ファイル・ディレクトリのパス(\$HPEESOF_DIR/bin)追加の三つです。

以下は、ADS がインストールされたディレクトリを /usr/local/ADS2006A、ライセンスの取得を 27000@licserver で行う場合についての設定例です。ライセンスの取得については、第5章「ライセンス(FLEXnet)の設定」をご参照ください。

■ B/K シェル、bash の場合

各ユーザのホーム・ディレクトリにある .profile ファイル (bashの場合は .bash_profile) に追加します。

```
$ vi .profile
```

追加内容

```
HPEESOF_DIR=/usr/local/ADS2006A
PATH=$HPEESOF_DIR/bin:$PATH
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@licserver
export HPEESOF_DIR PATH AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

■ C シェルの場合

各ユーザのホーム・ディレクトリにある .cshrc ファイルに追加します。

```
% vi .cshrc
```

追加内容

```
setenv HPEESOF_DIR /usr/local/ADS2006A
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE 27000@licserver
set path=($HPEESOF_DIR/bin $path)
```

参考 環境変数の意味

HPEESOF_DIR

AGILEESOFD_LICENSE_FILE

ADS がインストールされているディレクトリ。
ライセンス取得のための設定。詳細については
第5章「ライセンス(FLEXnet)の設定」
をご覧ください。

デスクトップ環境に HP VUE、CDE を使用している場合は、以下の設定も行ってください。

■ HP VUE の場合

HP VUE を使用している場合は、前述の設定を行った後、各ユーザのホーム・ディレクトリにある **.vueprofile** ファイルに以下の変更を加えます。

```
$ vi .vueprofile
```

変更内容 (.vueprofile ファイルの最後の二行)

(変更前)

```
# VUE=true; export VUE; . $HOME/.profile; unset VUE # sh, ksh  
# setenv VUE true; source $HOME/.login ; unsetenv # csh
```

上記のように行の先頭に # がついている場合は、使用しているシェルの種類によって、どちらかの行の先頭の # を削除します。

例えば、Bシェルを使用している場合は、以下のようになります。

(変更後)

```
VUE=true; export VUE; . $HOME/.profile; unset VUE # sh, ksh  
# setenv VUE true; source $HOME/.login ; unsetenv # csh
```

■ CDE の場合

CDE を使用している場合は、各ユーザのホーム・ディレクトリにある **.dtprofile** ファイルに、以下の変更を加えます。

```
$ vi .dtprofile
```

変更内容 (.dtprofile ファイルの最後の行)

(変更前)

```
#DTSOURCEPROFILE=true
```

上記のように DTSOURCEPROFILE=true という行に # が付いている場合は、先頭の # を削除します。編集後は以下のようになります。

(変更後)

```
DTSOURCEPROFILE=true
```

注意 上記変更は、設定変更後一旦 VUE/CDE のログイン画面に戻って、再ログインして初めて有効になります。

注意 上記の方法で、PATH のみが正しく設定されない場合は、.dtprofile の中に直接 PATH設定を記入してお試してください。環境変数の設定の記述方法等についてのご質問は、ご利用になっているオペレーティング・システムのサポート・センタへお問合せください。

参考 ライセンス・サーバが Windows®PCである場合等に、ファイアウォール機能の応答待ちにより、接続が完了する前にクライアント側でタイムアウトが発生し、接続できなくなる場合があります。

タイムアウト判定の初期設定値は 0.1 秒になっています。もし、タイムアウトが頻繁に起きる場合は、クライアント側の各ユーザ・アカウントにおいて、環境変数 **FLEXLM_TIMEOUT**の設定を行い、タイムアウト判定までの時間を長めにしてみてください。まずは 1秒程度でお試しいただくことを推奨しますが、ネットワークの状況によっては、より長めに設定してみてください。

時間設定はマイクロ秒単位になります。

設定例) **FLEXLM_TIMEOUT = 1000000**

6-3 複数のバージョンの ADS を使用する場合の環境設定

この節では、複数のバージョンの ADS を、一人のユーザが使用する場合の方法について説明します。

複数のバージョンの ADS を使用する場合は、\$HOME ディレクトリをそれぞれの ADS のバージョンごとに別々に用意します。同じ \$HOME ディレクトリを使った場合は、ファイルの競合により ADS が正しく動作しなかったり、ファイルに致命的なダメージを与える可能性があります。

ADS を起動する前に、HOME 環境変数をそれぞれの ADS 用に設定し直します。コマンドラインから手動で設定しても構いませんが、予め専用スクリプトを用意しておき、ADS を起動すると便利です。

以下に、各バージョンの ADS の起動スクリプト例を掲載します。(以下のスクリプト中ではライセンスの設定は行っていません。ライセンスの設定は、通常通り .profile や .chsrc で行ってください。)

■ ADS 2002C 用起動スクリプト

```
#!/bin/ksh
#
# Script for starting ADS 2002C on UNIX systems
cd /home/jdoe/ads2002c
HOME=/home/jdoe/ads2002c
HPEESOF_DIR=/disk/ads2002c
PATH=$HPEESOF_DIR/bin:$PATH
export HOME HPEESOF_DIR PATH
hpads
```

■ ADS 2006A 用起動スクリプト

ADS 2003A より、起動コマンドが **ads** になっています。
下記スクリプトの最終行の **ads** が ADS 2006A の起動コマンドになります。

```
#!/bin/ksh
#
# Script for starting ADS 2006A on UNIX systems
cd /home/jdoe/ads2006a
HOME=/home/jdoe/ads2006a
HPEESOF_DIR=/usr/local/ADS2006A
PATH=$HPEESOF_DIR/bin:$PATH
export HOME HPEESOF_DIR PATH
ads
```

注意 **License Preference Tool** は、**ライセンス・バンドル形式のライセンスをご利用になっている方**のみに必要な作業です。ライセンス・コードワードの機能名が **ltp_**、**pb_** で始まるライセンスが対象となります。(例：**ltp_rfic_dg**、等)
それ以外のライセンスをご利用になっている場合は、**6-5節**にお進みください。

ADS 2002C 以前のバージョンで使用されていたライセンス・パッケージは、ADS 2003A からライセンス・バンドルにシステムが変更されました。

ライセンス・バンドルからライセンスを取得する場合は、**必ず初回起動時にLicense Preference Tool で作業を行う必要があります**ので、ご注意ください。

License Preference Tool で使用するライセンス・バンドルを選択した後、ADS を起動してください。

注意 License Preference Tool で選択したライセンス・バンドルの情報は、各ユーザごとに保存されます。次回以降 ADS を立ち上げる際、**使用するライセンス・バンドルを変更する必要が無い場合は、License Preference Tool を起動する必要はありません**。

(1) License Preference Tool の起動

License Preference Tool を起動するには、以下の二つの方法があります。

■ **ads -p**

ADS 2006A を起動する際に、**-p オプション**を付けることによって、License Preference Tool が起動します。License Preference Tool を終了させると、自動的に ADS 2006A 本体が起動します。

■ **\$HPEESOF_DIR/bin/aglmpref_exe**

License Preference Tool を単体で起動する時は、上記コマンドを使用します。ただし、実行に必要な共有ライブラリを参照させる為、事前に以下の環境変数を設定してください。(ads -p で起動する際は不要です)

□ Solaris の場合

(B/K シェル)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/sun58:$LD_LIBRARY_PATH
```

```
export LD_LIBRARY_PATH
```

(C シェル)

```
setenv LD_LIBRARY_PATH $HPEESOF_DIR/lib/sun58:$LD_LIBRARY_PATH
```

□ HP-UX の場合

(B/K シェル)

```
SHLIB_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/hpux11:$SHLIB_PATH
```

```
export SHLIB_PATH
```

(C シェル)

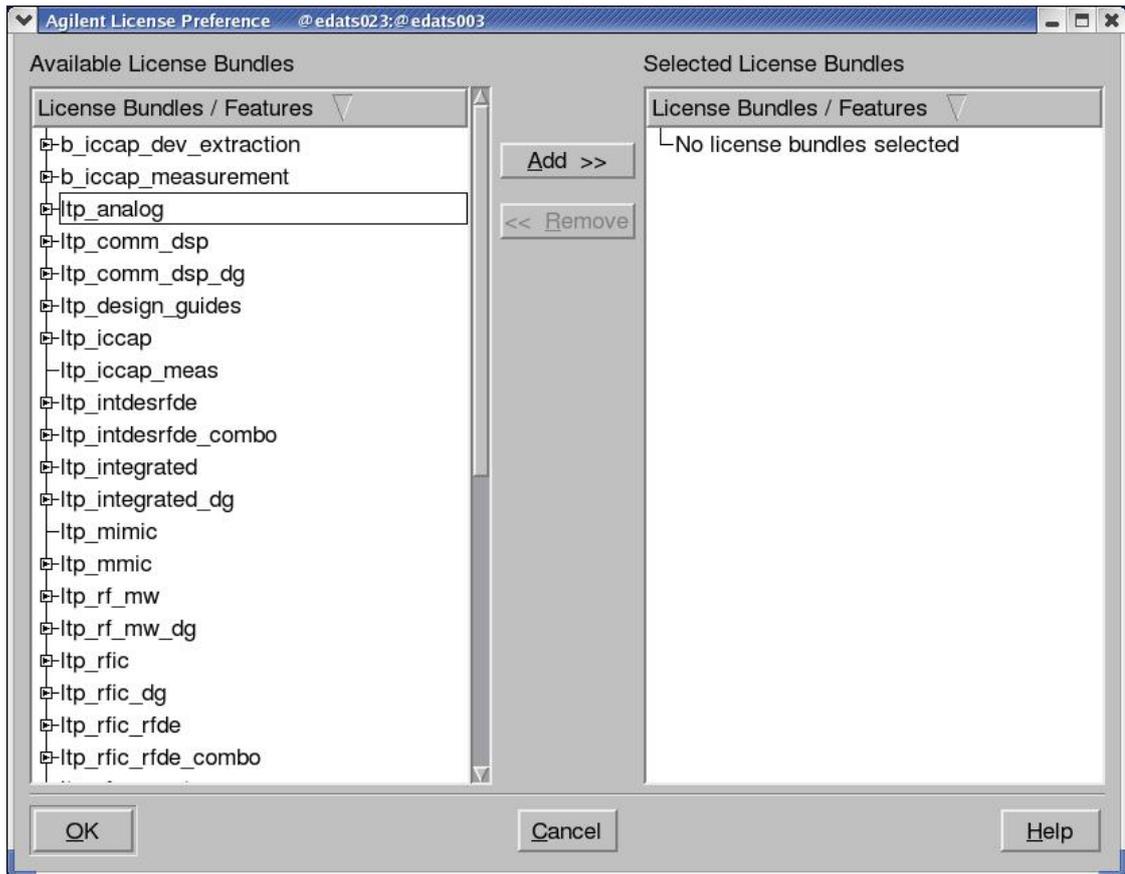
```
setenv SHLIB_PATH $HPEESOF_DIR/lib/hpux11:$SHLIB_PATH
```

- Linux の場合
(bash)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/lnx86:$ LD_LIBRARY_PATH  
export LD_LIBRARY_PATH
```

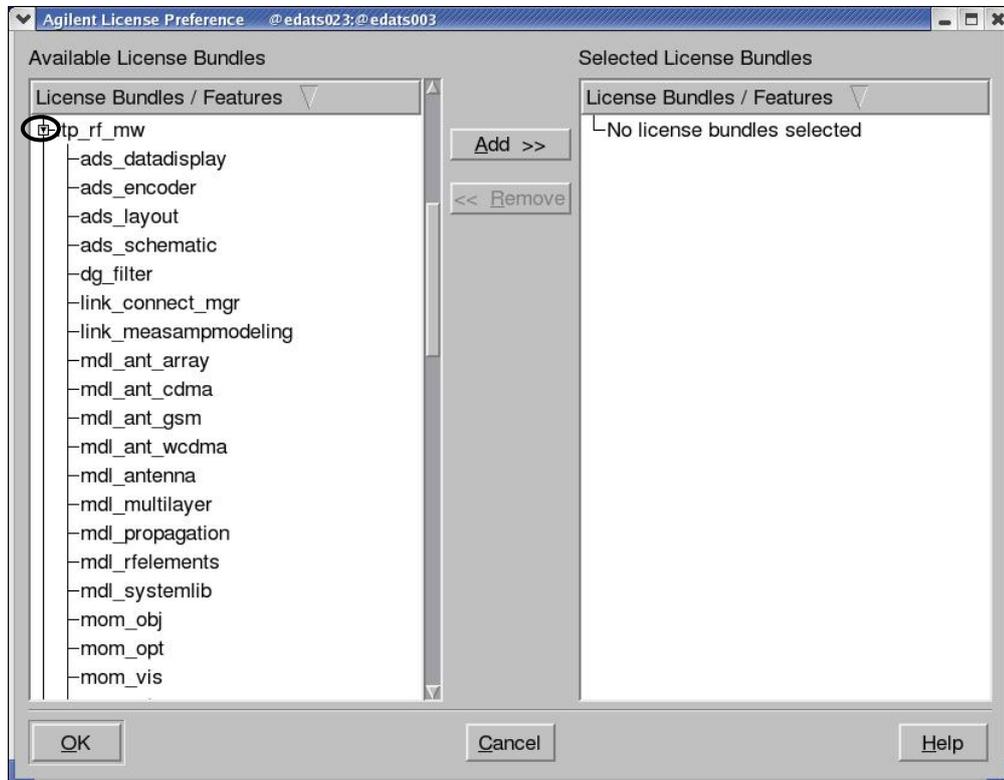
(2) ライセンス・バンドルの選択

以下のような、License Preference Tool のウィンドウが起動します。

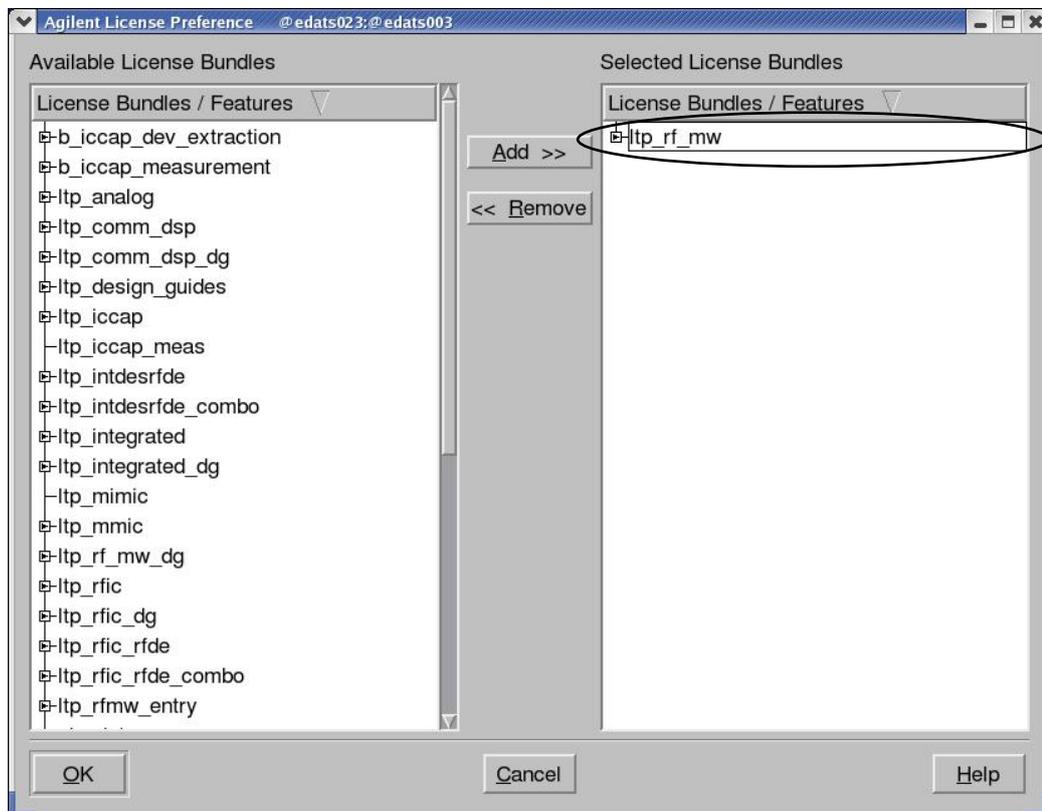


右側の Selected License Bundles 欄に **No license bundles selected** と表示されている場合は、ライセンス・バンドルの選択が行われていないことを示します。

1. [Available License Bundles] に利用可能なライセンス・バンドル一覧が表示されます。バンドル名の左側の+(または三角)マークをクリックすると、バンドルに含まれるライセンスの一覧が表示されますので、使用したいライセンス・バンドルを探します。



2. [Available License Bundles] から、使用するライセンス・バンドルを一つだけ選択し、[Add] ボタンをクリックすると、選択したライセンス・バンドルが [Selected License Bundles] 欄に移動します。



3. ライセンス・バンドルの選択を解除したい場合は、[Selected License Bundles] 欄からライセンス・バンドルを選択して、[Remove] ボタンをクリックします。
4. 希望のライセンス・バンドルを選択したら、[OK] ボタンを押して終了します。
5. `ads -p` コマンドで起動した場合は、そのまま ADS 2006A が起動します。

注意 選択したライセンス・バンドルの情報は、以下のファイルに保存されており、以降 License Preference Tool を使用しなくても、そのライセンス・バンドルが使用されます。

ファイル : `$HOME/hpeesof/config/hpeesof.cfg`

環境変数 : `AGILEESOFD_LICPREF_<ホスト名>=<ライセンス・バンドル>`

例) `/home/edauser/hpeesof/config/hpeesof.cfg`
`AGILEESOFD_LICPREF_HOST1=ltp_rf_mw`

また、ADS のバージョン・アップに伴い、ライセンス・バンドルの名称、構成等が変更される場合もございますので、予めご了承ください。変更があった場合は、License Preference Tool で再設定を行う必要があります。

6-5 ADS の起動 (動作確認)

ここでは、製品添付のサンプル・プロジェクトを用いて、ADS 2006Aの起動から、シミュレーション実行までの確認手順を示します。

- (1) ADS 2006A が実行できるユーザでログインします。
設定の詳細につきましては、
6-2 節「ユーザ毎の環境設定」
をご覧ください。)

- (2) ADS 2006A を起動します。

```
$ ads
```

注意 ADS 2003A より、ADS の起動コマンドは“ads”に変更されました。
従来の、“hpads” コマンドは使用できませんので、ご注意ください。

注意 ライセンス・バンドルをご利用になっている場合は、License Preference Tool を
用いてあらかじめ使用するライセンス・バンドルを指定する必要があります。詳細は、
6-4 節「License Preference Tool の使い方」
をご参照ください。

ADS を起動したターミナル・ウィンドウに、次のように表示されます。

```
Agilent Technologies
Advanced Design System
$ Design Environment (*) 2006A.400 Sep 23 2006
```

Version と Revisionが確認できます。この例では、Versionは **2006A**、Revisionは **400** です。

技術的なお問い合わせの際は、**Version と Revision をお知らせください**。

ADS が正常に起動しない場合は、

6-10 節「ADS が起動しない場合の原因と対策」
をご参照ください。

参考 Solaris、Red Hat Linux Enterprise WS、および、Novell SUSE Enterprise Linux の各 **64 bit 版 OS で ADS 2006A をご利用いただく場合は**、64 bit 版のシミュレータと 32 bit 版（互換モードで動作）のシミュレータのどちらを使用するかを選択することができます。

ads コマンドで通常通り ADS 2006A を起動した場合、自動的に 64bit 版シミュレータが使用されます。

```
Agilent Technologies
Advanced Design System
$ Design Environment (*) 2006A.400 Sep 23 2006
Using 64-bit simulation settings
```

<64-bit モードの起動メッセージ>

32 bit 版シミュレータを使用する場合は、以下の何れかの方法をご利用ください。

- 1) 環境変数 **EESOF_64BIT=0** を設定する。
- 2) 起動コマンドに **-32bit オプション**を付記する。
ads -32bit

```
Agilent Technologies
Advanced Design System
$ Design Environment (*) 2006A.400 Sep 23 2006
32-bit setting
```

<32-bit モードの起動メッセージ>

(3) 初めて ADS を起動した場合は、下記の Setupダイアログ・ボックスが現れます。



ADS を使用する時の環境を定義するウィンドウです。

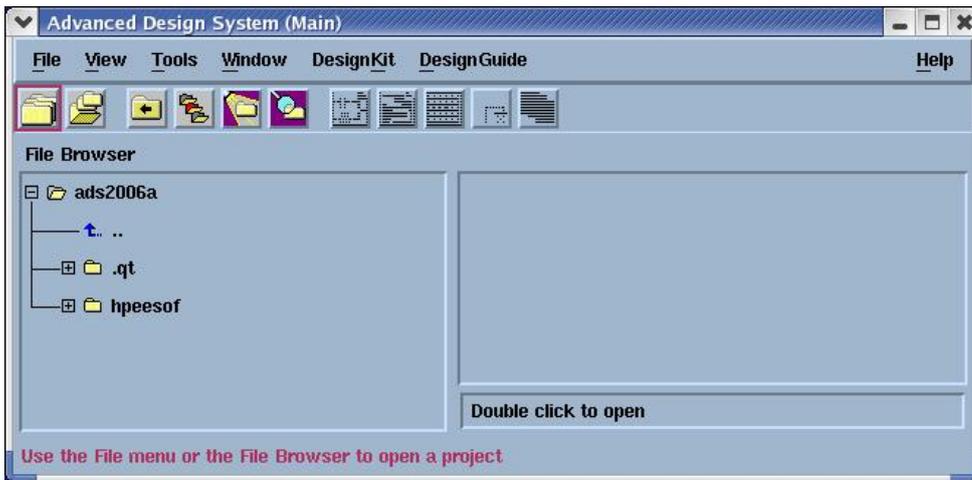
- | | |
|---|---------------------------|
| <input type="checkbox"/> Analog/RF Only | アナログ/RF回路設計用機能のみ使用可 |
| <input type="checkbox"/> Digital Signal Processing Only | デジタル信号処理回路設計用機能のみ使用可 |
| <input type="checkbox"/> Both, With Default: | 上記両方の設計用機能を使用、初期設定を下記から選択 |
| <input type="checkbox"/> Analog RF/Design | アナログ/RF回路設計優先 |
| <input type="checkbox"/> DSP Design | デジタル信号処理回路設計優先 |

ここでは、[Both With Default :] を選択し、[Analog/RF Design] を選択します。

設定は後でも変更できます。この設定は、ホーム・ディレクトリの `hpeesof/config` ディレクトリの下に記録されます。

[Start] ボタンをクリックし次に進みます。

(4) ADS のメイン・ウィンドウが現れます。



ADS 2006Aでは、起動時に下図のような Greetingダイアログ・ボックスが表示されます。



下記のボタンから機能を選択するか、[Close]ボタンで閉じてください。

- | | | | |
|--------------------------|------------------------------|---------------------------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> | Create a new project | 新規プロジェクト作成 | [New Project] |
| <input type="checkbox"/> | Open an existing project | 既存プロジェクトのオープン | [Open Project] |
| <input type="checkbox"/> | Open a recently used project | 最近編集したプロジェクトをオープン
(プル・ダウン・リストから選択) | |
| <input type="checkbox"/> | Open an example project | サンプル・プロジェクトをオープン | [Example Project] |
- [] 内に記した、メイン・ウィンドウの File メニューと同じ機能です。

次回起動時に Greetingダイアログ・ボックスを表示しないようにする場合は、[Don't display this dialog box again] のチェック・ボックスをチェックしてください。

[What's New] ボタンをクリックすると、ADS 2006A の注意点(Release Notes)や、新たに追加された機能(What's New)、弊社ウェブ・ページへのハイパーリンク等を記した、HTML文書が表示されます。

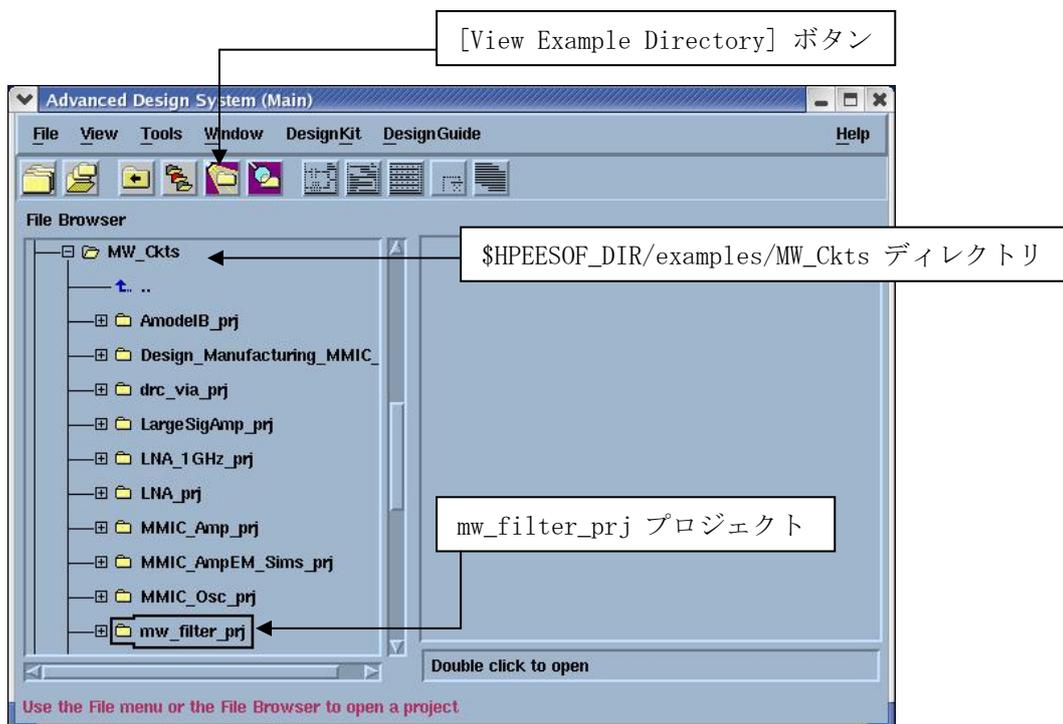
この HTML文書は、`$HPEESOF_DIR/doc/manuals/whatsnew.html` として保存されています。

[Quick Start Manual] ボタンをクリックすると、ADS 2006A の初歩的な使用方法を解説した Quick Start マニュアル（英文）が、ウェブ・ブラウザで表示されます。
初めて ADS をご利用いただく場合は、是非ご参照ください。

- (5) サンプル・プロジェクト・ファイルをコピーします。

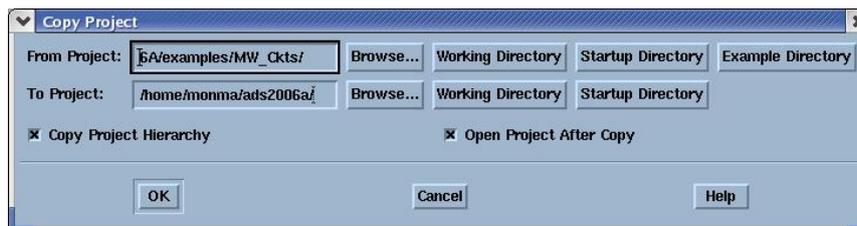
メニューバーの File > Example Project メニューを選択するか、ツール・バーの [View Example Directory] ボタンを選択します。
File Browser欄に、\$HPEESOF_DIR/examples ディレクトリのリストが表示されます。実際には、この下にさらにディレクトリが存在していて、その下にサンプル・プロジェクト・ファイル(ディレクトリ)が収められています。

ここでは、\$HPEESOF_DIR/examples/MW_Ckts/mw_filter_prj を使用します。



サンプル・プロジェクトは ADS 2006A のインストール・ディレクトリ下に用意されている為、そのままでは、ユーザが内容を変更したり、解析を実行することはできません。
まず、このサンプルファイルを、ユーザのホーム・ディレクトリ下にコピーします。

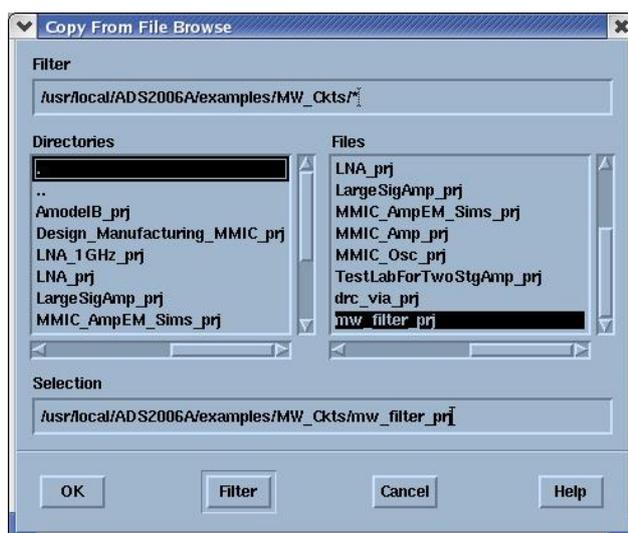
メイン・ウィンドウで [Files] > [Copy Project...] メニューを選択します。以下のようなダイアログ・ボックスが表示されます。



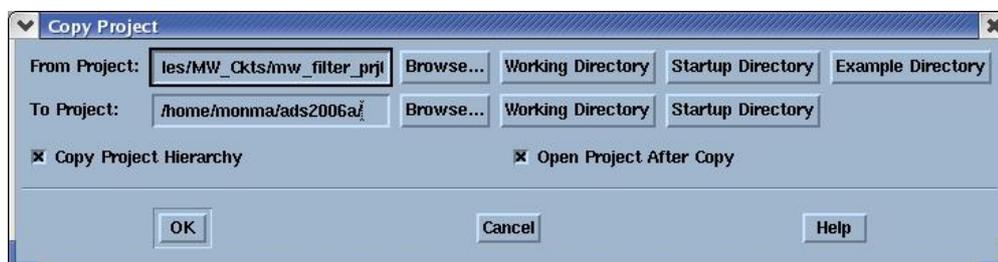
[From Project:] 欄にコピー元プロジェクトのディレクトリ・パスを、[To Project:] 欄にコピー先のディレクトリ・パスを記述します。

まず、[From Project:]欄の右側にある [Example Directory] ボタンをクリックします。ディレクトリ・パスとしてサンプル・ディレクトリの最上位ディレクトリ (examples) が入力されます。

次に同じ行の [Browse...] ボタンをクリックして、ファイル・ブラウザを表示させます。ファイル・ブラウザで、MW_Cktsディレクトリ下の mw_filter_prj ディレクトリを選択します。[OK] ボタンをクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。



[To Project:] 欄には、ADS の起動ディレクトリが設定されますので、通常は変更不要です。



[Copy Project Hierarchy]、[Open Project After Copy] チェック・ボックスはチェックしたままにして、[OK] ボタンをクリックしてください。

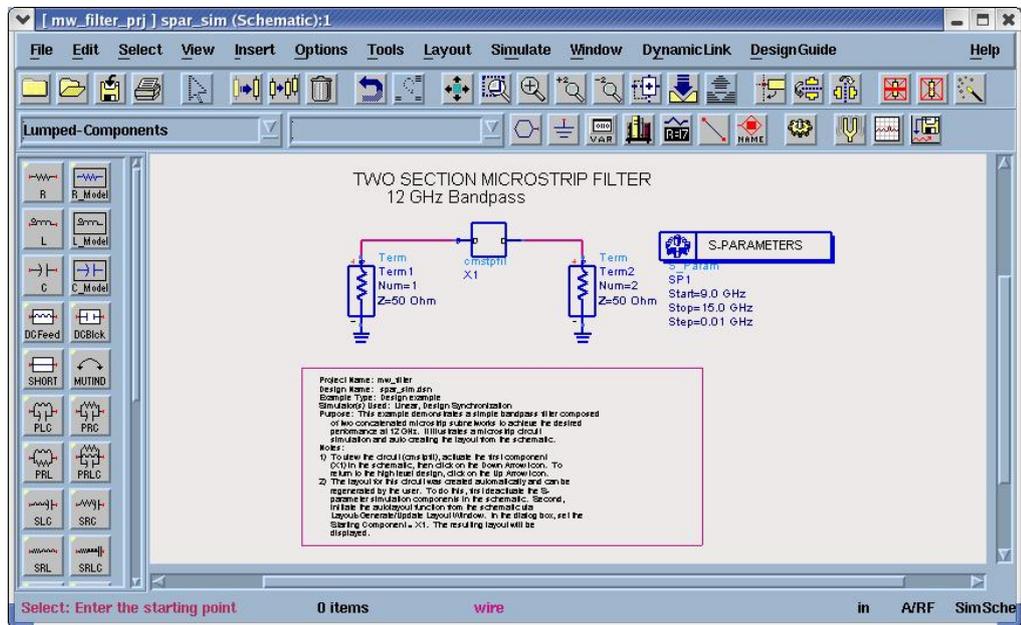
コピー完了後、自動的に mw_filter_prj がオープンされます。

注意 このプロジェクト mw_filter_prj のレイアウト画面表示、および、Sパラメータ解析の実行には、**特定のライセンス(ads_layout、sim_linear)**が必要です。これらのライセンスをお持ちでない場合は、一部機能をご利用いただけません。予めご了承ください。

(6) 回路図(スキーマティック)とレイアウト・ウィンドウ

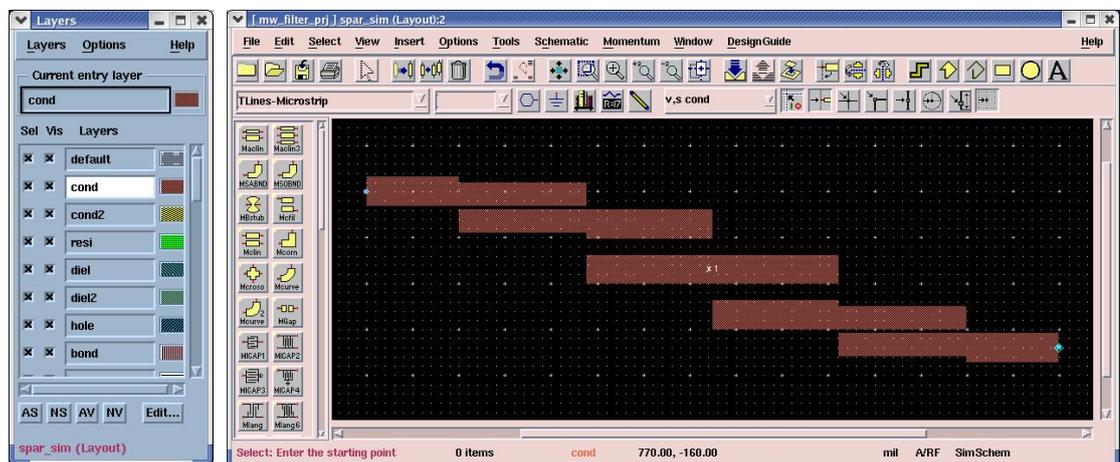
下図のような、回路図(スキーマティック)ウィンドウが表示されます。

この回路は、マイクロ・ストリップ・ラインで構成されたバンド・パス・フィルタの、Sパラメータ・シミュレーションを行うように設定されています。



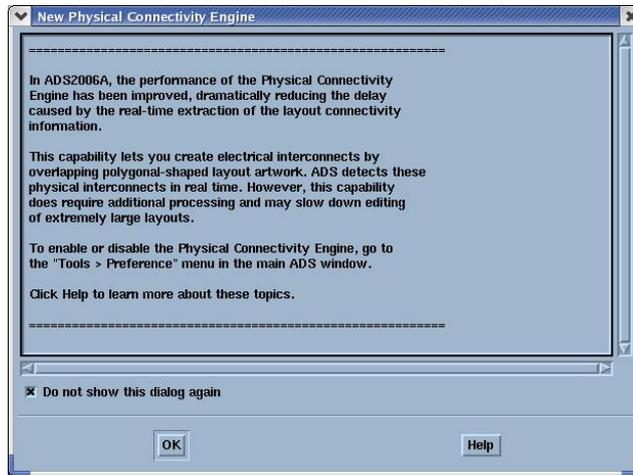
下図のような、レイアウト・ウィンドウも表示されます。

このレイアウトは、マイクロ・ストリップ・ライン・フィルタの、物理形状を表しています。



左側のLayersウィンドウでは、レイアウトのレイヤ情報の表示と、設定変更を行うことができます。

初めてレイアウト・ウィンドウを開いた場合は、下図の New Physical Connectivity Engine ダイアログ・ボックスが現われます。

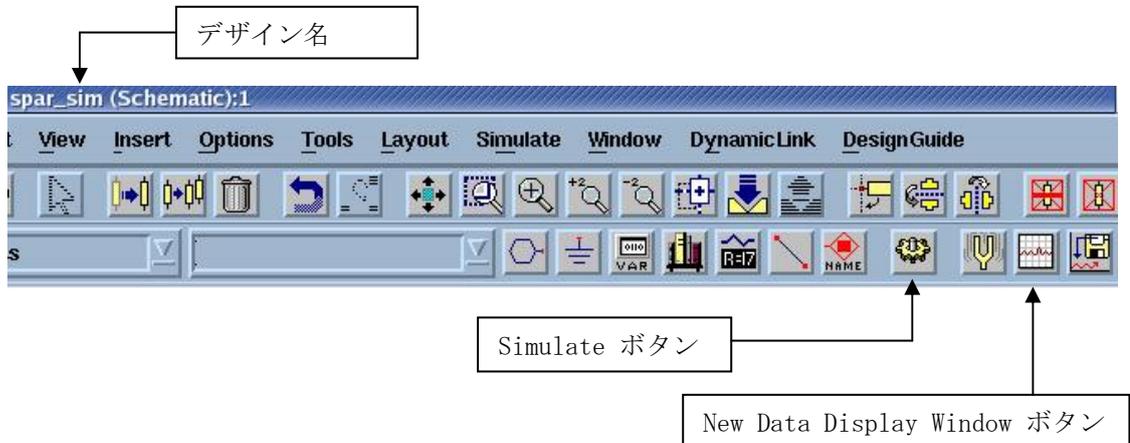


初めてレイアウト・ウィンドウを開いた場合は、上図の New Physical Connectivity Engine ダイアログ・ボックスが表示されます。

ADS 2006Aのレイアウト機能の仕様変更に関する情報が表示されます。

次回以降このウィンドウを表示しないようにする場合は、[Do not show this dialog again.] のチェック・ボックスをチェックしてください。

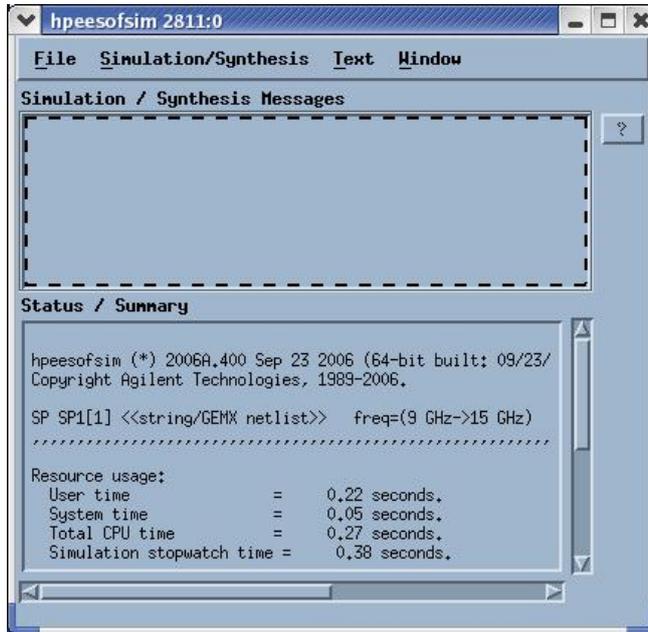
(7) シミュレーションの実行とグラフ表示



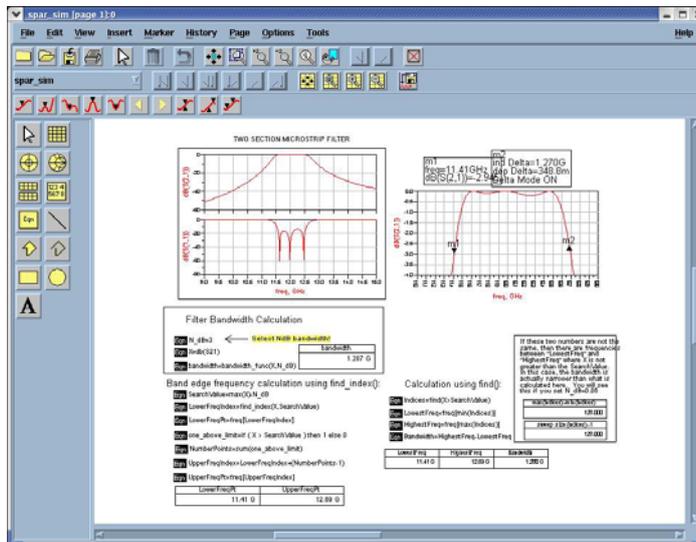
スキマティック・ウィンドウのツール・バーで、[Simulate] ボタン(歯車のアイコン)を選択するとシミュレーションが実行されます。また、[New Data Display Window] ボタン(グラフのアイコン)を選択するとグラフ表示が行えます。

なお、タイトル・バーのデザイン名右側に (READ ONLY) と表示されている場合は、読み込み専用属性となっており、編集後のデザイン保存はできませんので、ご注意ください。

シミュレーションの実行により、シミュレーションの進行状況、エラー等を示すステータス・ウィンドウが表示されます。



シミュレーションが終了すると、結果を示すデータ・ディスプレイ・ウィンドウが表示されます。



(8) 動作確認の終了

データ・ディスプレイの表示まで、正常に行うことができれば、ADS 2006A の基本動作については問題ありません。

メイン・ウィンドウで [File] > [Exit Advanced Design System] を選択して、ADS 2006A を終了させます。

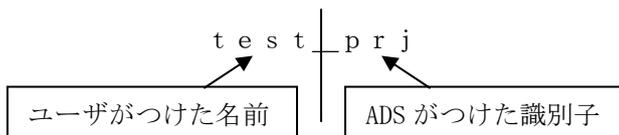
6-6 参考：ADS のプロジェクト・ファイルの構成

ADS ではプロジェクト毎にディレクトリが作成され、その下に各種作業用ディレクトリやファイルが存在します。

◇ プロジェクト名

新しいプロジェクトを作成した時のルールです。

例えば、ユーザが `test` というプロジェクトを作成した場合、UNIX / Linux 上では `test_prj` というディレクトリが作成されます。つまり、“_prj” という識別子が自動的に付加されます。



◇ プロジェクト・ディレクトリの構成

プロジェクト・ディレクトリの構成は、次のようになっています。

プロジェクト ディレクトリ	サブ・ディレクトリ名 サブファイル名	種 類	役割
test_prj/	networks/	D	回路図/レイアウト
	data/	D	データセット
	mom_dsn/	D	Momentum (メッシュ等)
	synthesis/	D	DSP シンセシス
	verification/	D	デザイン・ルール・チェッカ(DRC)
	schematic.prf	F	回路図の初期設定ファイル
	layout.prf	F	レイアウトの初期設定ファイル
	de_sim.cfg	F	各種設定ファイル
XXXX.dds	F	グラフ表示 (dds=Data Display Server)	

種類： D=ディレクトリ F=ファイル

◇ ファイル拡張子

ADS では次の拡張子が付いたファイルを取り扱います。

拡張子	役割	場所
.dsn	回路図/レイアウトのファイル	network ディレクトリ
.dds	グラフ表示 (Data Display Server)	プロジェクト・ディレクトリ
.ds	データセット・ファイル	data ディレクトリ
.ael	AEL ファイル	
.atf	AEL ファイルの補助ファイル	AEL と同じディレクトリ
.zap	圧縮されたプロジェクト	ユーザ定義

1. 回路図と関連するレイアウトは、同じファイル (.dsn) に格納される。
2. Sパラメータ等のデータは、通常 data ディレクトリに格納される。
3. すべての .dsn ファイルは、それに関連する .ael と .atf ファイルを持つ。

6-7 プリンタの登録

(1) ADS でのプリンタ設定の前に

ADS でプリンタの設定を行うには、事前に以下の項目をご確認ください。

1. UNIX / Linuxで既にプリンタの設定が終了していること。
2. lp 命令(または lpr 命令)で、テキスト・ファイルが出力できること。(例: lp /etc/group)
3. プリンタの論理名がわかっていること。(プリンタの論理名の確認は、lpstat -t 命令)
4. プリンタが Postscript®, HP-GL/2, PCL 4/5 のいずれかをサポートしていること。

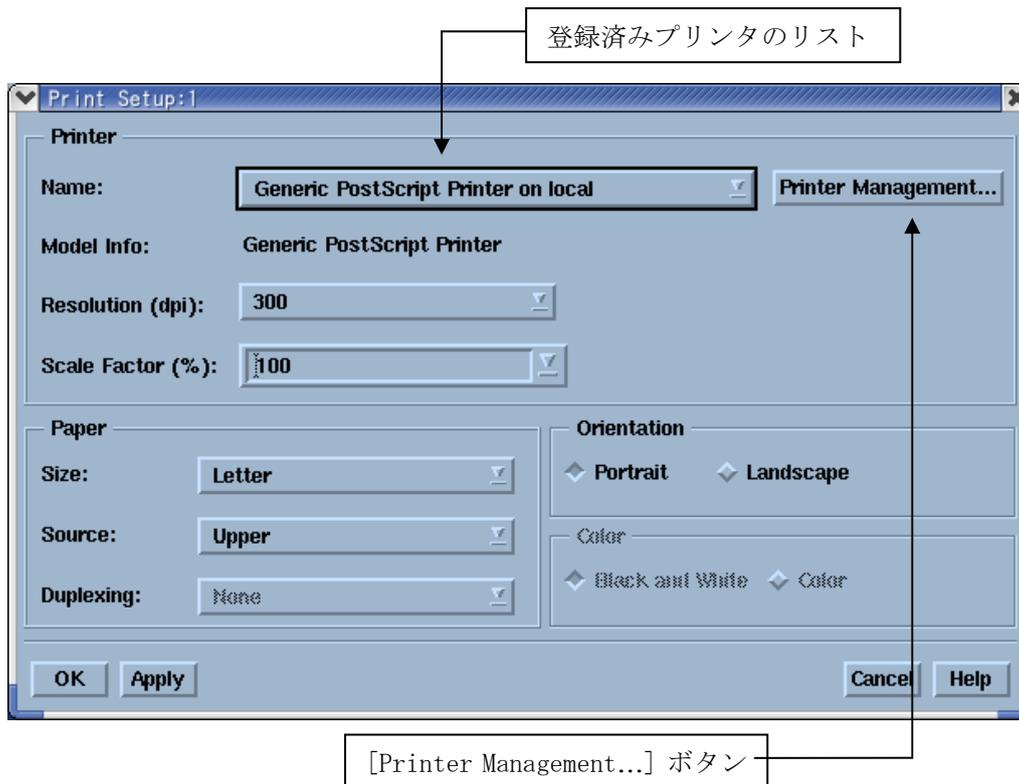
注意 OS 上でのプリンタの設定が終了していない場合は、ADS からプリントアウトを行うことはできません。必ず、OS 上でのプリンタの設定を済ませてから、以下の作業を行ってください。

OS 上でのプリンタの設定方法/トラブルにつきましては、アジレント・テクノロジー 社では対応できません。各 OS の販売元までお問合せください。

(2) 初めてプリンタを使用する場合は ADS のプリント・セットアップによる登録を行います。

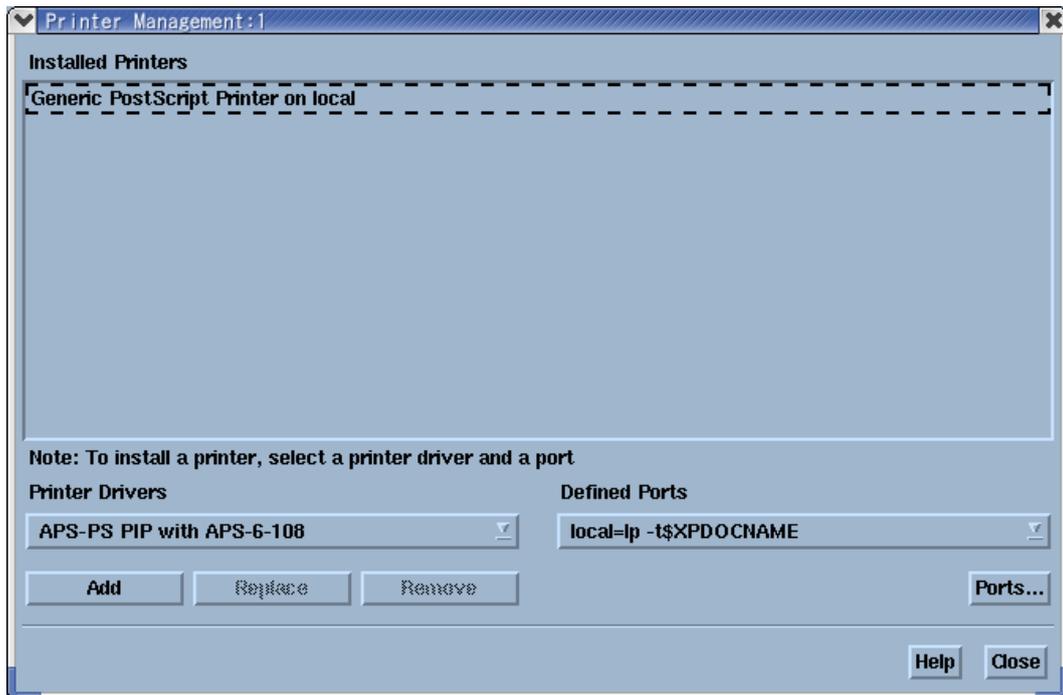
回路図(Schematic)ウィンドウ、レイアウト(Layout)ウィンドウや、グラフ(DataDisplay)ウィンドウ等で、[File] > [Print Setup] メニューを選択します。

(3) 下図のような [Print Setup] のウィンドウが現れます。



[Printer Management...] ボタンをクリックします。

- (4) [Printer Management] ウィンドウが現れます。

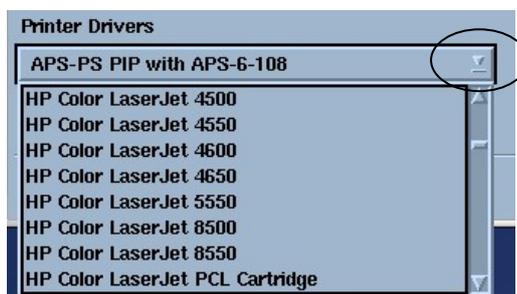


[Installed Printers] 欄には、登録済みのプリンタとポートの組み合わせが表示されます。初期設定では、Generic PostScript Printer on local (LPスプーラのデフォルト・プリンタに設定されたモノクロ PostScriptプリンタ) のみ登録されています。

ご所有のプリンタに出力を行うには、[Printer Drivers]欄のプリンタ・ドライバと、[Defined Ports] 欄のプリンタ・ポートの適切な組み合わせを選択し、[Add] ボタンを用いて [Installed Printers] のリストに登録しなければなりません。

- (5) まず、プリンタ・ドライバを選択します。

[Printer Drivers] 欄右端の▽マークをクリックすると、下図のように登録済みプリンタ・ドライバのリストが表示されます。



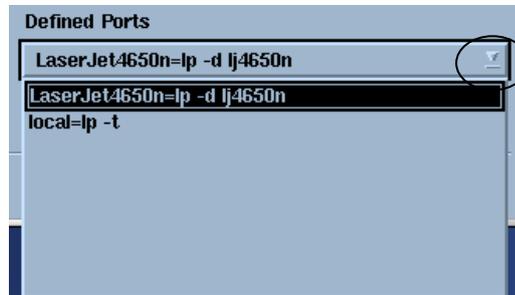
リストからご所有のプリンタの機種を選び、クリックしてください。

もし、該当するプリンタ・ドライバが無い場合は、

6-8節「参考；使用しているプリンタがリストにない場合は？」
をご参照ください。

- (6) 次に (5) で選択したプリンタが接続されている、プリンタ・ポートを選択します。

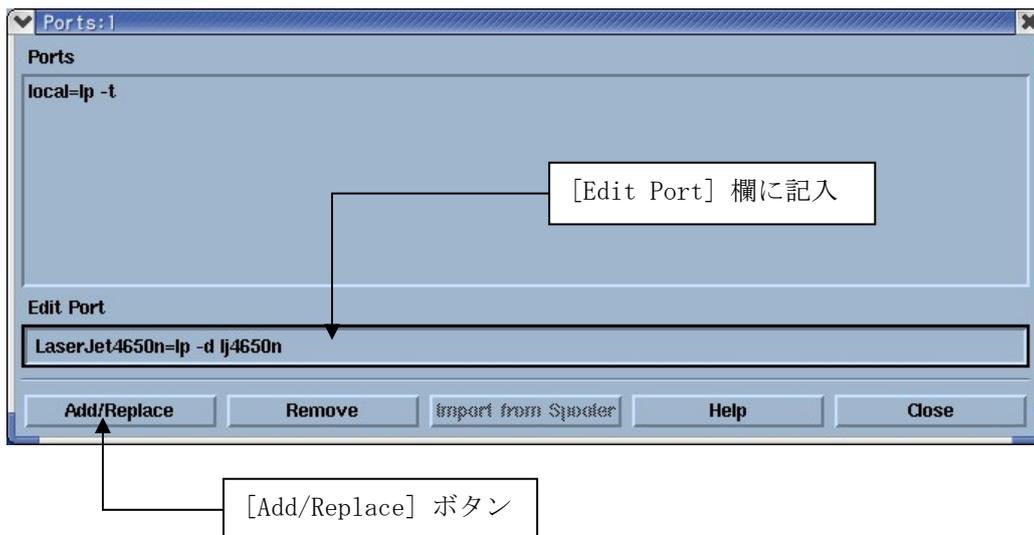
[Defined Ports] 欄右端の▽マークをクリックすると、下図のように登録済みプリンタ・ポートのリストが表示されます。



表示の形式は、<ポート名>=<プリント・コマンド> の形式になっています。リストからプリンタ・ポートを選択して、クリックしてください。

初めて使用する場合、および、プリンタ・ポートの設定を変更する場合は、[Printer Management] ウィンドウの [Ports...] ボタンをクリックしてください。

- (7) [Ports...] ボタンをクリックすると、[Ports] ウィンドウが表示されます。



[Ports] 欄には、定義済みのプリンタ・ポートが表示されます。

プリンタ・ポートは、任意の<ポート>名と、実際に印刷を実行する為の<プリント・コマンド>の組み合わせで、<ポート>=<プリント・コマンド>の書式で定義されます。

新しいプリンタ・ポートを追加する場合は、[Edit Port] 欄に入力して [Add/Replace] ボタンをクリックします。

既存のプリンタ・ポート定義を変更する場合は、[Ports]欄の対象プリンタ・ポートをクリックし、[Edit Ports]欄に表示された内容を編集して、[Add/Replace] ボタンをクリックします。

<記述例> LaserJet4650n=lp -d lj4650n

ここで、

LaserJet4650n ユーザがわかりやすい名称を自由に付けてください。
lp -d lj4650n プリント・コマンド。このプリンタの論理名は lj4650n。

注意 Red Hat Enterprise Linux WS、および、SUSE Linux Enterprise Serverで CUPS
プリント・サービスを利用されている場合は、プリンタ・ポートの指定に **-oraw オプシ
ョン**を付記してください。

例) LaserJet4650n=lp -oraw -d lj4650n

<参考> プリンタオプションの例

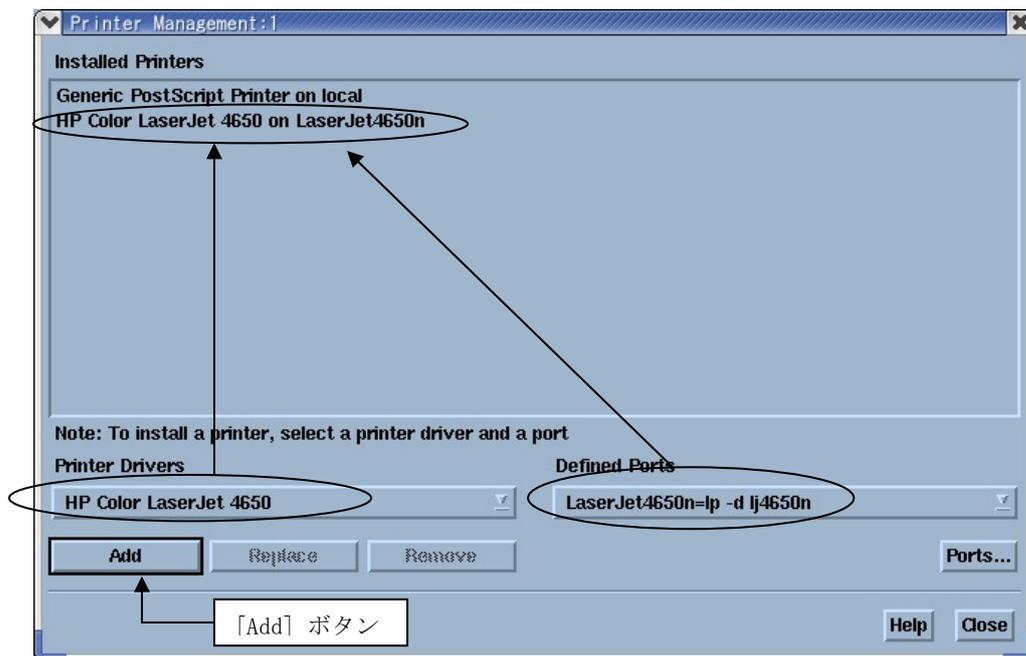
プリンタオプションの例を示します。
(lp -d lj4650n -o <オプション>)

プリンタ記述言 語	オプション例
PCL	-oraw または -opcl
HP-GL	-ohpgl または -ohpgl2 または -ohpgl2_p
PostScript	-opostscript または -ops または -opost

<例> HP LJ4650n (プリンタ論理名は lj4650n) にポストスクリプト出力
LaserJet4650n=lp -d lj4650n -opost

プリンタ・ポートを追加したら、[Close] ボタンをクリックして、[Ports] ウィンドウを閉じま
す。

- (8) [Printer Management] ウィンドウでプリンタ・ドライバとプリンタ・ポートの組み合わせを選択したら、[Add] ボタンをクリックして、プリンタ設定を登録します。

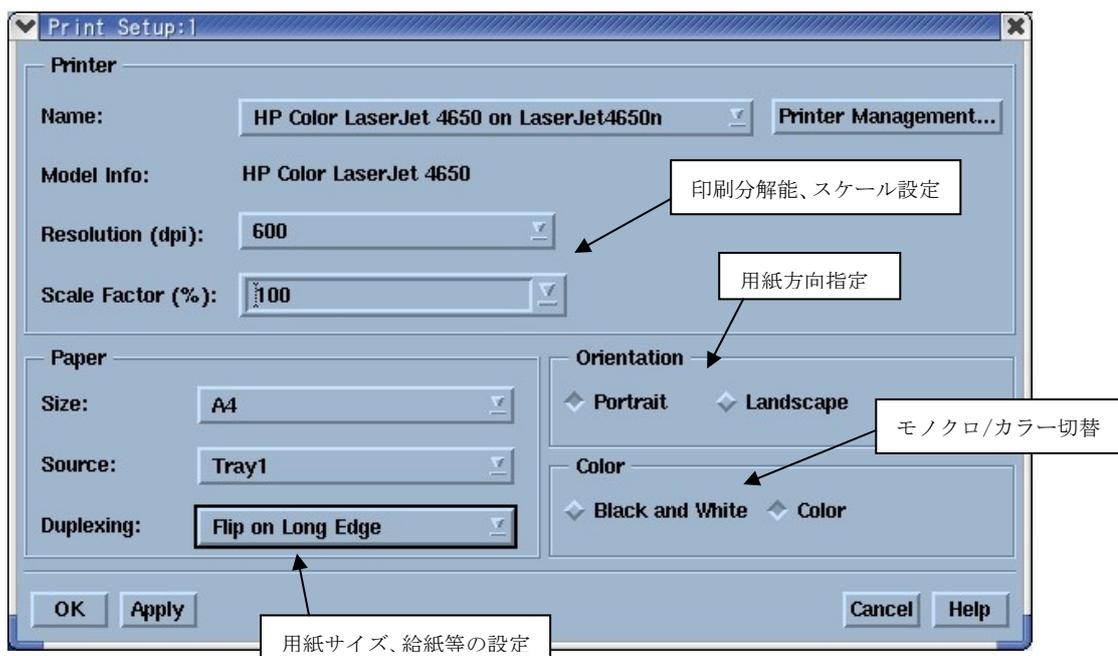


必要なだけプリンタの登録を行ったら、[Close] ボタンをクリックして [Printer Management] ウィンドウを閉じます。

- (9) [Print Setup] ウィンドウの [Name] 欄右端の▽マークをクリックして、表示されたリストに登録したプリンタ設定が有ることを確認し、クリックして切り換えます。

注意 もし表示されない場合は、**\$HOME/.XprinterDefaults** ファイルのパーミッションが書き込み不可になっている可能性があります。コマンド・プロンプトから以下の命令を実行してください。

```
$ chmod 666 $HOME/.XprinterDefaults
```



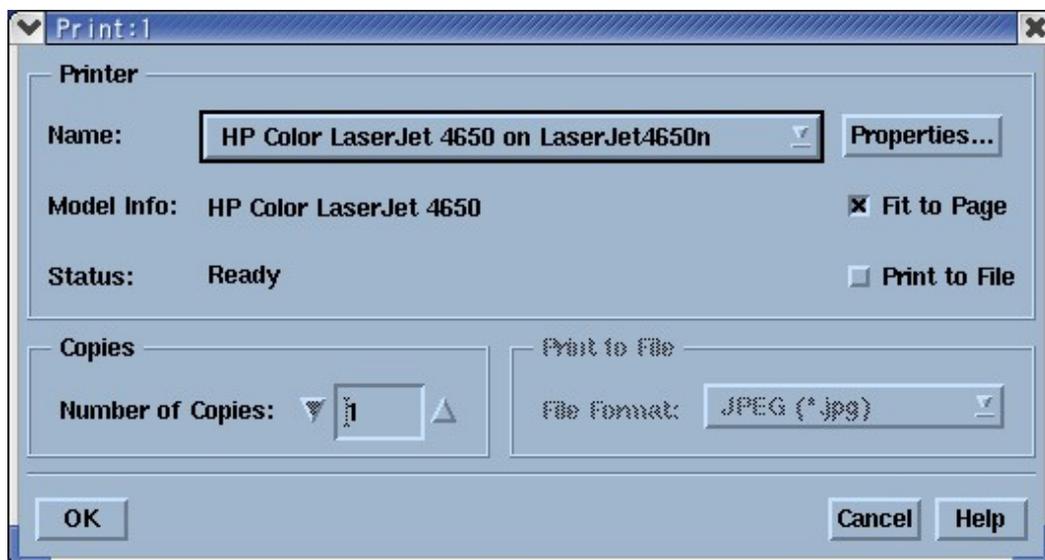
必要に応じて、印刷分解能、用紙サイズ、用紙方向、モノクロ / カラー印刷等の設定を行ってください。

設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックして、[Print Setup] ウィンドウを閉じます。

注意 プリンタ・ドライバがモノクロ印刷専用である場合は、[Color] 欄の設定を行うことはできません。
それ以外の各種設定のパラメータ設定範囲も、PPD (PostScript Printer Description) ファイルの定義に依存します。

(10) プリンタへの出力が正常に行われるかどうか、実際に試してみます。

回路図(Schematic)ウィンドウ、レイアウト(Layout)ウィンドウや、グラフ(DataDisplay)ウィンドウ等で、[File]>[Print]メニューを選択します。[Print]ウィンドウが表示されます。



[Printer] 欄には、現在選択されているプリンタが表示されています。

[Name]欄右端の▽マークをクリックすると、登録済みプリンタのリストが表示され、切り換えることができます。また、[Properties...] ボタンをクリックすると、[Print Setup] ウィンドウが表示されます。

[Fit to Page] チェック・ボックスがチェックされていると、用紙サイズに合わせて最大サイズで印刷が行われます。

[Print to File] チェック・ボックスがチェックされていると、プリンタではなく、ファイルに画面イメージを出力します。詳細に関しては、

6-9節「画面イメージのファイル出力」
をご参照ください。

注意 プリンタがカラー印刷対応である場合、モノクロ印刷とカラー印刷の切替は、
[Print Setup] ウィンドウで行います。

[Copies] 欄では、印刷部数を指定します。

[Print to File] 欄は、[Print to File] チェック・ボックスがチェックされている場合のみ、設定を行うことができます。

[OK] ボタンをクリックすると、印刷が実行されます。

6-8 参考：使用しているプリンタがリストにない場合は？

下表のように汎用的なプリンタの機種を選択します。

お持ちのプリンタ機種	Printer Devices 欄名称
カラー・ポストスクリプト	HP Color LaserJet PS
汎用ポストスクリプト	Generic PostScript Printer
汎用ポストスクリプト	HP LaserJet IIISi PostScript
汎用ポストスクリプト	HP LaserJet 5Si
カラーPCL	HP Color LaserJet PCL Cartridge
汎用PCL	HP LaserJet IIISi PCL Cartridge
汎用PCL	HP LaserJet 5Si

または、プリンタ・メーカーから PPD (PostScript Printer Description) ファイルを入手し、ADS で登録を行います。PPD ファイルとは、プリンタの解像度、用紙サイズ、トレイ位置等の情報が記録されているファイルです。

PPD ファイルを入手した後、次のように ADS 上で設定してください。

```
cp /tmp/XXX.ppd $HPEESOF_DIR/xprinter/ppds/XXX.ps
chmod 444 $HPEESOF_DIR/xprinter/ppds/XXX.ps
```

注意 ファイル名の拡張子は、XXX.ppd ではなく XXX.ps のように変更してください。

参考 \$HPEESOF_DIR/xprinter/ppds ディレクトリ下に、ADS が標準で持っている PPD ファイルがあります。

<PCL プリンタを持っていますが、ADS で使用できますか？>

ADS でサポートしている PCL プリンタは、PCL Level 4/5です。PCL Level 3 以下では動作しません。お持ちの PCL プリンタのマニュアルをご覧になり、サポートしている PCL Level をご確認ください。(一般的に、古い PCL プリンタや PC 用のプリンタでは、ADS からは出力できません。)

<ADS から PCL プリンタに出力する時のフォーマットは何ですか？>

HP-GL を使用しています。

前述した PCL Level 4/5 は HP-GL もサポートしているため、ADS から PCL プリンタに出力する時は HP-GL フォーマットを使用しています。なお、PCL Level 3 以下は HP-GL をサポートしていないため、ADS では使用できません。

<PostScriptプリンタを持っていますが、ADS で使用できますか？>

ほとんどの場合可能です。

ただし、一部の機種ではポストスクリプト・エミュレーション機能でポストスクリプトを表示している場合もありますのでご注意ください。(正常に印刷されない場合もあります)

<プリンタが登録できません>

ホームディレクトリ（\$HOME）の下の、「**.XprinterDefaults**」ファイル、または、「**.Xpdefaults**」ファイルが書き込み禁止になっている可能性があります。一般ユーザでも書き込み権を与えてください。

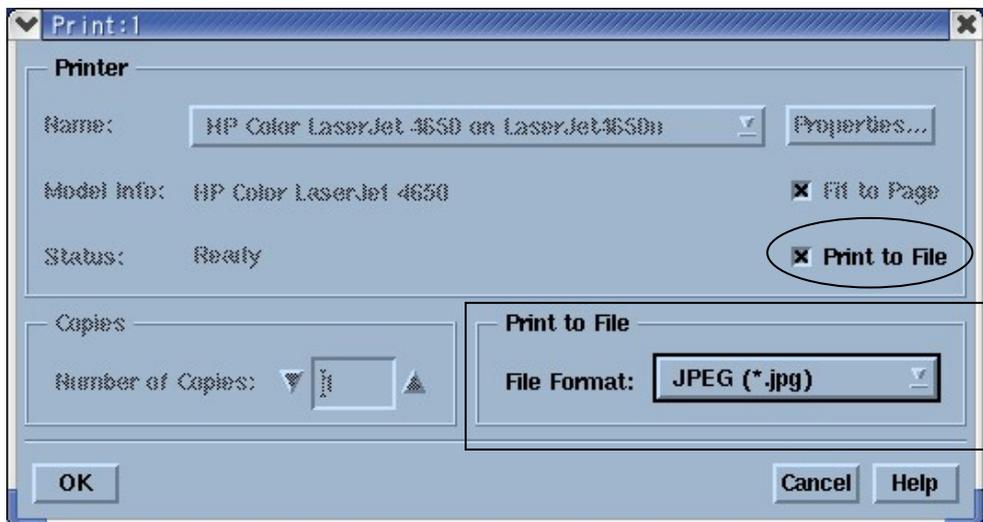
```
# chmod 666 $HOME/.XprinterDefaults
```

6-9 画面イメージのファイル出力

ADS 2006A では、回路図、レイアウト、および、データ・ディスプレイの画面イメージを、下記フォーマットの画像ファイルに出力することができます。

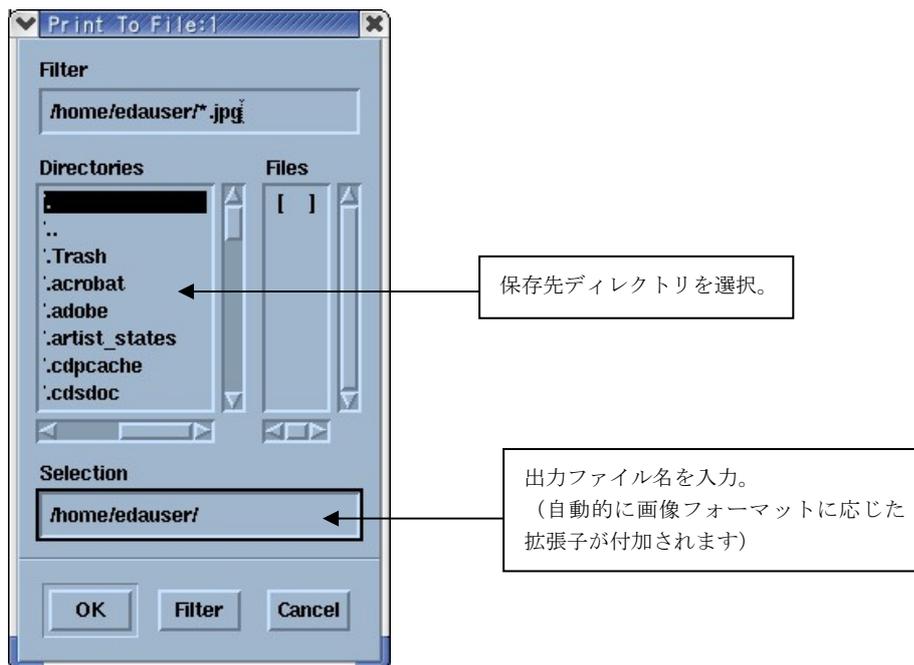
画像フォーマット	ファイル拡張子
JPEG	*.jpg
GIF	*.gif
PDF	*.pdf
Bitmap	*.bmp
HP-GL/2	*.hgl
EPS	*.eps
PCL4	*.pcl4
PCL5	*.pcl

回路図(Schematic)ウィンドウ、レイアウト(Layout)ウィンドウや、グラフ(DataDisplay)ウィンドウ等で、[File] > [Print] メニューを選択します。[Print] ウィンドウが表示されます。



[Print to File] チェック・ボックスをチェックすると、[Print to File] 欄の設定が可能になります。
[File Format:] 欄右端の▽マークをクリックすると、画像フォーマットのリストが表示されますので、希望のフォーマットを選んでください。

[OK]ボタンをクリックすると、[Print To File] ウィンドウ (ファイル・ブラウザ) が表示されるので、保存先ディレクトリとファイル名を指定して、[OK] ボタンをクリックしてください。



注意 画面イメージのキャプチャを行う際は、対象となるウィンドウに他のウィンドウ（[Print] ウィンドウを含む）のフレームが被らないように、配置にご注意ください。

6-10 ADS が起動しない場合の原因と対策

(1) はじめに

ADS が起動しない場合の原因と対策を説明します。

また、ADS は起動したが、シミュレータ等が動作しない場合についても説明します。

■ ADS の画面が全く表示されない場合

次のパスおよび環境変数が正確に定義されていることが条件です。

パス(PATH)	\$HPEESOF_DIR/bin を含むこと。
環境変数	HPEESOF_DIR=<ADSのインストール・ディレクトリ> AGILEESOFD_LICENSE_FILE=<ライセンスの設置パス>

参照⇒ (2) ADS の画面が全く表示されない

■ ライセンス・エラー

FLEXnet に関するトラブルと考えられます。

- ◇ 環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** が正確に定義されていること
- ◇ FLEXnet ライセンス・サーバが正常に動作していること
- ◇ FLEXnet ライセンス・サーバと通信が正常に行えること
- ◇ NIS, DNS を使用している場合は、それらが正常に動作していること

また、有効なライセンスが無い場合も考えられます。

- ◇ 前回、異常終了した ADS が存在するのではないか
- ◇ 誰かがライセンスを保持したままではないか

参照⇒ (3) ライセンス・エラー

参照⇒ (4) ADS は起動するが、シミュレータや、ライブラリが動作しない

■ その他

ADS 起動時に参照するファイルが壊れている **参照⇒** (5) その他の原因
デバッグ・モードを使用する **参照⇒** (6) デバッグ・モードでの起動

(2) ADS の画面が全く表示されない場合

◇ 起動しない 1

```
$ ads
ksh: ads: not found (見つかりません)
```

このエラーは**コマンド・サーチ・パス(PATH 環境変数)**が正しく設定されていない時に表示されます。パスの設定をご確認ください。UNIX / Linux の `env` 命令でパスの確認を試みます。

```
$ env | grep ^PATH
```

上記コマンドの出力結果より、コマンド・サーチ・パス中に ADSの実行ファイル・パス (例: `/usr/local/ADS2006A/bin`) が含まれているかどうかを確認します。含まれていない場合は、以下の手順で直接手動でパスを追加して試みます。

```
(B/Kシェルの場合)
$ PATH=/usr/local/ADS2006A/bin:$PATH
$ export PATH
$ env | grep ^PATH (確認)
$ ads
```

それでも起動できない時は、フル・パスで起動して試みます。

```
$ /usr/local/ADS2006A/bin/ads
```

フル・パスでも起動しない場合は、プログラムが存在しない場合が考えられます(NFS マウントがはずれている、別の場所にある等)

```
$ ls /usr/local/ADS2006A/bin (プログラムが存在するかどうかの確認)
```

<参考: ADS はどこにある?>

UNIX / Linux の `find` 命令を使って、ADS に固有なファイルを検索して試みます。

```
# find / -name hpeesofsim -print
-表示例-
/appl/agilent/ads2006a/bin/hpeesofsim
```

上記例の場合、`PATH=/appl/agilent/ads2006a/bin:$PATH` と設定します。

◇ 起動しない 2

```
$ ads
Agilent Technologies
Advanced Design System
eecolor: cannot locate color file
eecolor: loading default server colors . . .
failed to initialize the API-related AEL components
```

このエラーは**環境変数 HPEESOF_DIR が正しく設定されていない**時に表示されます。環境変数をご確認ください。UNIX / Linux の env 命令で確認できます。

```
$ env | grep HPEESOF_DIR
```

この環境変数は ADS がインストールされているディレクトリを示します。もし、環境変数 HPEESOF_DIR が正しく設定されていない時は、直接手動で設定します。

```
$ HPEESOF_DIR=/usr/local/ADS2006A
$ export HPEESOF_DIR
$ env | grep HPEESOF_DIR (確認)
$ ads
```

◇ 起動しない 3

```
$ ads
Design Environment (*) 2006A.400 Sep 23 2006
License Error: License server machine is down or not responding.
See the system administrator about starting the license server system, or
make sure you're referring to the right host (see LM_LICENSE_FILE).
Feature:      ads_schematic
Hostname:     licserver
License path: @licserver
FLEXnet Licensing error:-96,7
```

```
$ ads
Design Environment (*) 2006A.400 Sep 23 2006
License Error: Cannot connect to license server system.
The license server manager (lmgrd) has not been started yet,
the wrong port@host or license file is being used, or the
port or hostname in the license file has been changed.
Feature:      ads_schematic
Server name:  licserver
License path: @licserver
FLEXnet Licensing error:-15,570. System Error: 115 "Operation now in progress"
```

上記のように、ADS を起動したウィンドウに "License Error:" と表示された場合は、**ライセンスが正しく取得されていません**。

参照⇒ (3) ライセンス・エラー

(3) ライセンス・エラー

◇ Step.1

まず、**環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE が正しく設定されているかどうか**を確認します。環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE とは、ライセンス・ファイル (license.lic) の場所、もしくはライセンスが発行されているサーバのホスト名とポート番号を指し示す環境変数です。

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

<正しい表示例>

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver
```

もし、正しく設定されていなければ手動で設定してみます。(B/Kシェルの例)

```
$ AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
$ export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE    (環境変数の確認)
```

ライセンス・パスをファイル名で指定している場合は、読み取り(READ)権が必要です。パーミッションをご確認ください。(ls -l license.lic)

ファイルが存在しても、lmgrd が参照しているファイルと中身が異なる(別のファイルを参照している)場合もありますので、古いライセンス・ファイル等が存在する場合は十分ご注意ください。

ライセンス・パスを、「ポート番号@ホスト名」で指定している場合は、ライセンス・サーバのホスト名とTCP/IPポート番号が合っているかどうかもう一度ご確認ください。わからない場合は、ライセンス・サーバの管理者までお問合せください。

ライセンス・パスを、「@ホスト名」で指定している場合は、ライセンス・サーバのホスト名が合っているかどうか、ライセンス・サーバのTCP/IPポート番号が、27000～27009番で運用されているかどうかご確認ください。

上記手順で正常に ADS が動作した場合は、環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE の設定を .profile ファイル(B/Kシェルの場合)や、.cshrc ファイル(Cシェルの場合) に記述してください。これを行わなければ、次回 ADS を起動しようとした時に、またライセンスのエラーが発生してしまいます。

◇ Step.2

環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` の設定を確認したら、ライセンスが有効であるかどうかを調べます。

```
$ env | grep LM_LICENSE_FILE      (確認)
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a | more
```

<出力例：サーバに接続できない>

```
lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
Flexible License Manager status on Thu 12/7/2006 11:54

Error getting status: Cannot connect to license server system. (-15,570:245
"Operation now in progress")
```

通信エラー

上記例のような表示がされた場合、**FLEXnet のデーモン (lmgrd) が正常に動作しているかどうか**を確認します。

ライセンス・サーバのコンピュータで次の命令を実行します。(ライセンス・サーバは、前述した環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定されたライセンス・ファイル `license.lic` 中の `SERVER` 行に定義されたコンピュータか、@ホスト名で指定したホスト名のコンピュータ)

```
$ ps -ef | grep lmgrd
```

<正常な例>

```
root 1770 1 0 Jul 11 ? 0:59 /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd ... (以下省略)
```

さらに、**ベンダ・デーモン(agileesofd)が動作していることも確認**します。

```
$ ps -ef | grep agileesofd
```

<正常な例>

```
root 1773 1770 0 Jul 11 ? 5:38 agileesofd -T ホスト名 10.1 4 -c
/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

<注意> OSの種類によっては正常に表示されない場合もあります。その時は、“`ps -ef`” 命令ですべてのプロセスを表示してみてください。

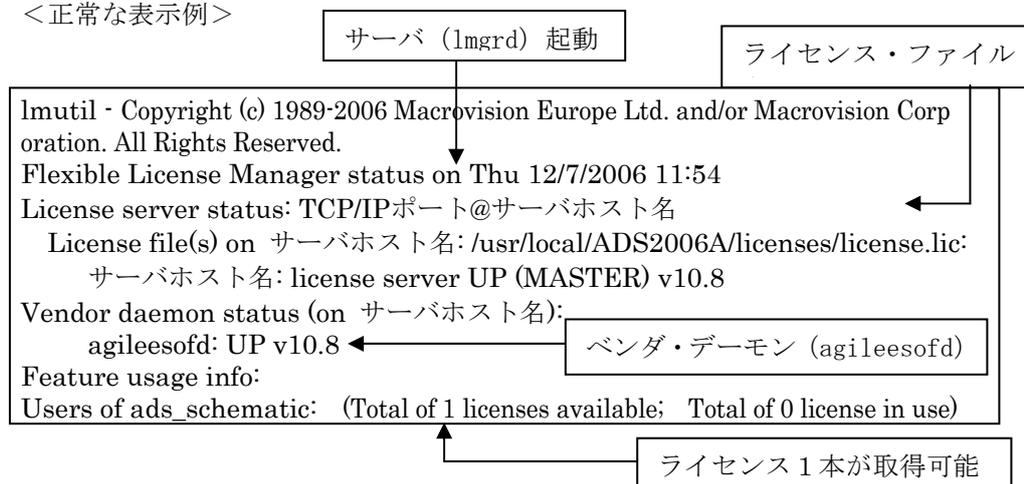
もし、ライセンス管理デーモン(lmgrd)または、ベンダ・デーモン(agileesofd)が動作していない場合は起動してください。その後、lmgrd, agileesofdの起動を確認し、ログ・ファイルを確認します。ライセンス管理デーモンの起動方法は、**5-5節「ライセンス・サーバの起動」**をご参照ください。また、起動後は**5-6節「FLEXnet ログの確認とトラブルシューティング」**により、正常にライセンス管理デーモンが起動したかどうかを確認します。

ライセンス管理デーモンが正しく起動されている場合は、以下の **FLEXnet ユーティリティを用いた確認**を行います。

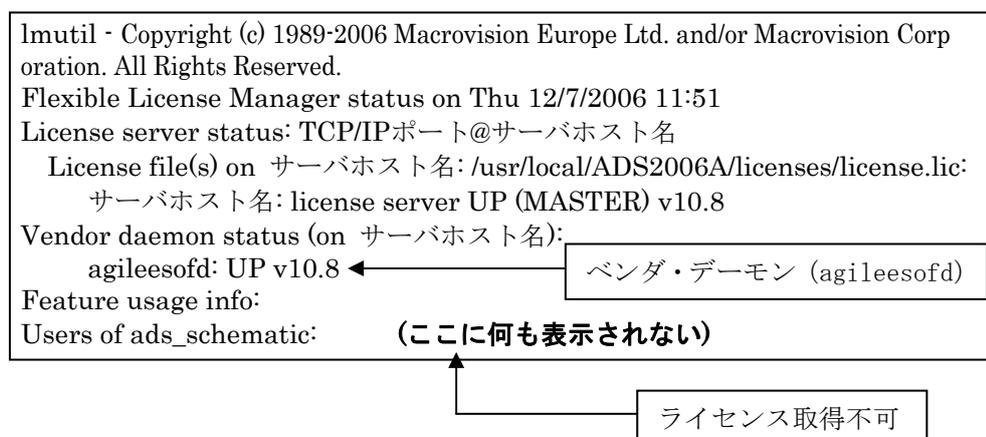
FLEXnet ユーティリティの使用方法は、**7-5節「FLEXnet ユーティリティの使用法」**をご参照ください。

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE (環境変数の確認)
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a | more
```

<正常な表示例>



<正常でない表示例>



上記、正常でない表示例の場合は、製品名 ads_schematic を使用することはできません。flex.log ファイルを確認し、より詳細な情報を入手してください。

参照⇒ 5-6節「FLEXnet ログの確認とトラブルシュート」

参考 上記作業により、手動で lmgrd を起動するとライセンスは取れるが、UNIX / Linux 起動時は取れない場合は、UNIX / Linux 起動時に、lmgrd を自動的に起動する設定を行う必要があります。

参照⇒ 5-7節「FLEXnet を OS 起動時に自動起動する方法」

◇ Step.3

lmgrd が動作しているにもかかわらずライセンスが取れない場合は、さらに次の命令を実行して、**ライセンス・ファイル自体をチェック**します。
(環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** を正しく設定した後、命令を実行してください)

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE (環境変数の確認)
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmdiag
```

<正常な表示例>

```
Imutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corp
oration. All Rights Reserved.
FLEXnet diagnostics on Thu 12/7/2006 13:20
-----
License file: @licserver
-----
"ads_schematic" v2.6, vendor: agileesofd
License server: licserver
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 25-feb-2008
This license can be checked out
-----
Enter <CR> to continue:
```

ここでは、ライセンスの開始時期と終了時期(有効期限)が確認できます。この有効期限内にあるかご確認ください。また、コンピュータに設定されている時間も **UNIX / Linux** の **date** 命令で確認してください。

<正常ではない表示例>

```
Imutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corp
oration. All Rights Reserved.
FLEXnet diagnostics on Thu 12/7/2006 13:25
-----
License file: @licserver
-----
"ads_schematic" v2.0, vendor: agileesof
License server: licserver
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 08-nov-2005

This license cannot be checked out because : (FLEXnet error -18)
License server dosen't support this feature (see server log file)
-----
Enter <CR> to continue:
```

上記の正常ではない例では、ライセンスは取得できていません。この例では、**AGILEESOFD_LICENSE_FILE** で指定されたライセンス・パスと、lmgrd 起動時に指定したライセンス・ファイルの内容が異なる等の原因が考えられます。
flex.log ファイルを確認し、より詳細な情報を入手してください。

参照⇒ 5-6 節「FLEXnet ログの確認とトラブルシュート」

◇ Step.4

次に**ライセンス数の確認**を行います。

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE (ライセンス・パスの確認)
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a | more
```

<表示例>

```
lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corp
ration. All Rights Reserved.
Flexible License Manager status on Thu 12/7/2006 13:09
License server status: サーバホスト名
    License file(s) on サーバホスト名: /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic:
    サーバホスト名: license server UP (MASTER) v10.8
Vendor daemon status (on サーバホスト名):
    agileesofd: UP v10.8
Feature usage info:
Users of ads_schematic: (Total of 3 licenses available; Total of 3 licenses in use)
    "ads_schematic" v2.6, vendor: agileesofd
    floating license
    user1 adsws1 192.168.0.1 (v2.6) (licserver/1707 1656), start Thu 12/7 10:05
    user2 adsws2 192.168.0.2 (v2.6) (licserver/1707 8273), start Thu 12/7 11:15
    user3 adsws3 192.168.0.3 (v2.6) (licserver/1707 5801), start Thu 12/7 11:49
    (以下省略)
```

3本利用可能

3本使用中

これらのユーザが使用中

製品名 `ads_schematic` に注目してみます。

この例では、3ユーザ・ライセンスを所有していて、かつ、現在3人のユーザが使用中であることが確認できます。このため、4人目のユーザのライセンスは無いことが分かります。

参考 なぜ、製品名 `ads_schematic` に注目したのか？

ADSの本体プログラムの動作は、ライセンス名“`ads_schematic`”によって提供されます。逆にいえば、いくらシミュレータやライブラリ等のライセンスが余っていても、本体プログラムである `ads_schematic` のライセンスが足りないと、ADS を起動することはできません。

参考 上記、手順で問題が解決できない場合は、もう一度 FLEXnet のログ(`flex.log`)ファイルを是非ご確認ください。ライセンス関係のエラーは通常、このログ・ファイル内に記述されています。FLEXnet ログ・ファイル中の詳細は、**5-6節「FLEXnet ログの確認とトラブルシューティング」**をご参照ください。

(4) ADS は起動するが、シミュレータや、ライブラリが動作しない

ADS は起動するが、**シミュレータやライブラリ等が動作しない場合**の確認方法を説明します。

1. シミュレーションが動作しない

次のようなエラー・メッセージが ADS を実行したウィンドウに表示されます。

— エラー・メッセージ例 —

```
License Error: No such feature exists (-5,116:2) No such file or directory
Checkout of "sim_envelope" 2.6 failed
License file location: /usr/local/ADS2006A/licenses:/usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

シミュレーションが動作しない場合の多くは、**ライセンスが無い(または既に占有されている)場合**がほとんどです。ライセンスの確認方法は前述した `lmutil lmstat -a` 命令で行ったり、直接ライセンス・ファイル(`license.lic`)を確認します。使用しているシミュレータやライブラリ等のライセンスを戻す(放す)ためには、次の ADS のメニューを **Schematic(回路図)**ウィンドウで選択します。

Simulate > Stop and Release Simulator

2. ライブラリ等が動作しない

この問題の多くも、**ライセンスが無い場合**がほとんどです。初めてそのライブラリを使用する場合は、ライセンスを持っているかどうかを確認してください。

(5) その他の原因

ADS 起動時に参照する**ファイルが壊れている場合**も考えられます。

ADS はホーム・ディレクトリの下に `hpeesof/config` ディレクトリを作成し、その下に各種構成ファイルを作成します。この構成ファイルが壊れている場合が考えられます。

この構成ファイルをディレクトリ毎削除し、再度 ADS を起動してみてください。また、この `hpeesof` ディレクトリには、`agilent HFSS 5.x` も構成ファイルを作成していますので、HFSS をご利用になっている場合は、`hpeesof` ディレクトリは削除しないでください。

```
$ rm -r $HOME/hpeesof/config      (ディレクトリ削除)
$ ads                               (ADS の起動)
```

(6) デバッグ・モードでの起動

以下の手順で、動作状況の詳細ログを確認できます。

ADS を実行できる一般ユーザでログインし、ADS を “**ads_verbose**” コマンドで起動します。

```
$ ads_verbose
```

ADS を起動したターミナル・ウィンドウには、以下のように表示されます。

```
Agilent Technologies
Advanced Design System

The verbose flags have been turned on.
See the following files for details related this session:

    /home/adsuser/ads_daemon.log
    /home/adsuser/ads_verbose.log
```

最後の二行が、デバッグ・モードのログ・ファイル名になりますので、このファイルを参照します。

ログはリアルタイムに記録されます。以下のように `tail` 命令に `-f` オプションを付加して使用すれば、ターミナル・ウィンドウ上でその記録をリアルタイムでモニタできます。

`tail` 命令の終了は `CTRL+c` です。

```
$ tail -f $HOME/ads_daemon.log
$ tail -f $HOME/ads_verbose.log
```

`-f` オプションを使用する際は、別々のターミナル・ウィンドウ上で実行してください。

7章 付録

7-1 リモート・シミュレーションの設定方法

ここでは、UNIX / Linux ワークステーションをクライアントとして、シミュレーションを行う設定について説明します。リモート・シミュレーションを行う前に、サーバとなる全てのコンピュータでセットアップを行う必要がありますので、ご注意ください。

サーバ・コンピュータは、ホスト・マシン、リモート・マシンと呼ばれることもあります。また、クライアント・コンピュータは、ローカル・マシンと呼ぶことがあります。

注意 Momentum のリモート・シミュレーションについては、下記オンライン・マニュアルをご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs>

Advanced Design System 2006A > Simulation > Momentum
> Chapter7: Simulation > Performing Remote Simulations

リモート・シミュレーションは、以下のサーバ/クライアントで行うことができます。(Momentum を除く)

- サーバとして利用できる OS
 - Windows® 2000 / XP
 - UNIX / Linux
- クライアントとして利用できる OS
 - ADS のサポートされている OS本手順書では、UNIX / Linux の場合の説明のみ行います。

注意 LSF を用いたリモート・シミュレーションを行う場合は、Installation on UNIX and Linux Systemsマニュアルの”Using LSF Remote Simulation” をご覧ください。
また、Momentum は LSF リモート・シミュレーションに対応していません。

(1) サーバ・マシンでの設定

■ サーバが PC の場合

1. サーバ PC に、リモート・シミュレーション用の TCP/IP ポートを割り当てます。ここでは初期設定値の **1537** を使用していますが、これ以外のポートでも結構です。下記の何れかの方法で設定を行ってください。

- ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事でポートを設定する事ができます。<Installation Directory>%config%hpeesof.cfg ファイルをメモ帳等のエディタで開き、下記の一行を加えてください。この場合は、全ユーザ共通設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- ホーム・ディレクトリに “<HOME Directory>%hpeesof%config%hpeesof.cfg” ファイル (例えば “C:%users%default%hpeesof%config%hpeesof.cfg”) を作成して設定することも可能です。作成した “hpeesof.cfg” ファイルに同じく下記の一行を記入してください。この場合は、各ユーザ固有の設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、**1537** 番が使用されます。

2. リモート・シミュレーション・デーモン(EMX デーモン)を起動します

コマンド・プロンプトを開き以下のコマンドを実行するか、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] を開き、同じく以下のコマンドを実行します。

<書式> <Installation Directory>%bin%hpremote -d remote_sim.log

< 例 > C:%ADS2006A%bin%hpremote -d remote_sim.log

-d オプションは、デバッグ・モードをあらわすオプションです。リモート・シミュレーションの実行ログを保存できますので、実行状況についてはこのファイルの内容を確認してください。remote_sim.log ファイルは <Installation Directory>%bin ディレクトリに作成されます。

注意 デーモン起動時に出現したコマンド・プロンプト画面は閉じないでください。これを閉じると、リモート・シミュレーション・デーモンも同時に終了します。

以上で、PC サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行ってください。

■ サーバが UNIX / Linux の場合

1. リモート・シミュレーション・サーバにログインします。
2. HPEESOF_DIR、PATH、DISPLAY の各環境変数を、ADS 2006A を起動できる設定にします。詳細は“*Installation on UNIX and Linux Systems*” マニュアルや、本手順書 6-2 節「**ユーザ毎の環境設定**」をご覧ください。

参考 TkPlots を伴う Agilent Ptolemy シミュレーションを行う場合は、DISPLAY 環境変数の設定も必要になります。サーバ・マシンから、TkPlots ウィンドウをクライアント・マシンに表示できるように設定してください。

3. UNIX / Linux サーバに、リモート・シミュレーション用の TCP/IP ポートを割り当てます。ここでは初期設定値の 1537 を使用していますが、これ以外のポートでも結構です。
下記のいずれかの方法で設定を行ってください。

- ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事で TCP/IP ポートを設定する事ができます。(この作業はスーパー・ユーザ権限のあるユーザで行う必要があります)。**<Installation Directory>/config/hpeesof.cfg** ファイルを vi 等のエディタで開き、下記の一行を加えてください。これは全ユーザ共通設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

スーパー・ユーザ権限で作業が行えない場合は、ホーム・ディレクトリに“**<HOME Directory>/hpeesof/config/hpeesof.cfg**” ファイルを作成して設定することも可能です。作成した“hpeesof.cfg” ファイルに同じく上記の一行を記入してください。この場合は、各ユーザ固有の設定となります。

注意 TCP/IP ポートの設定を行う場合は、使用するポート番号が他で確保されていない事をご確認ください。これは、**/etc/services** ファイル内に、上記例の場合は 1537 番の記述がない事を確認することで可能です。(ただし、NIS を使用している場合は“ypcat services” コマンドで確認する必要があります)。
もし確保されていた場合は、他の番号(例えば 5332 番)をご使用ください。

- **/etc/services** ファイルに下記の例のように“eedaemon”行を加えることで設定する事ができます。(NIS を使用している場合は、NIS サーバの **/etc/services** ファイルを変更します)。
これは、UNIX / Linux ワークステーションの管理者権限が必要になりますので、ワークステーションの管理者までご相談ください。

<書式> eedaemon <ポート番号>/tcp eedaemon
<例> eedaemon 1537/tcp eedaemon

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、**1537**番が使用されます。

4. リモート・シミュレーション・デーモン(EMX デーモン)を起動します

<書式> **hpremote -d <ログ・ファイル名>**

<例> **hpremote -d /tmp/remote_sim.log**

-d オプションはデバッグ・モードをあらわすオプションです。<ログ・ファイル名>にリモート・シミュレーション・デーモンの実行ログが保存されます。上記例では“/tmp/remote_sim.log”に作成されます。

ここでエラーが発生した時は、“**(5)エラー・メッセージ**” をご覧ください。

ログ・ファイルの最新部分を確認するには、以下のコマンドを実行してください。

```
tail -f /tmp/remote_sim.log
```

5. リモート・シミュレーション・デーモンが実行されている事を以下のコマンドで確認します。

```
ps -ef | grep hpeesofemx
```

注意 既に他のユーザによって **hpremote** コマンドが実行されている時は、二つ目の **hpremote** コマンドは実行できません。
この場合は、既に実行されているリモート・シミュレーション・サーバを、他のユーザも利用する事ができます。

以上で、UNIX / Linux サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行ってください。

(2) クライアント側での操作手順

サーバ側での設定が終われば、既にクライアント・マシンからリモート・シミュレーションが動作するはずですが、以下の手順で、リモート・シミュレーションを行ってみます。

1. 通常通り、ADS 2006A を起動します。
2. 既存のプロジェクトを開くか、新しくプロジェクトを作成します。
3. デザインを開くか、作成します。
4. Schematic ウィンドウで、**[Simulate] > [Simulation Setup]** メニューを選択します。
5. ダイアログ・ボックスが現れますので、**[Remote Simulation Host]** 欄に、サーバホスト名(または、IP アドレス)を入力します。
6. **[Simulate]** ボタンをクリックします。

リモート・シミュレーションが成功すると、ステータス・ウィンドウが開き、シミュレーションの進行状況が表示されます。

以上で、リモート・シミュレーションの基本的な使い方は終了ですが、必要に応じて「(3) リモート・ホスト・リスト作成」作業を行ってください。また“OPEN_SIMULATOR”エラー等が発生した場合は、「(5) エラー・メッセージ」をご参照ください。

(3) リモート・ホスト・リスト作成

リモート・シミュレーション・サーバが複数台ある場合は、接続するサーバを状況に応じて選択して作業を行うと、効率よくシミュレーションを実行できる場合があります。場合に応じて異なるサーバに接続したい時は、その都度接続先のホスト名を**[Remote Simulation Host]**欄に入力するか、下記のリストを作成することによってドロップリストから接続先ホスト名を選べるようにすることができます。

1. **de_sim.cfg** ファイルを vi 等のエディタで開きます。
de_sim.cfg ファイルは“\$HPEESOF_DIR/config/de_sim.cfg” (全ユーザ共通) または、“\$HOME/hpeesof/config/de_sim.cfg” (各ユーザ固有)の二箇所を設定でき、どちらを設定しても構いません。
2. SIMULATION_HOST_LIST の設定を行っている行を探し次のように編集します。

<書式> **SIMULATION_HOST_LIST=[hostname1] [hostname2] ...**
< 例 > SIMULATION_HOST_LIST=edarem1 edarem2 edarem3

※ ホスト名同士の間は必ず半角スペース一つで区切ってください。

3. ファイルを保存し、ADS 2006A を起動します。
4. Schematic 画面で、**[Simulate] > [Simulation Setup]** メニューを選択すると、**[Remote Host Selection]** 欄に、先程記入したホスト名のリストが表示されます。この中から目的のホストを選択し、シミュレーションを行います。

(4) hpremove の自動起動

UNIX / Linux ワークステーションの起動時に自動的に hpremove デーモンを起動したい場合は、以下のスクリプトをご利用になっている OS の種類に応じた、適切な起動スクリプトの設置場所に設置します。

```
HPEESOF_DIR=<ADS 2006A インストール・ディレクトリ・パス>
PATH=$HPEESOF_DIR/bin:$PATH
if [ -f $HPEESOF_DIR/bin/hpremove ]; then
    hpremove -d /tmp/remote_sim.log & fi
```

(5) エラー・メッセージ

ここでは代表的な二つのエラーについて、その対処法を説明します。

■ リモート・シミュレーションを行った時に次のエラーが出る場合

```
(send_server_command) OPEN_SIMULATOR
server error
```

このエラーは、**サーバのリモート・シミュレーション・デーモンに接続できなかった時に**現れます。

サーバ側で、デーモンが正しく起動できているかどうかをもう一度お確かめください。デーモンの起動方法は、本節の「**(1) サーバ・マシンでの設定**」をご参照ください。

サーバが正しく起動している場合は、サーバ・ホストが見つからない可能性があります。**[Remote Host Selection]** 欄で選んだホスト名が正しいかどうかお確かめください。正しい場合は、ホスト名の代わりに IP アドレスを入れてお試してください。

ホスト名も合っており、デーモンも起動できている時は、**TCP/IP ポート番号の問題**が考えられます。サーバ側のポート番号の設定と、クライアント側のポート番号の設定が異なっていないかももう一度ご確認ください。ポート番号は、通常は **1537** 番を使用します。

■ UNIX / Linux でデーモンを起動する時に次のエラーが表示される場合

UNIX / Linux をリモート・シミュレーション・サーバにするため、hpremove コマンドを実行する時に次のエラーが表示されることがあります。

```
[1] + Stopped (tty output) -hpeesofemx -d remote.log &
```

これは、**バックグラウンドで動作するプロセスが、tty(ターミナル)にメッセージを出力できない時に**現れます。この場合はデーモンの起動スクリプト“hpremove”の内容を以下のように編集してから実行してみてください。

```
hpeesofemx 2>&1 &
```

(6) リモート・シミュレーション・デーモン(EMXデーモン)の終了

デーモンを終了させる前に、リモートで接続しているクライアントがないかどうかご確認ください。

デーモンを終了させる方法は、

■ PC の場合

起動時に現れたコマンド・プロンプト・ウィンドウ(HP EEsof Error Log Windows)を閉じることによって、PC のリモート・シミュレーション・デーモンを停止する事ができます。

サーバでタスクマネージャを起動し、`hpeesofemx` というプロセスが無くなっていることを確認します。もし残っている場合は、[プロセスの終了]ボタンで終了させます。

■ UNIX / Linux の場合

以下のコマンドで、リモート・シミュレーションのプロセス番号を調べます。

```
ps -ef | grep hpeesofemx
```

プロセス番号がわかったら、以下のコマンドでプロセスを終了させます。

```
kill <プロセス番号>
```

7-2 カーネル・パラメータの確認、および変更方法 (HP-UX)

HP-UX の sam (System Administration Manager) を使って、現在のカーネル・パラメータの値を確認したり、変更する方法を説明します。大規模なシミュレーション等を行う場合は、OS のデフォルトのカーネル設定ではリソースが足りなくなる場合があります。そのような場合は、カーネル・パラメータの変更を行ってください。

注意 カーネル・パラメータの設定は、値の設定によっては、最悪 OS が起動しなくなる等を危険を伴いますので、システム管理者等 OS のシステムを熟知している方が行ってください。なお、カーネル・パラメータの意味等については、OS の販売元にお問合せください。

(1) カーネル・パラメータの確認、変更方法

1. スーパー・ユーザ(root)でログインします。
2. sam を起動します。

```
# sam
```

sam が立ち上がり、System Administration Manager トップ・レベル・メニューが表示されます。

3. [Kernel Configuration] を選択します。
4. [Configurable Parameters] を選択します。
5. Kernel Configuration ダイアログ・ボックスが表示されます。

以下のパラメータを確認します。

maxdsiz	HP-UX 上で動く各プロセス(プログラム)が保有できるデータ領域の最大サイズ(上限)を決めます。
maxssiz	HP-UX 上で動く各プロセスが保有できるスタック領域の最大サイズを決めます。
maxtsiz	HP-UX 上で動く各プロセスが保有できるコード領域の最大サイズを決めます。
maxuprc	各ログインユーザ毎に同時に実行できるプロセス数の最大数を決めます。
nproc	システム上で同時に実行できるプロセス数の最大数を決めます。
maxswapchunks	HP-UX 上で使用できるスワップの最大サイズの係数を決めます。

6. パラメータを確認し、必要な場合は変更します。
変更したいパラメータを選択します。
7. メニューの [Actions] > [Modify Configurable Parameter...] を選択します。
8. Modify Configurable Parameter ダイアログ・ボックスが表示されます。
Formula/Value: に数値を入力します。
9. [OK] を選択します。
10. パラメータを変更した場合は、OSカーネルを新しく作り直します。

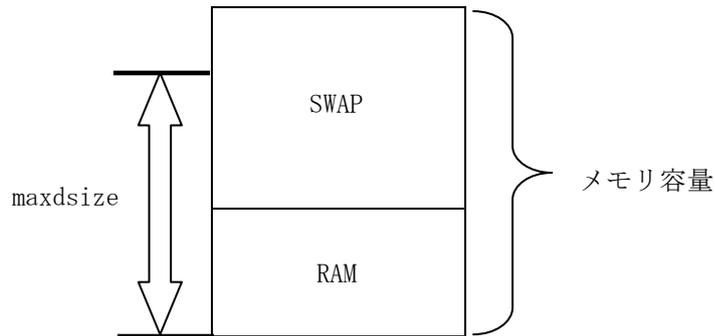
Kernel Configuration ダイアログ・ボックスで、メニューの [Actions] > [Create a New Kernel]を選択します。

HP-UX の再起動が行われますので注意してください。

11. sam を終了するには、Kernel Configuration ダイアログ・ボックスのメニューから、[List] > [Exit] を選択します。

System Administration Maneger トップ・レベル・メニューに戻ります。
12. System Administration Manager トップ・レベル・メニューから、[Exit SAM] を選択すると、sam を終了します。

(2) maxsize の設定について



RAM + SWAP が「メモリ容量」になります。

カーネル・パラメータ `maxdsiz` は、プログラムが使用できる物理メモリ・サイズの上限を定義するものです。

RAM/SWAP サイズによって一概にはいえませんが、一般的には

$$\text{maxdsiz} = (\text{RAM} + \text{SWAP}) \times 0.8$$

程度が、使用できる限界になります。(残りの20%はOSやシステム用に確保します)

<例>

RAM = 512MB / SWAP = 768MB の時、
maxdsiz は 1024MB $(=(512\text{M}+764\text{M})\times 0.8)$

<参考>

RAM サイズの確認は `dmesg` 命令で、SWAP サイズの確認は `swapinfo` 命令で行えます。(スーパー・ユーザで行ってください)

(3) maxswapchunks について

SWAPサイズの目安は以下のようになります。

$$\text{SWAPSIZE} = \text{maxswapchunks} \times \text{swchunk} \times \text{DEV_SIZE}$$

swchunk, DEV_SIZE の値は通常は変更しないでください。

(4) メモリ使用状況の確認

■ HP-UX の `top` 命令を使用すると、各プロセス毎のメモリ使用量等が、リアルタイムで表示されます。

■ “`vmstat 1 1000`” 命令を実行すると、1秒ごとに1000回 (つまり1000秒間) メモリの使用状況が表示されます。

7-3 ADS がハングアップした場合

ADS がハングアップしたり、異常終了した場合の対策です。

ADS の起動コマンド、"ads" はコンパイルされたオブジェクトコードではなく、実行可能なシェル(テキスト)スクリプト・ファイルです。

```
$ more /usr/local/ADS2006A/bin/ads
```

```
#!/bin/ksh
#@(#) $Source: /cvs/wlv/src/deinvoke/source/ads,v $ $Revision: 100.6 $ $Date: 2004/03/22 18:10:34 $
echo " Agilent Technologies "
echo "Advanced Design System"

. eesofboot.sh

hpeesofemx $emxargs hpeesofde -env de_sim "$@" &
```

このシェルスクリプト "ads" はすぐに終了してしまいますので、ADS が起動した後は、プロセスとして残ることはありません。

ADS 起動後、どんなプロセスが動作しているかを確認してみます。

```
$ ps -ef | grep hpeesof
```

```
username 7880 1 0 14:13:02 ttyp3 0:00 hpeesofvwcheck /hpads/bin/hpeesofvwcheck
hpeesofemx hpeesofd
username 7909 7882 0 14:13:05 ttyp3 0:00 hpeesofhelp -emx_parentid 7893@host
-emx_parentname hpee
username 7881 7880 0 14:13:02 ttyp3 0:00 hpeesofviewer /hpads/bin/hpeesofviewer
username 7939 7882 0 14:16:08 ttyp3 0:02 hpeesofsess -emx_parentid 7893@host
-emx_parentname hpee
username 7941 7882 0 14:16:14 ttyp3 0:00 hpeesofdss -emx_parentid 7940@host
-emx_parentname hpees
username 7882 7880 0 14:13:02 ttyp3 0:00 hpeesofemx hpeesofde -env de_sim
username 7940 7882 0 14:16:11 ttyp3 2:34 hpeesofsim -emx_parentid 7939@host
-emx_parentname hpees
username 7893 7882 0 14:13:02 ttyp3 0:44 hpeesofde -emx_parentid emx
-emx_parentname emx -emx_display
```

それぞれのプロセス(一部)の意味を示します。

プロセス名	役割	Kill ?
hpeesofemx	中核 (各プロセスの管理)	×
hpeesofsess	シミュレーション管理 (SimExec/Status Server)	×
hpeesofde	デザイン環境 (本体)	○
hpeesofdss	データセット管理 (Data Set Server)	○
hpeesofdds	グラフ表示管理 (Data Display Server)	○
hpeesofsim	シミュレータ本体	×
hpeesofhelp	ヘルプ管理	-
hpeesofbrowser	ライブラリブラウザ管理	×

この表で「Kill ?」の欄で×が付いている4つのプロセス (hpeesofemx, hpeesofsess, hpeesofsim, hpeesofbrowser) は、UNIX/Linux の kill 命令で終了させないでください。次回の起動時、ADS が立ち上がらなくなる場合があります。

もし、ADS がハングアップした場合は「Kill ?」の欄に○が付いている3つのプロセス(hpeesofde, hpeesofdds, hpeesofdss)のみを、UNIX/Linux の kill 命令で終了させてください。ただし、その場合データは保存されません。また、**kill 命令に -9 オプションは付けない**ことをお勧めします。

<ハングアップしたので、ADS 本体を終了したい時 (本体終了 : exit と同じ) >

```
$ ps -ef | grep hpeesofde
```

```

      プロセス番号(PID)
      |
      v
username 7893 7882 0 14:13:02 ttyp3 0:44 hpeesofde -emx_parentid emx
-emx_parentname emx -emx_display
      |
      v
      hpeesofde プロセス
  
```

```
$ kill 7893 (7893 は hpeesofde のプロセスID)
```

<グラフ表示でハングアップした時の終了方法>

```
$ ps -ef | grep hpeesofdds
```

```

      プロセス番号(PID)
      |
      v
username 7941 7882 0 14:16:14 ttyp3 0:00 hpeesofdds -emx_parentid 7940@hostname
-emx_parentname hpees
      |
      v
      hpeesofdds プロセス
  
```

```
$ kill 7941 (7941 は hpeesofdds のプロセスID)
```

まとめ ADS がハングアップした場合は、“hpeesofde” プロセスを見つけ、それを kill する。

```
$ ps -ef | grep hpeesofde
```

```
$ kill <hpeesofde のプロセスID>
```

7-4 FLEXnet ユーティリティの使用方法

この節では、FLEXnet ユーティリティの使い方について説明します。

(1) FLEXnet ユーティリティの種類

FLEXnet ユーティリティは、\$HPEESOF_DIR/licenses/bin ディレクトリ下にあります。

■ aglmtool

GUI 版 FLEXnet ユーティリティです。ADS 2006A 用となっていますので、ベンダ・デーモン名が、agileesofd のライセンスしか扱えません。

agileesofd を使用する弊社製品は、ADS 2006A、ADS 2005A、ADS2004A、ADS 2003C、ADS 2003A、および、IC-CAP 2006B、IC-CAP 2006A、IC-CAP 2004です。

■ lmutil

テキスト版 FLEXnet ユーティリティです。FLEXnet 標準のツールですので、全てのベンダ・デーモンに対応しています。下記のオプションを付けることにより、さまざまな機能を実現可能です。この節で解説を行う代表的なオプションの一覧が以下のリストになります。

lmstat	有効なライセンスの表示と、現在使用(占有)されているライセンスの表示が行えます。
lmdiag	有効なライセンスの表示と、使用開始日/終了日等の表示が行えます。
lmreread	ライセンス・ファイル(license.lic)を再度読み込ませる時に使用します。license.lic ファイルを変更した時は必ず実行してください。
lmdown	FLEXnet のデーモン(lmgrd と agileesofd)を停止する時に使用します。
lmpath	ライセンス・パスの設定を行う時に使用します。

■ lmgrd

次の命令は、ユーティリティではありませんが、FLEXnet のバージョンを表示できます。

lmgrd	FLEXnet の本体プログラムです。-v オプションを付加することで、FLEXnet のバージョンを表示することができます。
-------	---

(2) FLEXnet ユーティリティを起動する前に

FLEXnet ユーティリティ起動前に、環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` を設定します。ただし、環境変数の設定をせず `-c` オプションでライセンス・パスを指定することも可能です。

◇ B/K シェル、`bash` の場合

```
$ AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver
$ export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE    (確認)
```

◇ C シェルの場合

```
% setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE @licserver
% env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE    (確認)
```

また、実行には OS 固有の共有ライブラリが必要となりますので、各 OS 毎に下記の環境変数設定を行ってください。

□ Solaris の場合

(B/K シェル)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/sun58:$LD_LIBRARY_PATH
```

```
export LD_LIBRARY_PATH
```

(C シェル)

```
setenv LD_LIBRARY_PATH $HPEESOF_DIR/lib/sun58:$LD_LIBRARY_PATH
```

□ HP-UX の場合

(B/K シェル)

```
SHLIB_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/hpux11:$SHLIB_PATH
```

```
export SHLIB_PATH
```

(C シェル)

```
setenv SHLIB_PATH $HPEESOF_DIR/lib/hpux11:$SHLIB_PATH
```

□ Linux の場合

(`bash`)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/lnx86:$LD_LIBRARY_PATH
```

```
export LD_LIBRARY_PATH
```

(3) `aglmtool` の使い方

`$HPEESOF_DIR/bin` にパスが通っている場合は、UNIX / Linux コマンドラインから“`aglmtool_exe`”と入力し、`aglmtool` を起動します。パスが通っていない場合は、フル・パスで入力します。ライセンス・パスを指定したい場合は、`-c` オプションを使用します。

< 起動例 >

(`$HPEESOF_DIR/bin` にパスが通っている場合)

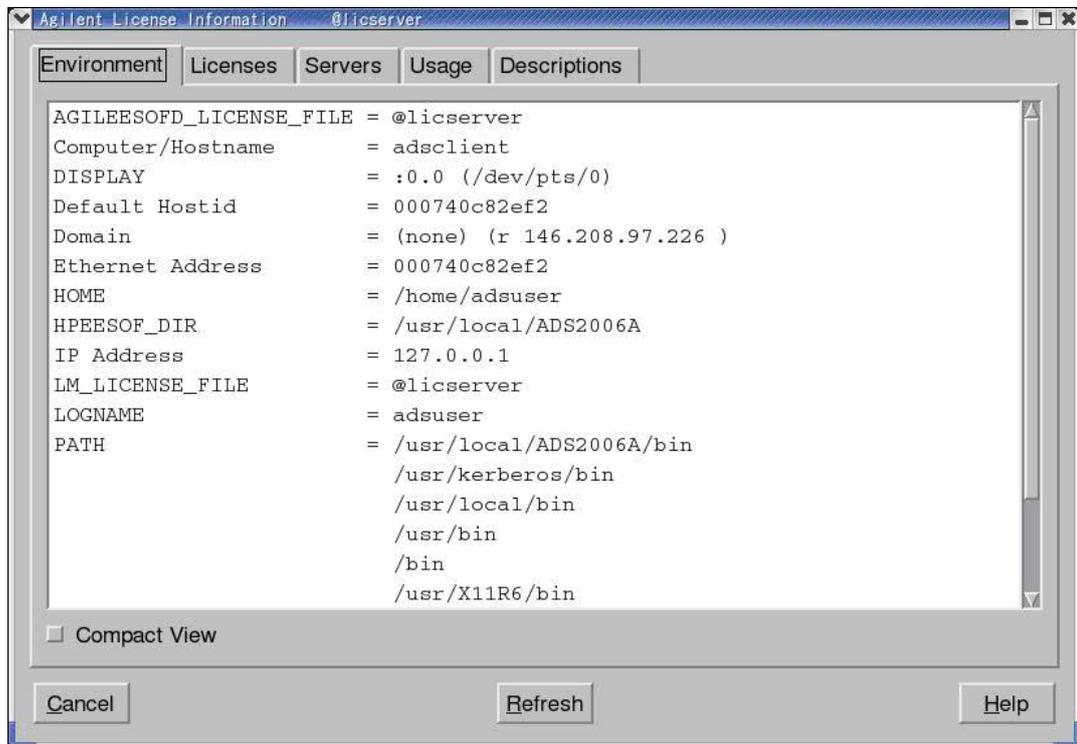
```
$ aglmtool_exe
```

(`$HPEESOF_DIR/bin` にパスが通っていない場合)

```
$ /usr/local/ADS2006A/bin/aglmtool_exe
```

(\$HPEESOF_DIR/bin にパスが通っておらず、ライセンス・パスを指定する場合)
\$ /usr/local/ADS2006A/bin/aglmtool_exe -c @licserver

以下のような、Agilent License Information ウィンドウが起動します。



各タブは、以下のような内容を表示します。

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ■ Environment | ユーザの現在の使用環境を表示します |
| ■ Licenses | 有効なライセンスがライセンス名でソートされて表示されます |
| ■ Servers | 有効なライセンスがサーバ毎に表示されます |
| ■ Usage | ライセンスの使用状況が表示されます |
| ■ Description | ライセンス・コードワードと機能の対応を簡潔に説明します。 |

(4) lmutil コマンドの使い方

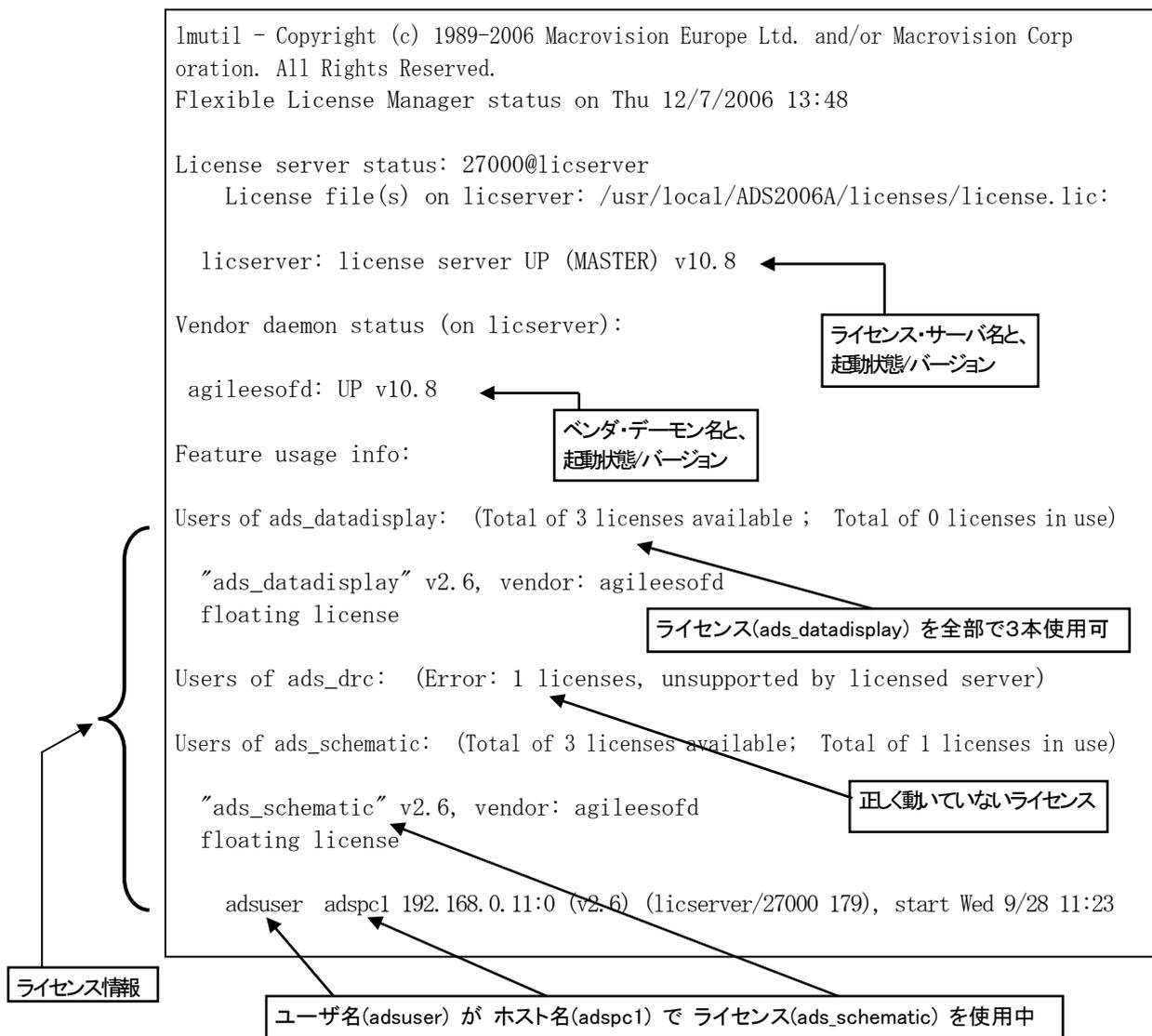
■ lmstat

ライセンス・サーバでの、ライセンスの発行状況と使用状況を確認することができます。
aglmtool では agileesofd ベンダ・デーモン管理下のライセンスしか確認することはできませんが、このコマンドを用いれば全てのライセンスについて確認することができます。
FLEXnet 実行直後は、この命令を実行し、ライセンスが有効であることをご確認ください。

<実行例>

```
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmstat -a -c 27000@licserver
```

<実行結果の例>



■ lmdiag

有効なライセンスの表示と、使用開始日／終了日等の表示を行います。

<実行例>

```
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmdiag -n -c 27000@licserver
```

<実行結果の例>

```
lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corp
ration. All Rights Reserved.
FLEXlm diagnostics on Thu 12/7/2006 13:41

-----
License file: 27000@licserver
-----

"ads_datadisplay" v2.6, vendor: agileesofd
License server: licserver
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 25-feb-2008

This license can be checked out

-----

"ads_schematic" v2.0, vendor: agileesof
License server: ホスト名
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 27-aug-2003

This license cannot be checked out, because
<エラーの場合は、ここにエラー番号と、エラー発生の理由が表示されます>
```

■ lmreread

'license.lic' ファイルを変更・修正した時は、'lmreread' 命令を実行し、ライセンス管理デーモンに再認識させる必要があります。この作業はライセンス管理デーモン(lmgrd)を起動したユーザと同じユーザで行ってください。

<実行例>

```
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmreread -c /usr/local/ADS2006A/licenses/license.lic
```

<実行結果の例>

```
lmutil - Copyright (c) 1989-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision
Corporation. All Rights Reserved.
lmreread successful (正常に読み込めた場合の表示)
```

注意 ライセンスの有効期限切れ等で、license.lic ファイルを更新した場合は、必ずこの lmreread 命令で、その変更をシステムに認識させてください。license.lic ファイルを置き換えただけでは、新しいライセンスは使用できません。

■ lmdown

FLEXnet のデーモンを止める時に使用します。FLEXnet のデーモンを再び起動する時は、`lmgrd` コマンドを使用します。

注意 ライセンス管理デーモン起動時に、`-p` オプションを使用していない場合は、このコマンドを用いて、全てのユーザがライセンス管理デーモンを停止させることができます。
管理権限のあるユーザのみが `lmdown` コマンドを使用できるようにするには `lmgrd` 起動時に `-p` オプションを使用してください。

<実行例>

```
# /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmutil lmdown -c 27000@licserver
```

注意 冗長ライセンス・サーバの場合、この命令で全てのライセンス・サーバ(通常 3 台)のデーモンが停止してしまいます。ある特定のライセンス・サーバのデーモンのみを停止する場合は、`ps -ef` 命令でデーモンのプロセスを確認した後、`kill` 命令で停止してください。

■ lmpath

lmpath 命令は FLEXnet のレジストリ (UNIX / Linux の場合は、\$HOME/.flexlmrc ファイル) に記録されているライセンス・パスを編集することが出来ます。lmpath を使用することによりレジストリに保存されているライセンス・パスを変更したり、現在の設定を確認することができます。

参考 ライセンス・パスはファイル(\$HOME/.flexlmrc)に保存されています。複数のバージョンの ADS を使用している場合で、\$HOME の設定をバージョン毎に変更している場合は、そのバージョンで使用している \$HOME/.flexlmrc になりますのでご注意ください。例えば、ADS 2006A 用のホーム・ディレクトリを /home/adsuser/ads2006a にしている場合は、/home/adsuser/ads2006a/.flexlmrc になります。

注意 FLEXnetレジストリ(.flexlmrcファイル)へのライセンス・パスの記述は、lmpath コマンドでの設定時以外に、ADS 2006A が正常に起動した場合にも **自動的にパスが追加**されます。

例えば、LM_LICENSE_FILE 環境変数を @adssvr1 と設定すると、.flexlmrc ファイルには、AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@adssvr1 というパスが追加されます。AGILEESOFD_LICENSE_FILE 設定がある場合は、LM_LICENSE_FILE 設定は無視されますので、次回 ADS 2006A 起動時は、環境変数 LM_LICENSE_FILE ではなく、.flexlmrc の AGILEESOFD_LICENSE_FILE が使用されます。その後、LM_LICENSE_FILE を例えば @adssvr2 に変更しても、AGILEESOFD_LICENSE_FILE に設定された @adssvr1 からライセンスを取得してしまいますので、十分ご注意ください。

lmpath の書式は次のようになります。

```
lmutil lmpath {-status | -add | -override} {vendor_name | all} license_path_list
```

ここで、各オプションの説明をします。

- *-status*
現在のライセンス・パスの設定を表示します。
- *-add*
既にレジストリ中にライセンス・パスが設定されている場合は、そのライセンス・パスの前に新しくライセンス・パスを付け加えます。ライセンス・パスが設定されていない場合には、新しくライセンス・パスが作成されます。また、既に存在しているライセンス・パスと同じライセンス・パスを付け加えることはできません。

注意 ライセンスは、ライセンス・パスが前(左側)にあるものから優先的にライセンスを取得します。例えばライセンス・パスが、
AGILEESOFD_LICENSE_FILE = 27000@server1;27001@server2
と設定されている場合には、まず、27000@server1 を参照し、次に 27001@server を参照することになります。

- `-override`
既にレジストリ中に存在しているライセンス・パスを上書きします。この時、空欄 ("") を使用することにより、特定のリストを消去することができます。
- `vendor_name`
特定のベンダ・デーモンを指定することができます。これを指定することにより、`vendor_name_LICENSE_FILE` という環境変数に対する設定を行うこととなります。例えば、`vendor_name` に `agileesofd` を指定した場合には、`AGILEESOED_LICENSE_FILE` に設定を行うこととなります。
- `all`
すべてのベンダ・デーモンに対する設定を行います。これは環境変数 `LM_LICENSE_FILE` に設定を行うことと同じです。
- `license_path_list`
ライセンス・パスを設定します。UNIX / Linux ではコロン (:) を使用することにより、複数のライセンス・パスを同時に設定することが可能です。`license_path_list` に空欄 ("") を使用すれば、ライセンス・パスの設定を削除することが可能です。また、特定のライセンス・ファイルを指定せず、ライセンス・ファイルが存在するディレクトリを指定することでもライセンス・パスを設定することが可能です。この時、同じディレクトリに複数のライセンス・ファイルが存在していれば、すべてのライセンス・ファイルを含んだ設定となります。

注意 `lmpath` を用いたライセンス・パスの設定は、環境変数が設定されている場合、環境変数のみ参照します。`lmpath` を使用したライセンス・パスの設定は、環境変数が設定されていない環境において有効です。

具体的な `lmpath` の使用方法は以下のようになります。

1. ライセンス・パスの状態の確認

現在のライセンス・パスの設定を確認することができます。

- 1) ターミナル・ウィンドウを立ち上げて、次の命令を実行します

```
$ cd <Installation Directory>/licenses/bin
$ ./lmutil lmpath -status
```

- 2) 設定を確認します。

```
lmutil - Copyright (C) 1989-2004 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
Known Vendors:
_____

agileesofd: 27000@server1:27001@server2
_____

Other Vendors:
_____

27001@server2
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) および、 Other Vendors (LM_LICENSE_FILE) に設定が行われていることが確認できます。

2. ライセンス・パスの追加

ライセンス・パスを付け加えるには、“-add”を使用します。

- ターミナル・ウィンドウにて、次の命令を実行します

```
$ cd <Installation Directory>/licenses/bin
$ ./lmutil lmpath -add <vendor_name> <license path>
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) にライセンス・パス 27002@server3 を付け加える場合

```
$ ./lmutil lmpath -add agileesofd 27002@server3
```

その他のベンダ・デーモン (LM_LICENSE_FILE) に、ライセンス・パス 27003@server4 と、27004@server5 を付け加える場合

```
$ ./lmutil lmpath -add all 27003@server4:27005@server5
```

3. ライセンス・パスの上書き

ライセンス・パスを上書きするには、“-override”を使用します。

- ターミナル・ウィンドウにて、次の命令を実行します

```
$ cd <Installation Directory>/licenses/bin
$ ./lmutil lmpath -override <vendor_name> <license path>
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) にライセンス・パス 27002@server3 を上書きする場合

```
$ ./lmutil lmpath -override agileesofd 27002@server3
```

4. ライセンス・パスの削除

ライセンス・パスを削除するには、“-override”を使用します。

- ターミナル・ウィンドウにて、次の命令を実行します

```
$ cd <Installation Directory>/licenses/bin  
$ ./lmutil lmpath -override <vendor_name> ""
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) を削除する場合

```
$ ./lmutil lmpath -override agileesofd ""
```

(5) lmgrd, agileesofd のバージョン確認

以下のコマンドで、lmgrd のバージョンが確認できます。

<実行例>

```
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/bin/lmgrd -v
```

<実行結果の例>

```
lmgrd v10.8.0.10 build 27023 - Copyright (c) 1988-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or  
Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
```

ベンダ・デーモン(agileesofd)も同様にバージョン確認をできます。

<実行例>

```
$ /usr/local/ADS2006A/licenses/vendors/agileesofd -v
```

<実行結果の例>

```
11:13:19 (agileesofd) FLEXnet Licensing version v10.8.0.10 build 27023  
agileesofd v10.8.0.10 build 27023 - Copyright (c) 1988-2006 Macrovision Europe Ltd. and/or  
Macrovision Corporation. All Rights Reserved.
```

上記実行結果の例では、lmgrd, agileesofd 両方ともバージョンは 10.8 です。

7-5 IC-CAP の外部シミュレータとして ADS 2006A を使用する場合

ADS 2006A、および、IC-CAP 2006A / 2006B では、IC-CAP から ADS のシミュレータ (hpeesofsim) を起動する為の新しいプログラム **iccapinterface** (\$HPEESOF_DIR/bin/iccapinterface、または、\$ICCAP_ROOT/bin/iccapinterface) が用意されています。

iccapinterface を使用するには、以下の手順で設定を行ってください。

1. IC-CAP の usersimulators ファイルを、以下のように変更します。 (**IC-CAP 2004 のみ**)

usersimulators (\$ICCAP_ROOT/iccap/lib/usersimulators) をテキスト・エディタで開き、下記の hpeesofsim 用のエントリを変更して保存します。

```
hpeesofsim hpeesofsim $ICCAP_ROOT/bin/hpeesofsim_start "" CAN_PIPE
↓
hpeesofsim hpeesofsim $HPEESOF_DIR/bin/iccapinterface "" CAN_PIPE
```

2. 環境変数 HPEESOF_DIR を設定します。

B/K シェル、bash の場合

```
HPEESOF_DIR=<ADS 2006Aインストール・ディレクトリ・パス>; export HPEESOF_DIR
```

C シェルの場合

```
setenv HPEESOF_DIR <ADS 2006Aインストール・ディレクトリ・パス>
```

また、IC-CAP 2006A / 2006B では、ADS (hpeesofsim) を標準シミュレータとして位置付ける為に、ライセンス・ファイルに下記の ADS 用ライセンス・コードワードが添付されております。

- sim_linear** リニア・シミュレータ用ライセンス・コードワード
- sim_transient** Transient シミュレータ用ライセンス・コードワード

同じコンピュータに IC-CAP 2006A、または、IC-CAP 2006B と ADS 2006A がインストールされている場合、IC-CAP のライセンス・ファイルのみで、ADS (hpeesofsim) を外部シミュレータとしてご利用いただくことができます。

ただし、IC-CAP 2006A / 2006B のライセンス・ファイルに添付されている上記 ADSライセンス・コードワードは、**ADS 2005A 用の v2.35** となっており、**ADS 2006A には対応いたしません**。

IC-CAP 2006A / 2006B をご利用のお客様には ADS 2006A 用 (v2.6) の sim_linear、sim_transient ライセンスを無償提供いたしますので、下記 EDA コードワード発行受付まで、電子メール、または、FAX にてご連絡ください。

アジレント・テクノロジー(株) カスタマコンタクトセンタ
サポートアグリーメントグループ EDAコードワード発行受付
E-Mail: japan_codeword@agilent.com
FAX: 0120-802-016
TEL: 0120-421-345 「電子計測 計測お客様窓口」

7-6 ADS 2006A 製品-コードワード対応

ADS 2002 より、INCREMENT 行のライセンス名の先頭に、そのライセンス・コードワードが持っている機能の概要を表すキーワードが付加されています。

以下の表が、その対応になります。

INCREMENT 行のキーワード	機能
ads_	Schematic、Layout、ユーザ・インターフェース等 ADS 本体機能
sim_	シミュレーション、および、そのオプション機能
mom_	Momentum、および、そのオプション機能
mdl_	モデル・ライブラリ
trans_	ファイル等のトランスレータ機能
dg_	デザイン・ガイド
link_	ソフトウェア、および、ハードウェアのリンク機能
ltp_	Limited Term Package (ライセンス・バンドル)
rfde_	RFDE (RF Design Environment 製品)

次ページより、ADS 2006A の各製品番号と、その製品で発行されるライセンス名の対応を紹介します。

最新の製品番号-コードワード対応表は、以下の Web サイト中に掲載されています。
(日本語サイトは、米国サイトより若干情報が古い場合があります。最新の情報を得たい場合は、米国サイトをご利用ください)

EDA テクニカルサポート 日本語サポート Web

<http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

EDA Technical Support (米国)

<http://www.agilent.com/find/eesof-support>

ADS 2006A, RFDE, LTP コードワード対応表

P/N	製品番号
P/N DESCRIPTION	製品名
CODEWORD NAME	ライセンス名 (ライセンス・ファイルに記載される名称)

1 / 4

ADVANCED DESIGN SYSTEM 2006A, RFDE & LTP CODEWORD TABLE		
<i>(codeword / license delivered with supported ADS products and new purchase of ADS, RFDE, & LTP)</i>		
October 15, 2006		
P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E5610L	Passive Circuit DesignGuide	dg_passives
E5611L	Power Amplifier DesignGuide	dg_pwr_amp
E5612L	Oscillator DesignGuide	dg_oscillator
E5613L	Phase-Locked Loop DesignGuide	dg_pll
E5614L	Linearizer DesignGuide	dg_linear
E5615L	Mixer DesignGuide	dg_mixer
E5616L	Bluetooth DesignGuide	dg_multi_carrier
E5617L	RF System DesignGuide	dg_commsys
E5618L	Filter DesignGuide	dg_filter
E5720L/TBL	Connection Manager	link_connect_mgr, link_measampmodeling
E5771TBL	RFIC Limited Term Package	ltp_rfic_dg
E5772TBL	RF and Microwave Limited Term Package	ltp_rf_mw_dg
E5773TBL	CommSys Limited Term Package	ltp_comm_dsp_dg
E5774TBL	Integrated Design Limited Term Package	ltp_intergrated_dg
E5776TBL	MIMIC Limited Term Package	ltp_mmic
E5777TBL	Analog Designer Time Based License	ltp_analog
E5778TBL	RF & Microwave Entry Level Time Based License	ltp_rfmw_entry
E5779TBL	DesignGuide Bundle Limited Term Package	ltp_design_guides
E5623L	Design Guide Bundle	ltp_design_guides
E4687L	Broadband SPICE Model Generator	mom_spice_broadband
E8811L	MMIC Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mom_opt, mom_vis, momentum, mom_obj, sim_harmonic, sim_linear, trans_gdsii
E8812L	MMIC Designer Premier	ads_datadisplay, ads_drc, ads_layout, ads_schematic, dg_passives, mom_adv_composer, mom_opt, mom_vis, momentum, mom_obj, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8822L	Agilent Ptolemy Fixed Point Analysis	sim_fixedpoint
E8823L	Agilent Ptolemy Simulator	sim_systime
E8824L	Statistical Design	sim_statistics
E8825L	Digital Filter	sim_dfilter
E8827L	Advanced Comms Models	mdl_adv_comm
E8850L	Communication System Designer (node locked only)	ads_datadisplay, ads_lite, mdl_systemlib, sim_syslinearlite
E8851L	Communications System Designer Pro	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_adv_comm, mdl_systemlib, sim_dfilter, sim_fixedpoint, sim_statistics, sim_syslinear, sim_systime, sim_usermodels

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E8852L	Communications System Designer Premier	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_ant_array, mdl_ant_cdma, mdl_ant_gsm, mdl_ant_wcdma, mdl_adv_comm, mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_systemlib, sim_dfilter, sim_fixedpoint, sim_hdl_cosim, sim_statistics, sim_syslinear, sim_systime, sim_usermodels
E8853L	RF System Simulator	sim_syslinear
E8854L	RF Systems Models	mdl_systemlib
E8856L	Antenna & Propagation Models	mdl_ant_array, mdl_ant_cdma, mdl_ant_gsm, mdl_ant_wcdma, mdl_antenna, mdl_propagation
E8857L	CDMA Design Library	mdl_ant_cdma, mdl_antenna, mdl_cdma
E8859L	GSM Design Library	mdl_ant_gsm, mdl_antenna, mdl_gsm
E8866L	HDL co-sim for Agilent Ptolemy	sim_hdl_cosim
E8868L	DTV Design Library	mdl_dtvtrans
E8869L/TBL	Mobile WiMax Wireless Library	mdl_wimax_mobile, mdl_adv_comm
E8870L/TBL	Fixed WiMax Wireless Library	mdl_wimax_fixed, mdl_adv_comm
E8871L/TBL	802.11n Wireless Library	mdl_802_11_n, mdl_adv_comm
E8872L	UWB Design Library	mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_ultrawideband, mdl_adv_comm
E8873L	TD-SCDMA Design Library	mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_tdscdma
E8874L	WLAN Design Library	mdl_antenna, mdl_wlan, mdl_propagation
E8875L	3GPP W-CDMA Design Library	mdl_ant_array, mdl_ant_wcdma, mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_wcdma3g
E8877L	CDMA2000-compliant Design Library	mdl_ant_cdma, mdl_antenna, mdl_cdma2k
E8878L	CDMA1xEV Design Library	mdl_1xev
E8879L	EDGE Design Library	mdl_ant_gsm, mdl_antenna, mdl_edge
E8881L	Linear Simulator	sim_linear
E8882L	Harmonic Balance Simulator	sim_harmonic
E8883L	Circuit Envelope Simulator	sim_envelope
E8884L	High Frequency Spice	sim_transient
E8885L	Convolution Simulator	sim_convolution
E8886L/TBL	Verilog-A Compiler	sim_veriloga
E8887L/TBL	HSUPA Design Library	mdl_hsupa, mdl_wcdma3g, mdl_adv_comm, mdl_ant_array, mdl_ant_wcdma, mdl_antenna, mdl_propagation
E8888L	RFIC Designer Pro	ads_datadisplay, ads_schematic, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_transient
E8889L	RFIC Designer Premier	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_systemlib, sim_convolution, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, sim_transient, sim_usermodels
E8890L	Analog Model Development Kit	sim_usermodels
E8894L	RFIP Encoder	ads_encoder
E8900L	Design Environment	ads_schematic
E8901L	Data Display	ads_datadisplay
E8902L	Layout	ads_layout
E8903L	IGES Translator	trans_iges
E8904L	GDSII Translator	trans_gdsii
E8905L	DXF Translator	trans_dxf_hier
E8906L	Gerber & DXF Translator	trans_dxf_flat, trans_gerber
E8907L/TBL	ADS Layout Design Rule Checker	ads_drc

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E8909L	Layout Translator Bundle	trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber, trans_iges
E8910L	Microwave Circuit Designer (node locked only)	ads_datadisplay, ads_schematic, sim_harmonic, sim_linear
E8911L	Microwave Circuit Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8912L	Microwave Circuit Designer Premier	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_systemlib, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, sim_usermodels
E8914L	Physical Designer Pro	ads_drc, ads_layout, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8915L	Physical Designer Premier	ads_drc, ads_layout, mom_opt, mom_vis, momentum, mom_obj, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8917L	Gerber File Importer	trans_gerber_union
E8919L	Momentum Circuit Designer	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, momentum, mom_obj, sim_linear
E8920L	Momentum EM Bundle	momentum, mom_obj, mom_opt, mom_vis
E8921L	Momentum Planar EM Simulator	momentum, mom_obj
E8922L	Momentum Visualization	mom_vis
E8925L	Momentum Optimization	mom_opt
E8926L	Advanced Model Composer	mom_adv_composer
E8933L/TBL	WiMedia Wireless Library	mdl_wimedia, mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_adv_comm
E8940L	RF Designer (node locked only)	ads_datadisplay, ads_lite, sim_linearlite
E8942L	RF Board Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_rfelements, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8943L	RF Board Designer Premier	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_multilayer, mdl_rfelements, mdl_systemlib, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8950L	RF Passive Circuit Models	mdl_rfelements
E8951L	Multilayer Interconnect Models	mdl_multilayer
E8970L	RFIC Dynamic Link for Cadence	trans_idf
E8971L	ADS Bundle License - Linear	pb_ak1
E8972L	ADS Bundle License - Linear-Layout	pb_ak2
E8973L	ADS Bundle License - Linear-EM-Layout	pb_ak3
E8974L	ADS Bundle License - Linear-Non Linear	pb_ak4
E8975L	ADS Bundle License - Linear-Non Linear-Layout	pb_ak5
E8976L	ADS Bundle License - Linear-Non Linear-EM-Layout	pb_ak6
E8977L	ADS Bundle License - Linear-Non Linear-SPICE	pb_ak7
E8986L	High Speed Analog Designer	ads_schematic, ads_datadisplay, sim_linear, sim_transient, dg_passives

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E8987L	High Speed Analog Designer Pro	ads_schematic, ads_datadisplay, ads_layout, sim_linear, sim_transient, sim_convolution, sim_statistics, mdl_rfelements, momentum, mom_obj, mom_vis, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber, trans_iges, mdl_multilayer, dg_passives
E8988L	High Speed Analog Designer Premier	ads_schematic, ads_datadisplay, ads_layout, sim_linear, sim_transient, sim_convolution, sim_harmonic, sim_statistics, sim_systime, sim_usermodels, mdl_rfelements, momentum, mom_obj, mom_vis, mom_opt, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber, trans_iges, mdl_multilayer, mdl_systemlib, dg_passives, dg_filter
E9010L	ADS Signal Integrity Designer	pb_si_designer
E9011L	ADS Signal Integrity Designer Pro	pb_si_designer_pro
W1100L/TBL	RFDE Wireless Pro Seat	rfde_wireless
W1101L/TBL	RFDE Wireline Pro Seat	rfde_wireline
W1102L/TBL	RFDE Premier Seat	rfde_premier
W1104L/TBL	RFDE Circuit Integration	rfde_environment, rfde_circuit_int, ads_datadisplay, trans_idf, sim_veriloga
W1105L/TBL	RFDE Momentum Integration	rfde_environment, rfde_momentum_int, ads_datadisplay
W1106L/TBL	RFDE Momentum Suite	rfde_environment, rfde_momentum_int, ads_datadisplay, momentum, mom_obj, mom_vis
W1107L/TBL	RFDE Wireless Test Bench	rfde_wtb_int
W1108L/W1108TBL	RFIC ADS and RFDE Combo	ltp_rfic_rfde_combo
W1111L/W1111TBL	Integrated Deign ADS and RFDE Combo	ltp_intdesrfde_combo
W1120L/TBL	Ptolemy AMSD Integration	rfde_amsd_int, rfde_environment
W1121L/TBL	Ptolemy AMSD Suite	rfde_amsd_int, rfde_environment, sim_systime, ads_datadisplay
W1421L/TBL	Genesys Synthesis for ADS	ads_circuit_synthesis
W1422L/TBL	RF Architect for ADS	ads_rf_architect
New Products: E4687, E8933		
Date Change	What Changed	
10/27/2006	mdl_propagation added to E8887L product	

7-7 参考：FLEXnet ライセンス発行の仕組み(lmgrd、agileesofdの動作)

lmgrd、agileesofd とアプリケーション・ソフトウェアの関係、および、ライセンスの受け渡し手順を説明します。

以下の手順でライセンスの授受が行われます。この手順のなかで、どれか1つでも正常に動作しない場合は、ライセンスが正常に提供できません。もしアプリケーション・ソフトウェアが正常に動作しない場合は、以下の各項目をご確認ください。

1. ライセンス・ファイル(license.lic)を読み込む。

環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` で指定されたライセンス・ファイル(license.lic)を読み込みます。ライセンス・ファイルのパスではなく、「ポート番号@ホスト名」で指定をしている場合は、そのホストに LAN 経由でアクセスして、ライセンス・ファイルを読み込みます。

よって、環境変数 `AGILEESOFD_LICENSE_FILE` でライセンス・ファイルを正確に指定する必要があります。

環境変数は、UNIX / Linux の `env` 命令で確認ができます。

2. ライセンス・ファイル(license.lic)から、SERVER 行のホスト名と TCP/IP ポート番号を入手する。

ライセンス・ファイルのパスで指定を行っている場合は、ライセンス・ファイル(license.lic)を一般ユーザで参照する必要がありますので、一般ユーザでも `READ` の権利があることが条件です。また、`SERVER` 行のホスト名と `TCP/IP` ポート番号が正しく設定されていることは、言うまでもありません。

3. 入手したホスト名と TCP/IP ポート番号を使い、ライセンス管理デーモン lmgrd にコンタクトする。

ネットワークが正常に動作していることが最低限の条件です。

- ホスト名で `ping` 命令が通じることをご確認ください。
- 定義されている `TCP/IP` ポート番号が、そのネットワーク上で使用されていないことも条件の一つです。
- `NIS` や `DNS` を使用している時は、`NIS` や `DNS` が正常に起動していることをご確認ください。

lmgrd と通信する内容は、「ベンダ・デーモン agileesofd と話がしたい」という内容です。つまり、lmgrd は直接ライセンスを提供しているわけではないということになります。もちろん、lmgrd が正常に動作していることも必須です。

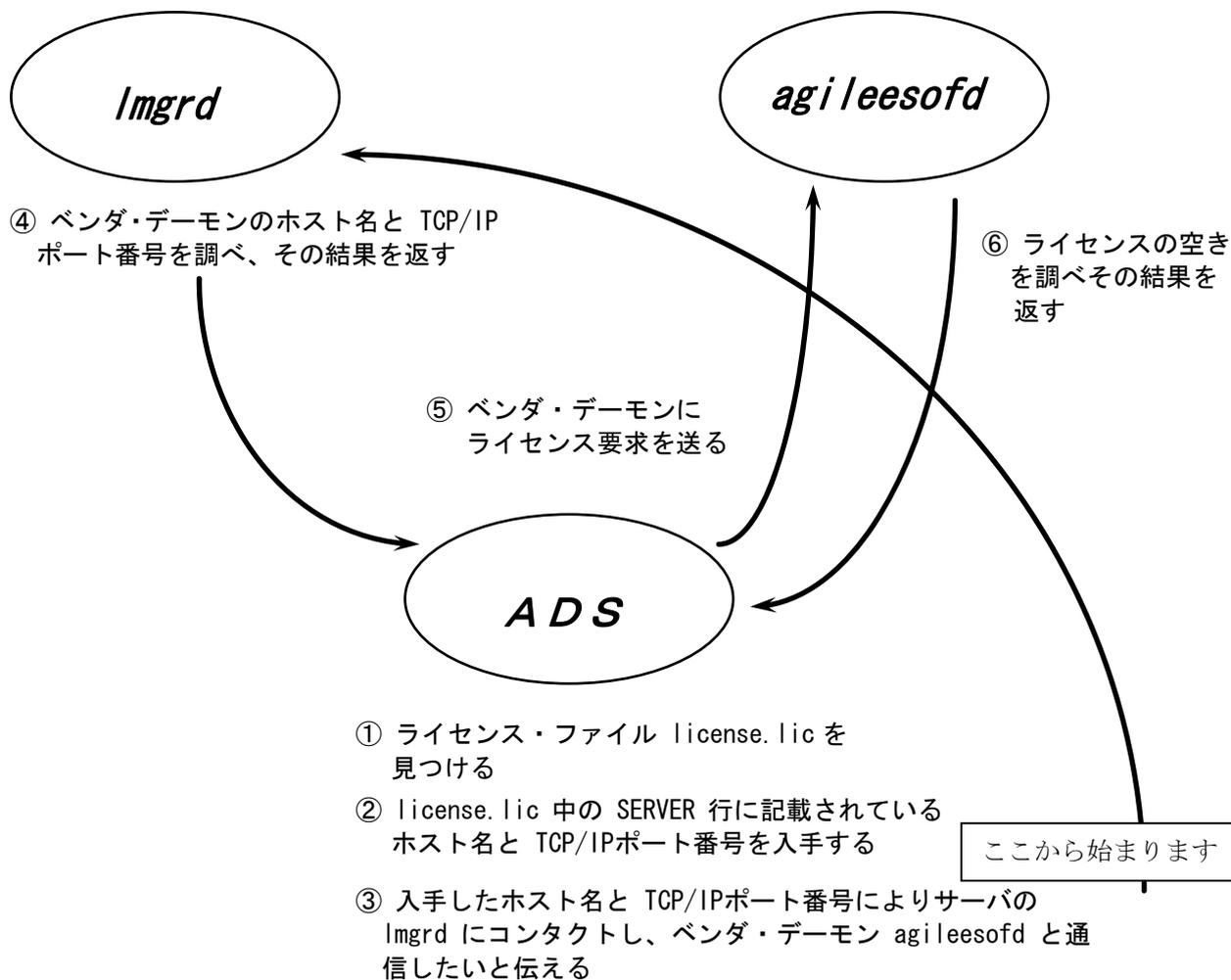
4. lmgrd は、ベンダ・デーモン agileesofd のホスト名と TCP/IP ポート番号を調べ、その結果を返す。

5. lmgrd から教えられたベンダ・デーモン agileesofd のホスト名と TCP/IP ポート番号から、agileesofd にコンタクトする。

agileesofd と通信する内容は、「ライセンスをください」という内容です。つまり、agileesofd がライセンスの管理を行っているということです。また、lmgrd が agileesofd にライセンス要求を出すのではなく、アプリケーション・ソフトウェアから直接 agileesofd にライセンス要求を出すという点もご記憶ください。もちろん、agileesofd が正常に動作していることが条件です。

6. ベンダ・デーモン agileesofd はアプリケーション・ソフトウェアからのライセンス要求により、使用可能なライセンスを調べ、もし可能であればアプリケーション・ソフトウェアに直接与える。

使用可能なライセンスがあることが条件です。



上図は、前ページで説明したライセンスの受け渡し手順を、図で表したものです。

7-8 インターネット (WWW) を利用した情報提供のお知らせ

弊社では、インターネット(WWW)を利用して、お客様にさまざまな情報を提供しております。ここでは、そのアクセス方法と、簡単な内容のご紹介をいたします。また、関連他社の情報もお知らせします。

[1] EEsof EDA 製品の日本語ホームページ

アドレス(URL) http://eesof.tm.agilent.com/index_jp.html

内容 EEsof EDA 製品(ADS, IC-CAP およびそのオプション)専用のサイトです。これらの製品の最新情報が記載されています。また、これらの製品のパッチファイルも入手可能ですし、不具合情報も検索できます。日本語です。サイトはアメリカ合衆国にあります。

[2] EDA テクニカルサポート 日本語サポートWeb

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

[3] アジレント・テクノロジー (アメリカ合衆国) のホームページ

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/>

[4] アジレント・テクノロジー (日本) のホームページ

アドレス(URL) <http://www.agilent.co.jp/>

[5] Macrovision (旧社名 GLOBEtrotter) 社のホームページ

アドレス(URL) <http://www.macrovision.com/>
<http://www.macrovision.com/japan/>

内容 Macrovision 社のサイトです。この会社は、FLEXnet を供給しています。頻度の多いご質問とその回答(FAQ)等を検索できます。このホームページの詳細は、Macrovision 社にお問い合わせください。

7-9 Agilent EEsof ナレッジセンターのご案内

Agilent EEsof ナレッジセンターは、弊社 EDA ソフトウェアに関する Web 上のナレッジ・データベースです。

保守契約をお持ちのお客様のみ、お使いいただくことができるサポート・サービスです。

24 時間いつでも、ウェブ・ブラウザを用いてアクセスし、ユーザの皆様が弊社 EDA 製品を使う上での疑問がその場で解消できるよう継続的に整備・アップデートされ続けています。是非ご活用下さい。

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/find/eesof-kc>

残念ながら保守契約をいただいていないお客様(もちろん保守契約をいただいているお客様も)は、以下をご活用下さい。アプリケーション・ノートなどをご利用いただけます。

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan> (日本語サポート web)

<<< ナレッジセンターのコンテンツ・リスト >>>

<日本語コンテンツ>

- ① **Support Document** : よくあるご質問と、その回答。
- ② **Support Example** : 回路設定例や技術文書のダウンロード。
- ③ **日本語オンライン・マニュアル** : 一部マニュアルを日本語化。
- ④ **My EEsof ナレッジセンター (Online Support)** : EDAテクニカルサポートを Web上からご利用いただけます。E-mail/電話/FAXに加え、第4の質問手段としてご活用下さい。

<英語コンテンツ>

- ① **Product Documentaion** : オンライン・マニュアル。
- ② **Application Examples** : 製品添付のサンプル・プロジェクト。
- ③ **ダウンロード** : Add On、Update Release / MSR、HotFix 等のダウンロード。
- ④ **不具合報告** : 製品の不具合情報を一部公開しています。
- ⑤ **フォーラム(英語)** : ユーザと Agilent エンジニアのコミュニケーションの場です。
- ⑥ **技術セッションと e-ラーニング** : オンライン・トレーニング。費用は保守契約の範囲内で、ビデオ・アーカイブもダウンロードいただけます。

※ ナレッジセンターのご利用には、初回ログイン時にユーザ情報の**ご登録が必要**となります。詳細は次ページで記述しております。

Agilent EEsof ナレッジセンター My EEsof ナレッジセンター
EEsof Knowledge Center - Japanese > Document > Support Document > ADS > シミュレーション > アナログRF > アンテナ (Trans&RB6m)

ADS 1.01-2003C : 発振周波数以外の周波数 (高調波など) における位相雑音を見たい。

ドキュメント ID : 169860 閲覧 : 105
最終更新日 : 07-APR-04 ユーザ評価 : 4 (7 vote) (この文書を評価する)
カテゴリ : ADS 印刷用ページ
キーワード : oscillator frequ... Save as FAVORITE

質問
発振器で、発振周波数以外の周波数 (高調波など) における位相雑音を見たい。

回答
このような位相雑音解析の設定を行うには NoiseCon コンポーネントを扱います。
NoiseCon コンポーネントを配置し、HB の NoiseCons ボックスをチェックして NoiseCon のインストール名をリストに Add してください。
NoiseCon の Nodes タブで観測するノードを指定し、PhaseNoise タブで Phase Noise Type を Phase noise spectrum とし、キャリア周波数を指定します。そのキャリア近傍の位相雑音での解析が行われます。位相雑音の解析が有効になっていると、Freq タブの Noise Frequency の解析が真になります。連帯の雑音解析では、ここで指定した周波数そのものが解析雑音周波数になりますが、位相雑音解析の場合はこの周波数からオフセット周波数とみなされます。
例えば次の設定例は、位相雑音を解析するキャリア周波数として 60 MHz を選択し、10 Hz から 1 MHz の周波数オフセットまで雑音を観測することを意味します。

HB NOISE CONTROLLER
NoiseCon
NC1
NLNoiseStart=10 Hz
NLNoiseStop=1 MHz
NLNoiseDec=6

<<< ナレッジセンターへのご登録方法 >>>

ご登録には 2 つの方法があります。

① ナレッジセンターの登録フォームに直接記入する方法

1. ナレッジセンターへアクセスします：
<http://www.agilent.com/find/eesof-kcj>
2. 「登録」リンクをクリックします。
3. 登録ページにて必要な情報を入力し、**[Register Me!]** ボタンをクリックします。
(記入は英語にてお願いいたします)
Username にはログイン用のユーザ名を入力します。
License Information には、**システム・ハンドル番号**、**CPU-ID**、または、**ハードウェア・キー番号 (FLEXid)** を入力します。
Online Support をチェックすると、My ナレッジセンターの認証リクエストを行うことができます。
4. 3. で登録した電子メール・アドレスに、**パスワード**が届きます。
5. 再度上記サイトへアクセスし、「ログイン」リンクをクリックして、**Username** と **パスワード** を用いてログインしてください。(パスワードは変更可能)

The screenshot shows the registration form with the following fields and options:

- Contact Information:** First name, Last name, Company, City, Country (dropdown), Phone, Email, Username (highlighted with a red circle).
- License Information:** CPU ID / Hardware Key (highlighted with a red circle).
- Online Support:** A checkbox labeled "Yes!" with the text "Please enable access to view and submit cases to Agilent EEs of Technical Support through My EEs of Knowledge Center. More info. By checking this box you agree to the terms of use." (checked).
- OK to Send Information?:** Two checkboxes for "Receive updates about EEs of Knowledge Center" and "Receive monthly email with product tips and application info" (both checked).
- Buttons:** "Register Me!" and "Cancel".

② EDAテクニカルサポートご利用の際に、登録をご依頼いただく方法

上記 ① の登録フォーム入力項目のうち、**御社名**、**ご連絡先**、**システム・ハンドル番号**などが過去のお問い合わせ時と「**同じ**」お客様は、EDAテクニカルサポート受付窓口、または担当中のサポートエンジニアにより、お客様をナレッジセンターへご招待させていただきます。ご要望の旨ご連絡ください。手順は下記の通りです。

1. EDAテクニカルサポートへ、登録をご依頼下さい。
2. ナレッジセンターへの **Invitation 電子メール (英語)** をお送りします。
3. 2. の電子メール内の URLアドレスをクリックしていただき、**ユーザ名**など、追加情報を入力して「送信」します。
4. 同じ電子メール・アドレスに、ナレッジセンターの**パスワード**が届きます。
5. ナレッジセンターへアクセスし、「**ログイン**」リンクをクリックして、**ユーザ名**と**パスワード**を用いてログインしてください。(パスワードは変更可能)

<http://www.agilent.com/find/eesof-kcj>

<<< ナレッジセンターのご利用開始 >>>

ナレッジセンターのコンテンツは「Agilent EEsof ナレッジセンター」タブ、および、「My EEsof ナレッジセンター」タブからご利用いただけます。

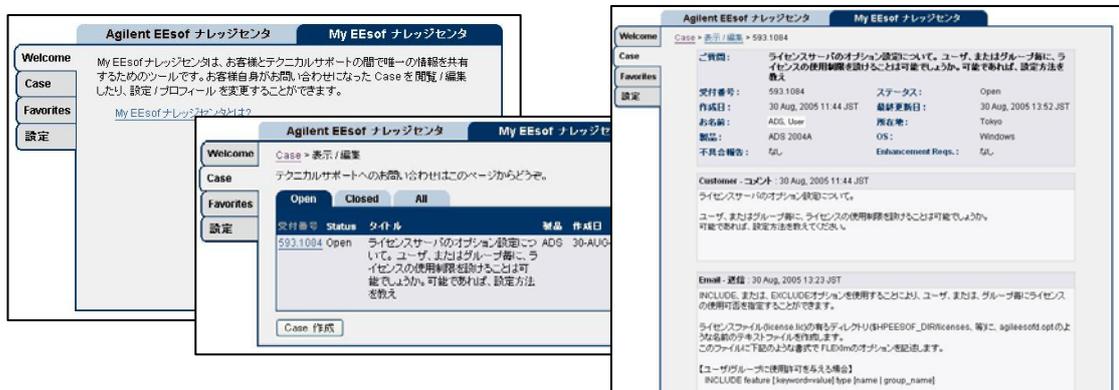
「Agilent EEsof ナレッジセンター」タブでは、ADS/RFDE/ICCAP 等の製品別、機能別に分類された階層リンクを辿ることで、各コンテンツをご利用ください。

キーワード検索機能もございます。(日英、AND 検索可) ただし、日本語ナレッジセンター内の検索では、英語ナレッジセンター内の「Support Document」「Support Example」の検索ができないため、その場合は英語版ナレッジセンター(下記 URL アドレス)内の検索をお使いください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-knowledgecenter>



「My EEsof ナレッジセンター」タブでは、製品に対するお問い合わせ、不具合報告の投稿と、そのサポート履歴等を閲覧することができます。



※ なお、My EEsof ナレッジセンターのご利用には、ナレッジセンター (データベース) をご利用いただいている方でも、別途利用条件の確認と同意作業が必要となります。

詳細については、下記 URL アドレスの資料(PDF 形式)をご参照ください。

http://eesof.tn.agilent.com/support/about_myKC_J.pdf

8章 コードワード発行依頼と EDA テクニカルサポートご利用案内

8-1 コードワード発行依頼の方法

「Agilent EEsof EDA コードワード発行依頼 FAX シート」に必要事項を正確に記入し、FAX または E-Mail でお送りください。以下、ご記入の際に必要な情報の取得法・ご注意・記入法を示します。

[1] ソフトウェアの情報

	記入例
システム・ハンドル(必須)	9512-12345C
製品名またはモデル番号	ADS
ソフトウェアのバージョン	2006A
ライセンスの形態	ノードロック、フローティング・ライセンス

[2] コンピュータの情報

パラメータの種類	使用 OS	コマンド	例
モデル名	Windows®	無し	HP Vectra XA
	HP-UX Solaris	uname -m	HP9000/755 SUN SPARC Station 10
	Linux	無し	HP Vectra XA
コンピュータ ID	Windows® Linux *5)	ハードウェア・キーに記載 *1)	9-52498400
	HP-UX	uname -i	2014460207
	Solaris	hostid	544158c4
	Linux *5)	LAN ID を使用	00:04:75:8D:72:77
LAN ID (LLA, MAC アドレス)	Windows®	ipconfig /all *2)	00-01-03-01-DF-3A
	HP-UX	lanscan *2)	0x080009490BE7
	Solaris	ifconfig -a *3)	8:0:20:12:67:ca
	Linux	ifconfig	00:04:75:8D:72:77
ホスト名 *4)	Windows®	hostname	edahost1
	HP-UX Solaris Linux	hostname	edahost2

*1) Windows® PC の場合はハードウェア・キー番号をご記入ください。

*2) Windows®, および、HP-UX では、通常 LAN ID に対してライセンスを発行することはできません。

*3) 一般ユーザでは、LAN-ID は表示されない場合があります。スーパー・ユーザでご確認ください。

*4) 製品バージョンとライセンス形態によって、必要ではない場合もあります。

*5) Linux の場合、LAN-ID とハードウェア・キー(USB 接続型のみ。製品型番 E8900K-020)の何れかに対し、ライセンスを発行することができます。

コードワードが記載されている紙がございましたら、必ず一緒に FAX でお送りください。また、“license.lic”、“license.dat” ファイルも必ず一緒に FAX でお送りください。

[3] ご記入にあたってのお願い

- 1) 文字は大きく、はっきりとご記入下さい。特に、数字・アルファベットは、はっきりご記入下さい。アルファベットは筆記体をご使用にならないで下さい。また、数字とアルファベットの区別や、アルファベットの大文字と小文字の区別を明確にお願いします。

紛らわしい文字の例

数字の0(ゼロ)と、アルファベットのO(オー)
大文字のCと、小文字のc
小文字のl(L)と、小文字のe(E)

- 2) 黒色のペン、または鉛筆を使ってご記入下さい。青色のペンをご使用にならないで下さい。
- 3) 会社名は略称ではなく、正式名を(日本語、英語とも)ご記入下さい。

会社名の書き方

良い例	アジレント・テクノロジー 株式会社 Agilent Technologies Japan, Ltd.
悪い例	アジレント (株) Agilent

- 4) お名前はフルネームでご記入下さい。
- 5) ファイル、および、UNIX / Linux の命令の実行結果をプリンタに出力したり、ファイルに出力する例は次の通りです。

ファイル・プリンタへの出力例 (HP-UX)

ファイル→プリンタへ出力	\$ lp /iccap2001/licenses/license.dat
UNIX / Linux 命令の実行結果 →プリンタへ出力	\$ /etc/lanscan lp
UNIX / Linux 命令の実行結果 →ファイルへ出力	\$ /etc/lanscan > /tmp/FILENAME

- 6) FAX で送信する場合、紙の周囲に書かれている文字が欠けることがあります。できれば、紙の**周囲(上下左右) 3cm には、何も記入しない**で下さい。特に、プリント出力された UNIX / Linux コマンドの実行結果等を FAX で送信する場合はご注意ください。

Agilent EEsof EDA ADS/RFDE 2006A ライセンス(コードワード)発行依頼シート

アジレント・テクノロジー(株)カスタマコンタクトセンター サポートアグリーメントグループ EDAコードワード発行受付行

FAX 0120-802-016 TEL 0120-421-345 (計測お客様窓口)

E-MAIL: japan_codeword@agilent.com

※各ライセンスサーバごとに別々の用紙でご依頼下さい。

◇E-mailでご依頼の場合:

下記 EDA テクニカルサポート日本語サポート WEB のコードワード発行依頼ページより専用フォーマットをコピーし、ご依頼ください。

http://eesof.tm.agilent.com/support/cw_req.jp.html

FAX送信枚数

(本表紙を含む)

枚

◇FAXでご依頼の場合: 本シートに必要事項をご記入の上、上記FAX番号までお送り下さい。

送信日

月

日

①システムハンドルをご記入下さい。※この番号は、通常発送伝票左上の S/H～に記載されております。

システムハンドル番号	S/H
------------	-----

②今回ライセンスを発行する、ライセンス・サーバーのコンピュータIDをご記入下さい。

	コンピュータID	OS	ホスト名
ライセンス・サーバー		<input type="checkbox"/> HP-UX <input type="checkbox"/> Solaris <input type="checkbox"/> Linux (RedHat/SUSE) <input type="checkbox"/> 64bit 版 OS 使用 <input type="checkbox"/> Windows <input type="checkbox"/> 64bit 版 OS 使用	

※コンピュータID等の確認方法については、別紙をご参照ください。

※OSについては、該当するもの(使用予定も含む)全てにチェックを付けてください。

■ADS/RFDE2006A コードワード発行時は、プラットフォーム(ハードウェア)の変更を無料で承っております。

◆ライセンス・サーバーの変更 [あり ・ 無し]

※変更ありの場合 [旧ライセンス・サーバーのコンピュータID: _____]

◆ノードロック・クライアントの変更 [あり ・ 無し]

※変更ありの場合 [旧クライアントのコンピュータID: _____]

→ [新クライアントのコンピュータID: _____]

※上記に入りきらない変更内容等は、恐れ入りますが、下記備考欄にご記入下さい。

会社名:

ご所属:

ご住所: (〒 -)

お名前:

電子メール アドレス:

電話番号:

内線() FAX:

※現在登録済みの以下の担当者情報を今回のコードワード送付先に変更したい場合はチェックを入れてください。

保守契約担当者 ソフトウェア送付先担当者 コードワード管理担当者

ライセンスの送付手段 電子メール FAX

個人情報の取り扱いについて

弊社は、お客様からご提供いただく個人情報を、お客様との取引を遂行し、お客様へ連絡をし、お客様へのサービスや特典に関する情報を更新するなど、お客様により良いサービスを提供するためにのみ使用いたします。詳細は、弊社の「カスタム・プライバシー・ステートメント」(<http://www.agilent.co.jp> から「プライバシー」を選択)をご覧ください。

*** 備考欄 *** (マシン変更内容詳細/バックアップサーバー情報/ご質問等がございましたら、こちらにご記入下さい)

v.2006.061113

◎ ライセンスサーバーに関する記入項目について

※「コンピュータ ID」とは、以下を指します。

UNIX の場合： サーバーの HostID、または、CPU-ID

Linux の場合： LAN-ID、または、ハードウェアキーの FLEXid

Windows の場合： ハードウェアキーの FLEXid、または、LAN-ID

※「コンピュータ ID」は、通常以下の方法で調べることができます。

HP-UX: /usr/bin/uname -i コマンド → 10 桁の 10 進数 例) 2001012345

Solaris: /bin/hostid コマンド → 8 桁の 16 進数 例) 83c4abcd

Linux: [LAN-ID] /sbin/ifconfig コマンド → 12 桁の 16 進数 例) HWaddr 00:07:40:C8:12:34

Windows / Linux: [FLEXid] ハードウェアキー本体ラベルに記載 → 例) FLEXid=9-08C99148

Windows: [LAN-ID] コマンドプロンプトで ipconfig /all 例) Physical Address 00:07:40:C8:12:34

※「ホスト名」は特に指定していない場合は、記入不要です。

※バックアップサーバーを指定されている場合は、備考欄にご記入ください。

※USB 接続ハードウェアキーを Windows/Linux 両方で使用される場合は、Linux 用として発行した上で、

Linux、Windows それぞれの OS 上で、FLEXlm ライセンスサーバーの設定が必要となります。

(ライセンスファイルをライセンスフォルダに置くだけでは動作しません)

8-2 EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX シートの使い方

- [1] EDA テクニカルサポートへお問合せの際は、お客様のシステム・ハンドル番号を必ずお知らせください。システム・ハンドル番号がわからない場合は、受付できない可能性があります。
- [2] 「EDA テクニカルサポート テクニカルサポート依頼 FAX シート」に必要事項と、継続質問の場合は受付番号(CALL ID : 例 301.2345)を記入してください。
- [3] 離席されている場合が多い時は、時間指定していただくと便利です。
- [4] FAX シートをご記入いただく時に、次の問題確認項目を参考にさせていただくと、より早い回答を行うことができます。
- 1) 何をしようとしていましたか。
 - 2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
 - 3) 何が起きていますか。
 - 4) どんなエラー・メッセージ、エラー番号が出ていますか。
 - そのエラー・メッセージは OS 側のものですか、それともソフトウェア側のものですか。
 - そのエラー・メッセージはどこに表示されていますか。データベースで検索するため、エラー・メッセージは正確にお知らせください。
 - 5) この問題はいつから発生していますか。
 - 6) この問題は時々発生しますか、または必ず発生しますか。
 - 7) 時々発生する場合は、どんな時に発生しますか。
 - 8) 今まで正常に動作していましたか。または今回が初めてのご使用ですか。
 - 9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定等)
 - 10) 既に何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。
- [5] 参考
- 1) システム・ハンドル (システム ID) 番号とは?
お客様ごとに割り当てられた、お客様固有の番号。ユーザ ID 番号のことです。
EDA テクニカルサポートにご質問される時に、必ず受付にお伝えください。
システム・ハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。(銀行の暗証番号のようなものです。)
この場合、EDA テクニカルサポートからの連絡は保証されません。必ずシステム・ハンドル番号を受付にお伝えください。
(システム・ハンドル番号の例 : 8123-71512、05-1924378、など)
 - 2) CALL ID (受付番号) とは?
ご質問ごとに割り当てられる番号。
EDA テクニカルサポートにご質問をいただいた時に、ご質問ごとに CALL ID(受付番号)を発行します。
(CALL ID の例 : 301.2345)
 - 3) システム名、バージョン
システム名、バージョンは正確にお伝えください。
(システム名の例 : MD S (85150B), I C - C A P (85190A))
コンピュータ名と UNIX / Linux のバージョンは、次のコマンドで確認できます。
uname -a

8-3 EDAテクニカルサポートを有効にご利用いただくために

EDA テクニカルサポートをより有効にご利用いただくために、
お客様にお願いしたいことをまとめてみました

[1] より早くご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) お客様のシステム・ハンドル番号は正確にお伝えください。
アジレント・テクノロジーでは、お客様のシステム・ハンドル番号をデータベース化しております。よりスムーズなご回答のために、ご質問受付時にお客様のシステム・ハンドル番号をお伺いしております。
システム・ハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。
- 2) 製品名は正確にお伝えください。
EDA テクニカルサポート受付では、1か月に約数千件のご質問を承っております。
製品名を正確にお伝えいただけませんと、間違った担当者（エンジニア・グループ）にご質問が回り、ご回答が遅れる場合があります。そのため、ご質問の製品名は正確にお伝えください。
(製品名の例：ADS, IC-CAP)
- 3) 同姓（同じお名前）の方が複数人いらっしゃる時は、フルネームでお願いします。

[2] より正確なご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) エラー・メッセージは正確にお伝えください。
EDA テクニカルサポートでは、世界中から寄せられたご質問をデータベース化しております。エンジニアはこのデータベースを参照し、既に解決した問題であれば迅速にお客様のご質問に対応することができます。データベースの検索は、エラー・メッセージ等のキーワードで行いますので、正確にエラー・メッセージをお伝えください。
- 2) UNIX / Linux と製品のバージョンは正確にお伝えください。
HP-UX の場合、バージョンは小数以下2桁まであります。
良い例：HP-UX 9.05, MDS B. 05.02
悪い例：HP-UX 9.0, MDS B. 05
バージョンを正確にお伝えいただけませんと、正確なご回答ができない場合があります。

[3] 1回のお電話でご質問を解決するためにお願いしたいこと

- 1) FAXをご活用ください。
図（システムの構成、回路図、グラフ）等は、FAX をご活用いただくとご質問内容がより正確にエンジニアに伝わります。また、エラー・メッセージ等も FAX でお送りいただくと、データベースの検索がよりスムーズに行えます。
- 2) 離席されている場合が多い時は、お電話の時間指定をしてください。

[4] その他、お願いしたいこと

- 1) 受付番号(CALL ID)は控えておいてください。
EDA テクニカルサポートにご質問をいただいた時に、CALL ID を発行しております。この CALL ID はご質問ごとに割り当てられる番号ですので、控えておいてください。お客様からのご質問はすべてデータベース化され、保存されますので、再度ご質問される時は CALL ID を受付にお伝えください。
- 2) EDA テクニカルサポート契約の更新は、1年ごとになります。ご契約いただいた EDA テクニカルサポートサービスは、1年ごとの更新となります。

EDA テクニカルサポート サポート依頼 FAXシート

宛先FAX： 0120-890-119

EDA テクニカルサポート受付 行

依頼日： 年 月 日

新規質問 継続中の質問 (受付番号)

希望回答方法 (電話 FAX 電子メール 指定なし)

文字(特に数字とアルファベット)は大きくはっきりとご記入ください。

システムハンドル： (←必ずご記入ください)

貴社名：

ご所属部署名：

(フリガナ)

お名前：

電話番号： 内線番号

FAX番号：

電子メール・アドレス：

問い合わせ製品名： 製品のバージョン：

コンピュータ機種名：

OS名： (OSバージョン：)

お問い合わせ内容 (エラー・メッセージがあれば必ずご記入ください) 添付資料 枚